

# **MONOLITH**

---

**Princeton Technology ,Ltd..**

**PNS30**

**ユーザマニュアル**

ネットワークアタッチドストレージ  
PNS30  
ユーザマニュアル(F/W Version 4.3.0)



©著作権 2007 年 プリンストンテクノロジー株式会社 無断転載禁ず

2007 年 3 月 30 日

### テクニカルサービス

テクニカルサービスおよびテクニカルサポートを受けるには、登録シートにある連絡先の詳細をご覧ください。

### 限定保証

プリンストンテクノロジー株式会社は、いかなる場合にも、直接、間接、特別、付随的、または結果的なソフトウェアまたはその文書による損害に対して、製品の価格を上回る責任を負いかねます。プリンストンテクノロジー(株)はその製品についての返金には応じません。プリンストンテクノロジー(株)は、その製品、あるいはこの文書と付随するすべてのソフトウェアの内容または使用に関して、明示的、暗黙的、または法的な保証または表示を行わず、特定の目的に対する品質、性能、市場性、適合性について責任を負わないことを明示します。プリンストンテクノロジー(株)は、いかなる個人または組織に通知する義務を負うことなく、その製品、ソフトウェア、または文書を訂正または更新する権利を保有します。

### 注意

データの損失を予防するために、定期的にシステムのバックアップを行ってください。  
返金または保守のために、本製品パッケージの構成部品を返送する場合は、輸送に耐えるように入念に梱包してください。梱包が不適切だったために生じた損害は一切補償されません。

## 目次

<b>第 1 章</b>	<b>MONOLITH の概要</b> .....	<b>6</b>
1.1	はじめに.....	6
1.2	パッケージの内容.....	6
<b>第 2 章</b>	<b>MONOLITH の導入</b> .....	<b>8</b>
2.1	ネットワークの設定 .....	8
<b>第 3 章</b>	<b>MONOLITH の管理</b> .....	<b>9</b>
3.1	本製品の管理ページへのアクセス .....	9
3.2	サーバ管理 .....	11
3.3	クイック設定.....	12
3.4	システム設定.....	18
3.5	ネットワーク設定.....	21
3.6	ディスク設定.....	31
3.7	ユーザ管理 .....	40
3.8	ネットワーク共有管理.....	44
3.9	システムツール .....	48
3.9.1	SNMP 設定 .....	48
3.9.2	アラート通知.....	49
3.9.3	再起動/シャットダウン .....	49
3.9.4	ハードウェアの設定 .....	50
3.9.5	UPS.....	51
3.9.6	システムのアップデート .....	52
3.9.7	リモートレプリケーション.....	53
3.9.8	ウイルススキャン.....	57
3.9.9	設定のバックアップ/リストア/リセット.....	61
3.9.10	バックアップエージェント .....	62
3.9.11	自動起動/停止.....	65
3.10	統計&ログ .....	66
<b>第 4 章</b>	<b>MONOLITH へのアクセス</b> .....	<b>67</b>
4.1	MICROSOFT WINDOWS NT 4.0/2000/XP から使う場合 .....	67
	クライアント PC の設定.....	67
	Windows XP からの接続.....	68
	Windows XP : マイネットワークの活用のヒント.....	69
	Windows XP : サーバからのログオフ.....	69
	Windows 2000 からの接続.....	70

Windows でサーバがブラウズできない場合 .....	71
4.2 MICROSOFT WINDOWS 98SE/ME から使う場合 .....	72
クライアント PC の設定 .....	72
Windows 98SE/Me からの接続 .....	72
サーバ接続をドライブに割り当てる .....	74
4.3 APPLE MAC OS X でのご使用の場合 .....	75
4.4 UNIX/LINUX OS を使う場合 .....	81
4.5 NETWARE サービス .....	81
4.6 WEB ブラウザを使う場合 .....	81
4.7 ファイル転送プロトコル (FTP) を使う場合 .....	82
ネットワークプリンタの使い方 .....	84
<b>第 5 章 MONOLITH – 保守 .....</b>	<b>87</b>
サーバの再起動/シャットダウン .....	87
管理者パスワードとネットワーク設定のリセット .....	87
ディスクの故障または異常 .....	88
停電または異常終了 .....	88
付録 A LCD パネル .....	89
付録 B WEB ファイル管理 .....	92
付録 C クイックインストールウィザード .....	100
付録 D AD 認証の設定 .....	108
付録 E 「UNICODE」と「日本語」について .....	115
付録 F WINDOWS VISTA でご使用の際のご注意 .....	116

## 第 1 章 MONOLITH の概要

### 1.1 はじめに

このたびは、MONOLITH(NAS)をお買い上げいただき、ありがとうございます。本製品には、次のような特長があります。

- 平置きと縦置き の 2 つのフォームファクタに対応したデザイン
- VIA Eden 733 MHz/256MB DDR RAM
- 3.5 インチ IDE HDD 2 台
- 最大 500GB のディスク容量
- RAID 0, 1 および JBOD ストレージ管理をサポート
- 10/100/1000 Mbps の高速 Ethernet ポート 2 ポート
- USB ポートによる UPS 管理をサポート
- USB ポートによるプリントサーバ機能をサポート ※対応機種 RICOH G717/G7570 のみ

### 1.2 パッケージの内容

本製品には、次のものが含まれています。

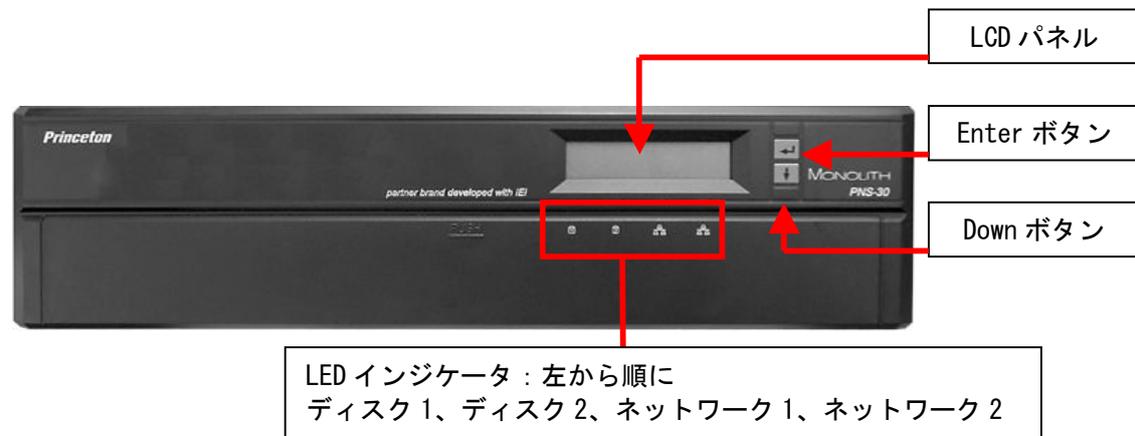
- MONOLITH 本体(スタンドを含む)
- 電源ケーブル
- CAT5e Ethernet UTP ケーブル
- ガイド CD(ユーザマニュアル、クイックインストールウィザードとソフトウェアを含む)

**重要な注意:** 不適切な操作や本製品のディスクの不具合によるデータの損失を防ぐため、定期的にディスクデータのバックアップを行ってください。

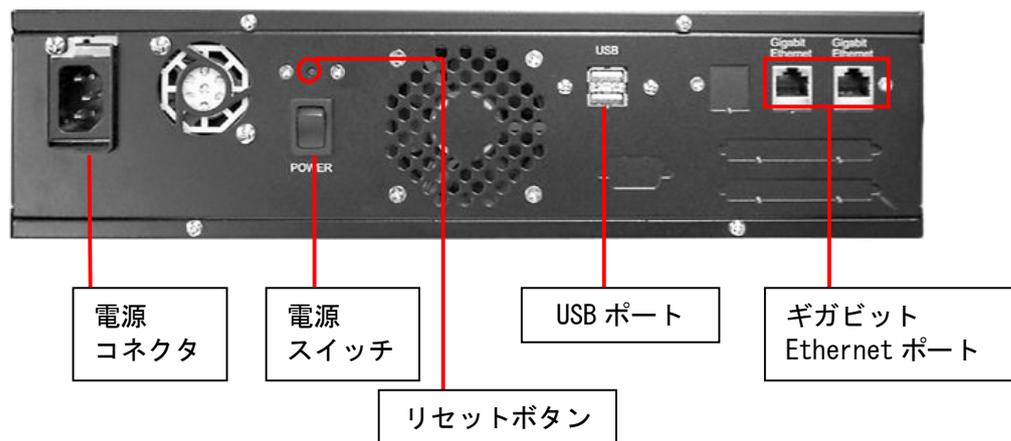
# Princeton Monolith Series

## システムの概要

### 前面



### 背面



## 第 2 章 MONOLITH の導入

### 2.1 ネットワークの設定

本製品は出荷時の初期設定により、DHCP(動的ホスト構成プロトコル)を介してネットワークを検索し、IP アドレスの設定を自動的に検出します。DHCP がサポートされていないネットワークでは、本製品は下記の初期設定を使用します。

IP アドレス: **192.168.0.1**

サブネットマスク: **255.255.255.0**

本製品の起動プロセスが終了すると、LCD パネルに現在の IP アドレス設定が表示されます。

DHCP プロトコルがサポートされていないネットワークの場合は、本製品を最初に使用する前に適切な LAN 設定にする必要があります(LAN 設定が不明の場合は、ネットワーク管理者に連絡してください)。

本製品のネットワーク設定は次の方法で変更できます。

LCD パネルを使用してネットワーク設定を変更します。詳細は付録 A を参照してください。

ガイド CD に入っているクイックインストールウィザードを使用してネットワーク設定を変更します。詳細は付録 C を参照してください。

## 第 3 章 MONOLITH の管理

本製品を導入してネットワークに接続すると、Web ブラウザを使ってサーバを管理できます。

本製品は、Microsoft Internet Explorer 5.5 以上をサポートしています。

設定変更が一通り終わったら**必ず MONOLITH を再起動させてください**。(画面上に再起動メッセージが現れなくても再起動が必要です。)

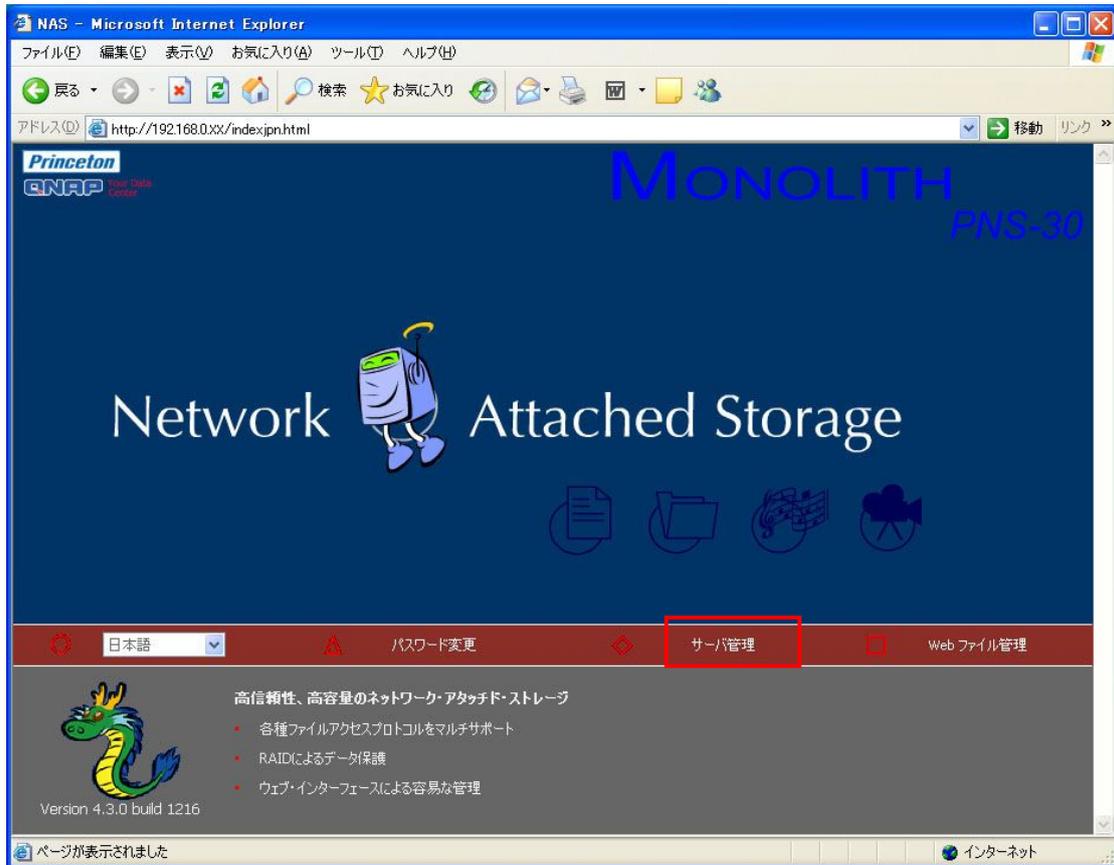
### 3.1 本製品の管理ページへのアクセス

Web ブラウザを起動します。本製品用の IP アドレスを入力して管理ページにアクセスします。IP アドレスは本製品の LCD 画面にも表示されます(付録 A 参照)。

クイックインストールウィザード(付録 C 参照)を実行して、リストの項目をダブルクリックします。



本製品のホームページで[サーバ管理]をクリックします。



ユーザ名とパスワードを入力します。



デフォルトのユーザ名とパスワードは次のとおりです。

ユーザ名 : administrator

パスワード : admin

本製品に初めてログインした場合は、[クイック設定]ページが表示されます。詳細は、

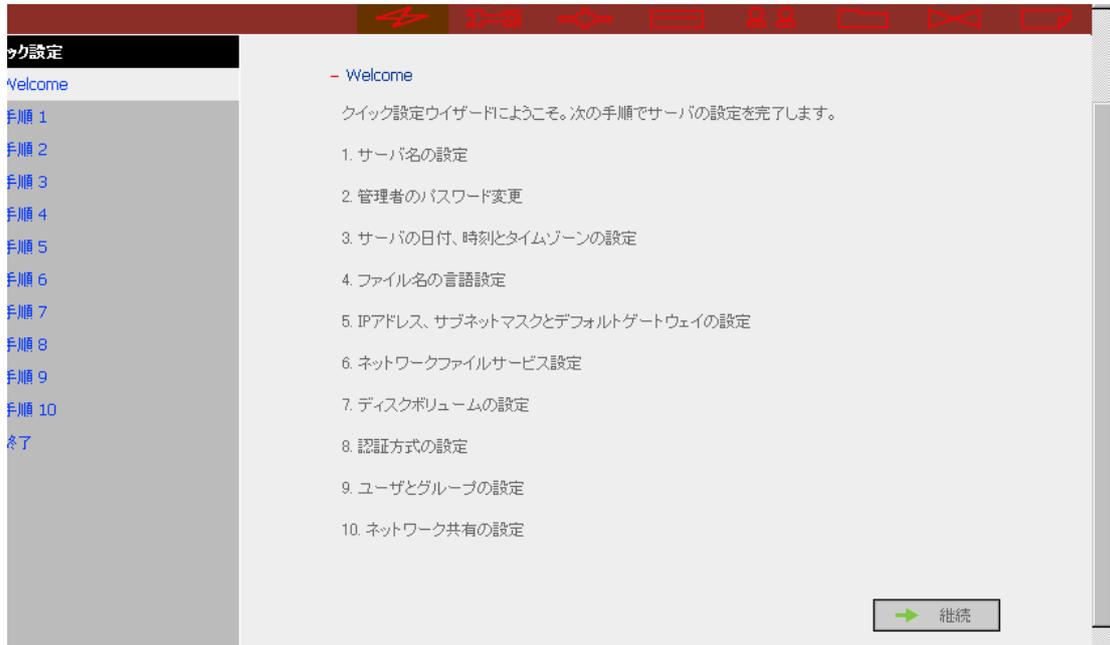
「3.3 クイック設定」を参照してください。

## 3.2 サーバ管理

サーバ管理は、次の 8 つの項目に分かれています。

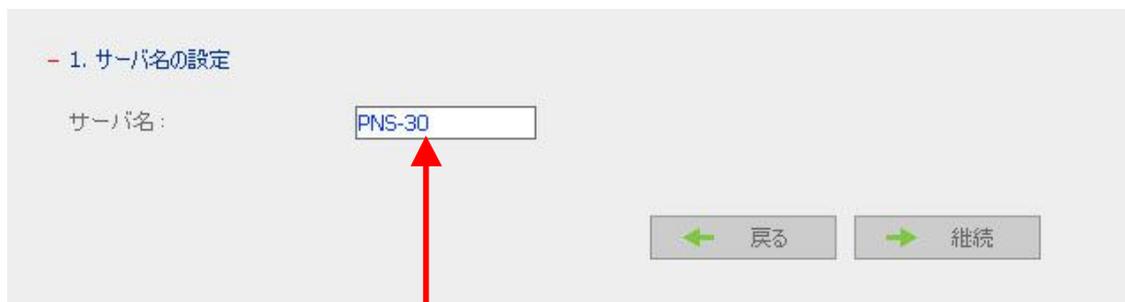
クイック設定		
システム設定	サーバ名 日付と時刻 言語設定 システム設定情報の表示	
ネットワーク設定	TCP/IP設定 Microsoftネットワーク Appleネットワーク Unix/Linux NFS NetWareサービス Webサービス FTPサービス プリンタサーバ 設定を全て表示	
ディスク設定	ディスクボリュームの作成 ディスクボリュームの削除 ディスクボリュームの検査 ディスクボリュームのフォーマット ディスクボリューム情報の表示 スナップショット設定	
ユーザー管理	ユーザー グループ 容量制限	作成 マルチユーザーの作成 パスワードの変更 専用ネットワーク共有の作成 グループの設定 容量制限の設定 削除
ネットワーク共有	作成 プロパティ アクセス設定 削除	
システムツール	SNMP設定 アラート通知 再起動/シャットダウン ハードウェア設定 UPS アップデート リモートレプリケーション ウイルススキャン バックアップ/リストア/リセット設定 バックアップエージェント 自動起動/停止	
統計 & ログ	ユーザ情報 イベントログ DHCPログ	

## 3.3 クイック設定



[クイック設定]ページでは、本製品をステップごとに設定できます。

本製品のサーバ名を入力します。



任意の名称を入力できます

管理者のパスワードを変更するか、[オリジナルのパスワードを使用]を選択します。

- 2. administratorのパスワードを変更します。

パスワード:

パスワードの再入力:

オリジナルのパスワードを使用

注意: "オリジナルのパスワードを使用"をチェックを入れると、管理者のパスワードが変更しません。



日付と時刻を入力し、サーバのタイムゾーンを選択します。

- 3. サーバの日付、時刻とタイムゾーンの設定

タイムゾーン: (GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo

現在の日付と時刻: 2005 / 10 / 27 PM 05 : 02 : 21

日付と時刻の変更:

日付: 1月 , (月/日/年)

時刻: : : AM (時/分/秒)



サーバでファイル名に使用する言語を選択します。

- 4. ファイル名の言語設定

言語:

- Unicode
- 中国語-簡体字
- 中国語-繁体字
- キリル語
- ギリシア語
- アイスランド語
- 日本語**
- 韓国語
- ラテン語2
- 英語
- ラテン語1



※日本語および Unicode 以外はサポート対象外となります。

サーバの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。

- 5. サーバのIPアドレス、サブネットマスクとデフォルトゲートウェイの設定

TCP/IP設定はDHCPによって自動的に取得  
 ほかの設定

IPアドレス:  .  .  .   
サブネットマスク:  .  .  .   
デフォルトゲートウェイ:  .  .  .

接続方式  フェイルオーバー  ロードバランシング

---

注意: デフォルト ゲートウェイが必要ない場合には、“0.0.0.0”に設定します。

サーバで利用するネットワークファイルサービスを選択します。

- 6. ネットワークの設定

Microsoftネットワークを有効にする  
 Appleネットワークを有効にする  
 Unix / Linux NFSを有効にする  
 NetWareサービスを有効にする  
 Webサービスを有効にする  
 FTPサービスを有効にする

サーバのディスクボリュームを設定します。

- 7. ディスクボリュームの設定

新しいディスクボリュームリストで設定する構成をクリックしてください。現在のディスクボリューム構成リストはサーバの現在のディスクボリューム設定です。

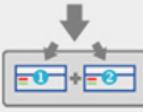
**新しいディスクボリューム設定**



**単独ディスクボリューム**  
単独ディスクボリュームの作成



**RAID1ディスクボリューム**  
RAID 1ディスクボリュームの作成



**RAID0ディスクボリューム**  
RAID 0ディスクボリュームの作成



**リニアディスクボリューム**  
リニアディスクボリュームの作成

**現在のディスクボリューム設定**

ボリューム	容量	空き領域	状態
ミラーリング: ドライブ 1 2	76034.00 MB	59400.00 MB	正常

← 戻る
→ 継続

ユーザ認証の方法を設定します。

- 8. AD認証の設定

Microsoftネットワークを有効にする

スタンドアロンサーバー  
 NTドメインメンバー  
 ADドメインメンバー

サーバーについての説明:   
 ワークグループ名:   
 ドメイン名:   
 ドメインユーザー名:   
 パスワード:

← 戻る
→ 継続

AD ドメインメンバー: Windows2000/2003 から利用可能になった”アクティブディレクトリ“へ対応します。

NTドメインメンバー: WindowsNT で利用可能な”PDC 認証”へ対応します

サーバのユーザとユーザグループを管理します。

## - 9 ユーザの設定

ユーザの新規作成は、右のフィールドにユーザ名を入力して、追加をクリックします。ユーザを削除する場合は、左のリストにユーザを指定し、削除をクリックします。

administrator

← 追加

削除 →

ユーザ名

パスワード

パスワードの再入力

注意: セキュリティのため、6文字以上入力してください。

← 戻る

→ 継続

## - 9.1 グループの設定

グループの新規設定はグループ名を右のフィールドに入力して追加をクリックします。グループを削除する場合は左のリストに削除したいユーザを指定して削除をクリックします。

administrators  
everyone

← 追加

削除 →

グループ名

administrator

グループに追加したいユーザを選択してください

← 戻る

→ 継続

サーバのネットワーク共有を管理します。

- 10. ネットワーク共有の設定

ネットワーク共有の新規作成は、ネットワーク共有名を入力して追加をクリックします。ネットワーク共有を削除したい場合は、左のリストにネットワーク共有を選択して、削除をクリックします。

public		ネットワーク共有名	<input type="text"/>
	<input type="button" value="← 追加"/>	ディスクボリューム	ミラーリング: ドライブ12
	<input type="button" value="削除 →"/>	コメント	<input type="text"/>

終了。

- 終了

おめでとうございます! 設定がすべて終了しました。

システムを使用する場合は完了をクリックします。設定を変更する場合は、戻るをクリックします。

クイック設定にかかる時間は、システムの設定によりませんが、数分から数十分です。

※ ここまでの設定が済みましたら、必ず MONOLITH を再起動してください。

## 3.4 システム設定

基本的なシステム設定には、サーバ名、日付、時刻、言語、およびシステム設定表示が含まれます。

- **サーバ名**

本製品のサーバ名を入力します。サーバ名は最大 14 文字までで、英字、数字、ハイフン(-)を使えます。本製品では、空白文字やピリオド(.)を含む名前、あるいは数字だけからなる名前は使用できません。



The screenshot shows a web-based system settings interface. On the left, there is a sidebar menu with the following items: 'システム設定' (System Settings), 'サーバ名' (Server Name), '日付と時刻' (Date and Time), '言語設定' (Language Settings), and 'システム設定情報の表示' (Display System Settings Information). The 'サーバ名' option is selected. The main content area displays a message: '- サーバ名を入力してください。' (Please enter the server name). Below this message is a text input field labeled 'サーバ名:' containing the text 'PNS-30'. To the right of the input field is a button with a green dot and the text '適用' (Apply).

任意の名称を入力できます

- **日付と時刻**

場所に応じて、日付、時刻、タイムゾーン(時間帯)を設定します。設定が正しくない場合は、次の問題が生じることがあります。

- ✓ Web ブラウザでファイルへのアクセスやファイルの保存をしたときに、操作時刻が正しく表示されません。
- ✓ システムイベントログ時刻が実際の操作時刻と一致しません。
- ✓ リモートレプリケーションのスケジュール設定が正常に動作しません。

- 日付、時刻及びタイムゾーンを調整します

タイムゾーン: (GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo

現在の日付と時刻: 2005 / 10 / 27 PM 05 : 23 : 39

日付と時刻を手動で変更します

日付: 1月 . (月日年)

時刻: : : AM (時分秒)

NTPサーバ/クライアントの設定

特定のNTPサーバを利用する

NTPサーバのIPアドレス: テスト (ステータス: --)

間隔: 1 分

NTPサーバを有効にする

NTPサーバ1: テスト (ステータス: --)

NTPサーバ2: テスト (ステータス: --)

NTPサーバ3: テスト (ステータス: --)

適用

## NTP サーバ

指定された NTP サーバを有効にするか、使用することによって、システムの日付と時刻を自動的に更新できます。NTP サーバの IP アドレスが指定されていない場合は、システムは内部時計の日付と時刻を設定します。

## • 言語設定

本製品はここで指定した言語を使ってファイルとディレクトリの作成と表示を行います。次のような問題を防ぐために正しい言語を選択します。

- i. 特殊文字のファイルやディレクトリを作成できません。
- ii. 特殊文字のファイルやディレクトリ名を表示できません。
- iii. 日本語および Unicode のみサポートとなります。出荷時には Unicode に設定されております。

- ファイル名の言語設定

言語設定: 日本語 ▼

- Unicode
- 中国語-簡体字
- 中国語-繁体字
- キリル語
- 英語
- ギリシア語
- アイスランド語
- 日本語**
- 韓国語
- ラテン語2
- ラテン語1

## • システム設定情報の表示

サーバ名など、現在のシステム設定をすべてこのページに表示できます。

- システム設定情報の表示

<b>サーバ名</b>	
サーバ名	PNS30-3102
<b>日付と時刻</b>	
日付	10月 27, 2005
時刻	5:25:22 PM
タイムゾーン	(GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo
<b>言語</b>	
コードページ	日本語 (932)
<b>システム情報</b>	
バージョン	4.3.0 Build 1014

### 3.5 ネットワーク設定

#### TCP/IP の設定

- **DHCP サーバから IP アドレス設定を自動的に取得する**

DHCP をサポートしているネットワークでは、本製品は DHCP プロトコルを使用して自動的に IP アドレスと関連情報を取得します。

- **IP アドレスを手動で指定する**

ネットワーク接続で IP アドレスを手動で指定するには、次の情報を入力します。

- ✓ **指定の IP アドレス**

IP アドレスは、ネットワーク上の個々の構成要素を識別するために使用される 32 ビットの数字です。IP アドレスは、ドットで区切った 4 つの 8 ビットグループに分けられます。たとえば、192.168.0.1 のようになります。

- ✓ **サブネットマスク**

サブネットマスクは、同じローカルネットワーク内でコンピュータを定義します。これは 32 ビットの数字で、255.xxx.xxx.xxx のようになります。

- ✓ **デフォルトゲートウェイ**

一般的に、ゲートウェイは、LAN と WAN などの 2 つのネットワークを接続する乗り換え点です。ゲートウェイが存在しない場合は、「0, 0, 0, 0」と設定してください。

**プライマリ DNS サーバ:**外部ネットワークに NAS の DNS サービスを提供するプライマリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。

**セカンダリ DNS サーバ:**外部ネットワークに NAS の DNS サービスを提供するセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。

また、次の設定ができます。

- ✓ DHCP サーバを有効にする  
ネットワークに DHCP サーバがない場合は、このオプションを有効にして、必要なクライアントに IP アドレス設定を提供できます。
- ✓ 開始 IP アドレス  
DHCP サービスに動的に割り当てる IP アドレス範囲の最初のアドレスです。
- ✓ 最終 IP アドレス  
DHCP サービスに動的に割り当てる IP アドレス範囲の最後のアドレスです。
- ✓ リース期間  
動的な IP アドレスのリース期間を設定します。
- ✓ プライマリ DNS サーバ  
システムがコンピュータに IP アドレスを割り当てると、プライマリ DNS サーバアドレスも指定されます。
- ✓ セカンダリ DNS サーバ  
システムがコンピュータに IP アドレスを割り当てると、セカンダリ DNS サーバアドレスも指定されます。

## ネットワークインターフェースの設定

### ✓ フェイルオーバー

本製品の2つの Gigabit LAN ポートをポートリンク機能を備えたネットワーク製品につなげる事によって冗長化する事が出来ます。

この設定を有効にした場合、ポート1が主(プライマリ)、ポート2が副(セカンダリ)として機能し、ポート1に通信障害が起きた際にはポート2で通信が持続します。

また、ポート1が障害から回復すると、通信はポート1で行われます。

### ✓ ロードバランシング

本製品の2つの Gigabit LAN ポートをポートリンク機能を備えたネットワーク製品につなげる事によって冗長化する事が出来ます。

この設定を有効にした場合、ポート1とポート2は同時に通信が実行され、個々のポートに通信負荷は分散されます。

インテリジェントなソフトウェア適応エージェントによって、サーバからのトラフィックフローが繰り返し解析され、宛先アドレスに基づいてパケットが分散されます。

ロードバランシング処理が実行されるのは、レイヤ 3 のルーティングプロトコル(IP)のみです。

## ネットワーク速度

ネットワーク速度設定では、ネットワーク速度の設定について便利なオプションがあります。[auto-negotiation]を選択してネットワーク速度を自動的に設定できます。このデフォルト設定を使用することをお勧めします。



## Microsoft ネットワーク

- Microsoft ネットワーク

Microsoft ネットワークを有効にする

スタンドアロンサーバー

NTドメインメンバー

ADドメインメンバー

サーバーについての説明

ワークグループ名

ドメイン名

WINSサーバーを有効にする

指定のWINSサーバーの使用

WINS IPアドレス

ドメインマスタ

### Microsoft ネットワークのファイルサービスを有効にする

Microsoft Windows を使用している場合、ネットワーク共有フォルダのファイルにアクセスするにはこのサービスを有効にします。ワークグループ名を付けます。ワークグループ名は、15 文字まで使用できますが、次の文字は使用できません。

” + = [ ] , ; / ¥ : | \* ? < > . ”

注:最初の文字に、ピリオド(.)は使えません。

#### ✓ スタンドアロンサーバ

ユーザ認証にローカルユーザを使用します。

#### ✓ NTドメインメンバ

ユーザ認証に Microsoft NT ドメイン (PDC 認証)を使用します。

## ✓ ADドメインメンバ

ユーザ認証に Microsoft ADドメイン(アクティブディレクトリ認証)を使用します。

- サーバの説明:サーバの管理者名、部門、場所などで本製品をユーザに説明してサーバを識別できるようにします。本製品を Microsoft Windows オペレーティングシステムで使用するユーザは、Microsoft ネットワークサービスを有効にする必要があります。
- ワークグループ名:本製品が所属するワークグループを指定します。ワークグループは、ネットワークを共有している Microsoft Windows ネットワーク上にあるコンピュータグループのユニットです。
- ドメイン名:Microsoft のドメイン名。NT ドメインまたは AD ドメインを選択する場合はドメイン名を入力します。

ローカルネットワークに WINS サーバが設置されている場合には、IP アドレスを指定します。本製品は自動的に WINS サービスに名前と IP アドレスを登録します。WINS サーバのサポートを有効にしない場合またはネットワークに WINS サーバがない場合は、WINS サーバ IP アドレスのフィールドに 0.0.0.0 を入力します。

The screenshot shows a configuration window with the following elements:

- WINSサーバを有効にする
- 指定のWINSサーバの使用
- WINS IPアドレス: [0] [0] [0] [0]
- ドメインマスタ
- 適用 (with a green dot icon)

## ドメインマスタを有効にする

本製品をドメインマスタとして機能させる事ができます。

ドメインサーバ(DNS)を利用しない場合、同じネットワーク内の中、1 台のクライアント PC がドメインの参照先となるドメインマスタ(ドメインマスタブラウザ)に自動設定されます。

ドメインマスタは同じネットワーク内のクライアント PC から NetBIOS 名を受けとり、同じネットワーク内のブラウザリストを作成します。

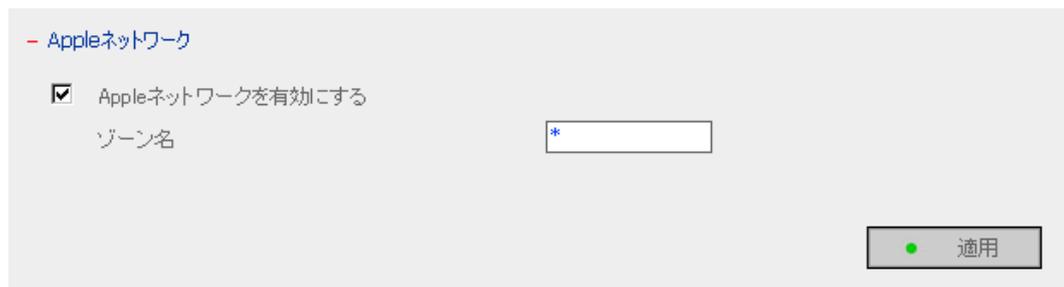
他のクライアント PC は作成された同じネットワーク内のブラウザリストを受け取ります。

通常、ドメインマスタは NT Server, NT Workstation, 95/98/Me の順に、PC の起動時に自動的に選ばれます。

## Apple ネットワーク

本製品を Apple の MAC オペレーティングシステム上で使用するには、AppleTalk ネットワークサポートを有効にします。

AppleTalk ネットワークが、拡張ネットワークを使用していて複数ゾーンを指定されている場合は、本製品にゾーン名を指定します。ネットワークゾーンを指定しない場合は、アスタリスク(\*)を入力してデフォルト設定を使用します。



- Appleネットワーク

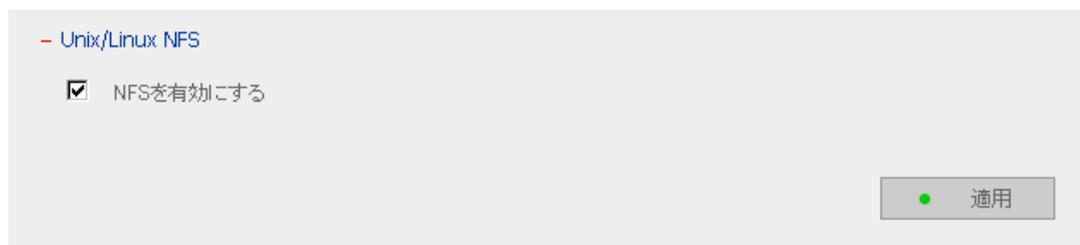
Appleネットワークを有効にする

ゾーン名

適用

## NFS サービス

本製品を Unix/Linux オペレーティングシステムを使っているコンピュータまたはサーバ上で使用するには、NFS サービスを有効にします。本製品は NFS バージョン 2.0 および 3.0 をサポートしています。ルートとしてシステムにログインし、mount コマンドを使用してネットワークに接続します。その後は別の識別情報でログインして以前に行った NFS 設定を使用して本製品にアクセスできます。



- Unix/Linux NFS

NFSを有効にする

適用

## NetWare サービス

Novell Netware サービスを使用するにはこのオプションを有効にして、Netware ネットワーク用のサーバ名を入力します。サーバは Novell NetWare 3.12 ファイルサーバと同様に作動します。

The screenshot shows the 'NetWare サービス' configuration window with the '基本設定' (Basic Settings) tab selected. A checkbox labeled 'NetWare サービスを有効にする' (Enable NetWare service) is checked. Below it, the 'サーバ名' (Server name) field contains 'PNS30' with a note '(最大15文字まで)' (Maximum 15 characters). A green '適用' (Apply) button is visible at the bottom right.

Netware サービスについてさらにオプションを設定するには Netware サービスを有効にして[詳細設定]をクリックします。

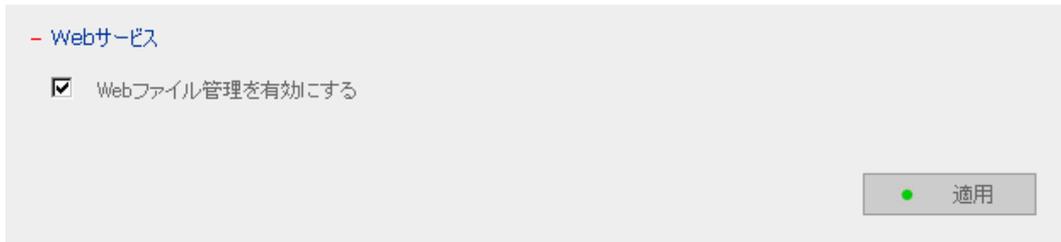
The screenshot shows the 'NetWare サービス' configuration window with the '詳細設定' (Detailed Settings) tab selected. The 'フレームタイプ' (Frame type) dropdown is set to '自動検知' (Auto-detect). For '内部ネットワーク番号' (Internal network number), the '自動設定' (Auto-configure) radio button is selected. For '外部ネットワーク番号' (External network number), the '手動設定' (Manual configuration) radio button is selected, and the value '22' is entered in the '0x' field. A note at the bottom states: '注意! 手動で外部ネットワークを設定する場合、他のNetWareサーバと重ならないために、フレームタイプが自動検知を指定しないでください。' (Note! When manually setting the external network, specify a frame type that does not overlap with other NetWare servers to avoid conflicts.) A green '適用' (Apply) button is visible at the bottom right.

フレームタイプ：ローカルネットワーク上に Novell サーバがある場合は、サーバと同じフレームタイプを選択します。

- 内部ネットワーク番号：これはネットワーク上のサーバを識別する一意の番号です。[自動設定]オプションを選択すると、システムによってこの番号が IP アドレスに設定されます。または、一意の内部ネットワーク番号を手動で入力することもできます。
- 外部ネットワーク番号：この番号はネットワーク上の論理的なネットワークセグメントを識別します。システムによって自動的にこの番号が設定されます。または外部ネットワーク番号を手動で設定することもできます。

## Web サービス

Web ブラウザを使って本製品のファイルにアクセスするには、Web ファイルマネジャーを有効にします。本製品がインターネットに接続されていて有効な IP アドレスが使用されている場合は、Web ブラウザを使ってどこからでもサーバのファイルにアクセスできます。



- Webサービス

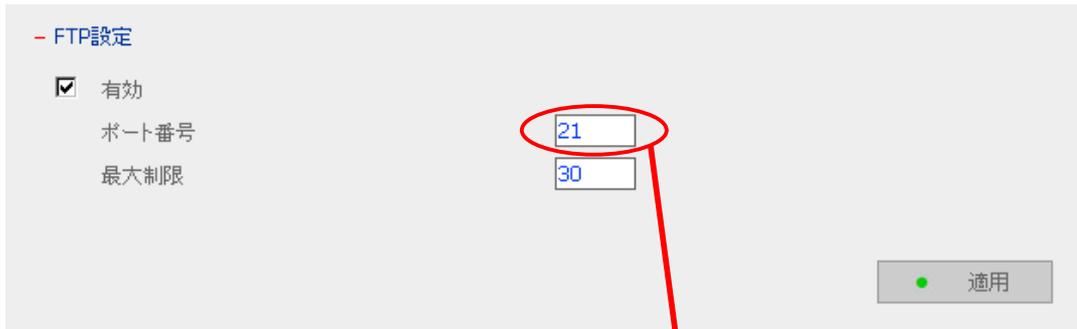
Webファイル管理を有効にする

適用

## FTP サービス

ファイル転送プロトコル(FTP)を使用して本製品からのファイルのダウンロードまたは本製品へのファイルのアップロードを行うには、FTP サービスを有効にします。

FTP 接続専用ソフトをご利用の際にはここで指定した[ポート番号]を接続ポートに指定ください。



- FTP設定

有効

ポート番号 21

最大制限 30

適用

ポート番号を任意の番号に可能ですが、特別な理由のない限り変更しないでください。

## プリントサーバ

この機能を有効にすることで、ネットワーク経由での印刷が可能になります。

( 詳しくは 84 ページを参照してください )

※ 対応機種は RICOH G717/G7570 のみです。

- ネットワークプリンタサーバ

ネットワークプリンタサーバを有効にする

ネットワークプリンタ名

コメント

ネットワークプリンタ名、コメントは任意の名前に設定出来ます。クライアント PC からはここで設定した名前ですプリンタ登録します。

## ネットワーク設定の表示

### ネットワーク

現在のネットワーク接続の設定および状態を表示できます。

- 設定を全て表示

ネットワーク	ネットワーク設定	その他
<b>接続方法</b>		
接続方法		DHCP
IPアドレス		192.168.1.100
サブネットマスク		255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ		192.168.1.1
MACアドレス		00:00:00:00:00:00
接続状態		接続
接続方式		ロードバランシング
<b>DHCPサーバ設定</b>		
有効にする		NO
割り当てIPアドレス		192.168.1.100 - 192.168.1.100
リース期間		1日0時

## ネットワーク設定

現在のネットワークサービスの設定を表示できます。

- 設定を全て表示

ネットワーク	ネットワーク設定	その他
<b>Microsoftネットワーク</b>		
有効にする		YES
サーバータイプ		スタンダードサーバー
ワークグループ名		NAS
WINSサーバを有効にする		NO
ドメインマスタを有効にする		NO
<b>Appleネットワーク</b>		
有効にする		YES
ゾーン名		*
<b>Unix/Linux NFS</b>		
有効にする		YES
<b>Webファイル管理</b>		
有効にする		YES
<b>FTP</b>		
有効にする		YES
ポート番号		21
最大制限		30
<b>NetWareサービス</b>		
有効にする		YES

- 閉じる

## その他

プリンタサービスの設定を表示できます。

- 設定を全て表示

ネットワーク	ネットワーク設定	その他
<b>プリンタサービス</b>		
有効にする		YES
プリンタ名		G717
コメント		Printer port on NAS

- 閉じる

## 3.6 ディスク設定

本製品には最大 4 台のディスクを内蔵しています。ディスクボリュームを次のように設定できます。

### 単独ディスクボリューム

スタンドアロンでディスクを使用できます。ディスクが破損すると、すべてのデータが失われます。

### RAID 1 ミラーリングディスクボリューム

ミラーリングディスクでは、1 台目のディスクの内容を、ミラーリングの対になっている 2 台目のディスクに自動的にバックアップすることによってデータの安全性を増します。これによってディスクのどちらかが破損した場合でもデータが残されます。仕様上 2 台目のディスクは 1 台目のディスクの自動バックアップとして機能するため、記憶容量は 1 台のディスクの容量と同じです。ミラーリングディスクボリュームは、個人または企業で重要なデータを保存する場合に適しています。

### RAID 0 ストライピングディスクボリューム

ストライピングディスクでは、複数のディスクを結合して 1 台の大容量ディスクとして使用します。ディスクへのアクセスは最も速くなりますが、ストライピングアレイに故障が発生された場合、データは保護されません。ディスク容量は、ストライピングアレイ中の最小のディスクの容量をディスクの台数倍したのになります。ストライピングディスクはディスク容量の最大化やディスクへのアクセスの高速化のために使用されるのが普通で、重要なデータの保存には使われません。

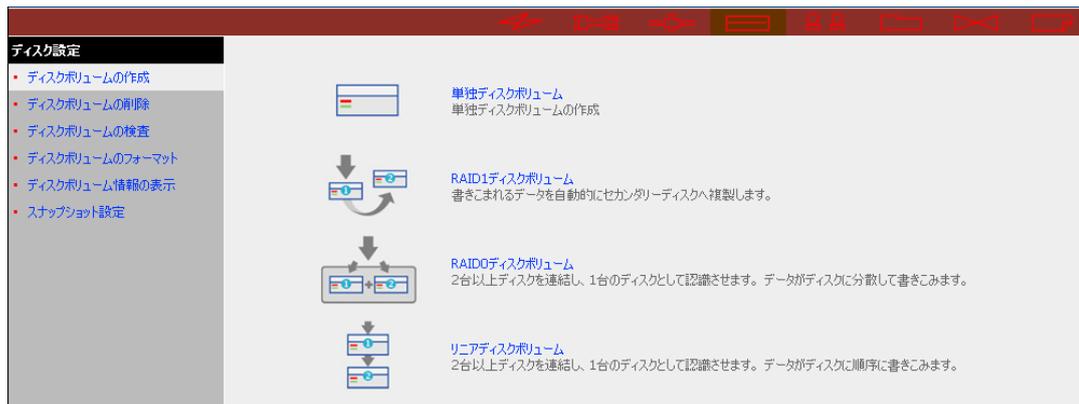
### リニアディスクボリューム

複数のディスクを結合して 1 台の大容量ディスクとして使用できます。ファイルは複数の物理ディスクに連続して保存されますが、ディスク故障時のファイル保護機能はありません。リニアディスク全体の容量は全ディスク容量の合計です。リニアディスクは大量のデータを保存する場合に使用されるのが普通ですが、重要なデータのファイル保護には適していません。

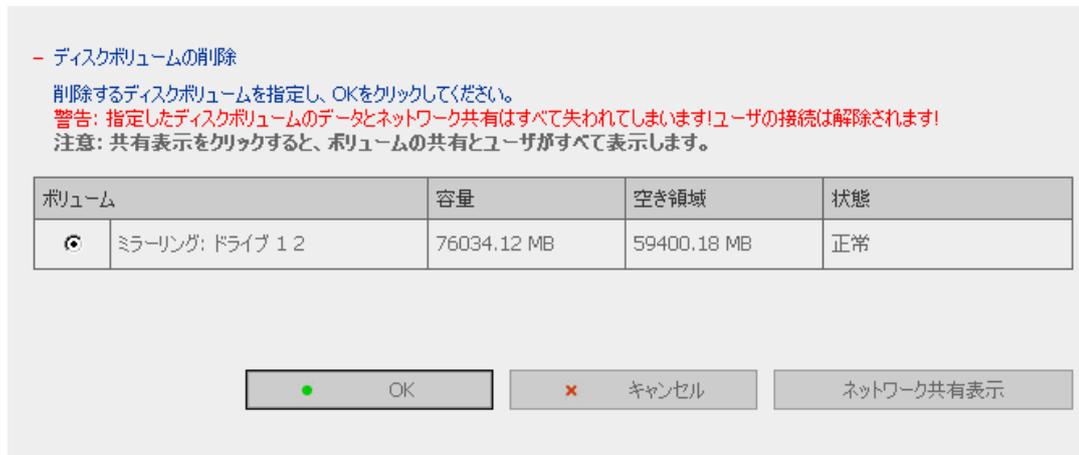
本製品は工場出荷時には RAID 1 ディスク(2 台以上のディスクボリュームを持つサーバに適用可能)に設定されています。これ以外のディスク設定を使用する場合は、クイック設定に最初にアクセスするときに設定を変更できます。

また、次の方法でディスクボリュームを管理できます。

## i. ディスクボリュームの作成



## ii. ディスクボリュームの削除



### iii. ディスクボリュームの検査

- ディスクボリュームの検査

検査するボリュームを選択し、OKをクリックして下さい。エラーが発見された場合は、[エラーを自動的に修復]をチェックを入れると自動的に修復できます。

**警告: ユーザの接続は強制的に解除されます!**

注意: 共有表示をクリックすると、ディスクボリュームの共有とユーザがすべて表示します。

ボリューム	容量	空き領域	状態
<input checked="" type="radio"/> ミラーリング: ドライブ 1 2	76034.12 MB	59400.18 MB	正常

エラーを修復します

### ✓ ディスクボリューム操作レポート

このページには、ディスクボリューム操作の現在の状態および情報が表示されます。

- ディスクボリュームのレポート

タイプ	ディスクボリュームの検査
ソース	ミラーリング: ドライブ 1 2
対象	--
スナップショット設定	有効 (レポートリレシオ: 20 %, 最大数: 5)
状態	確認中...
結果	--
コメント	完了するまで時間がかかります。

注意: 自動的に5秒ごと更新します。ディスクボリューム情報の表示ページで確認できます。

## iv. ディスクボリュームのフォーマット

- ディスクボリュームのフォーマット

フォーマットするディスクボリュームを指定し、OKをクリックします。  
**警告: 指定したディスクボリュームのデータとネットワーク共有はすべて失われてしまいます! ユーザの接続は解除されます!**  
**注意: 共有表示をクリックすると、ディスクボリュームの共有とユーザがすべて表示します。**

ボリューム	容量	空き領域	状態
⑥ ミラーリング: ドライブ 1 2	76034.12 MB	59400.18 MB	正常

## v. ディスクボリューム情報の表示

- 物理ディスク

ディスク	モデル	容量	状態
ドライブ 1	ST380011A	76319.09MB	正常
ドライブ 2	ST380011A	76319.09MB	正常

- 設定したディスクボリューム

ボリューム	容量	空き領域	状態
ミラーリング: ドライブ 1 2	76034.12 MB	59400.18 MB	正常

## vi. スナップショット設定

スナップショットを使用するとバックアップソースとしてディスクボリュームのコピーを作成できます。スナップショットの作成によってディスクボリュームに変更が加えられることはなく、またディスクボリュームに変更を加えても、以前に取ったスナップショットは影響を受けません。

- **基本的なスナップショットの設定**

スナップショットを有効または無効にするには、ディスク設定のスナップショットの設定に進み[基本設定]をクリックします。ディスクボリュームのスナップショットサポートを有効にしたらスナップショットを作成します。

1 つまたは複数のボリュームのスナップショットサポートを有効にするには、項目を選択し、リポジットリ(占有)の割合と最大カウント値を指定して[OK]をクリックします。スナップショットサポートを無効にするには、項目の選択を取り消して[OK]をクリックします。変更を取り消すには、[キャンセル]をクリックしてページを更新します。

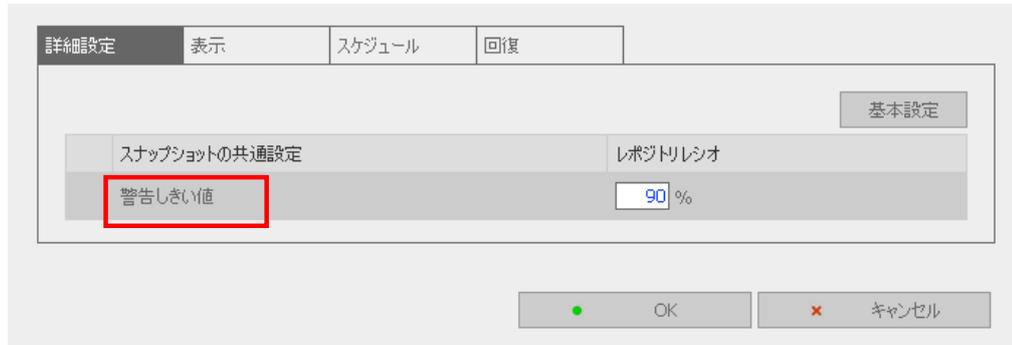
**注:**

1. [リポジットリレシオ](ボリューム内の HDD 容量占有率)またはボリュームの[最大数]を変更するには、スナップショットサポートを無効にして[OK]をクリックし、再度スナップショットサポートを有効にします。
2. スナップショットサポートを無効にするとボリュームのすべてのスナップショットが自動的に削除されます。

有効	ボリューム	レポジットリレシオ	最大数
<input checked="" type="checkbox"/>	ラベル: ドライブ 12	20 %	5

- **スナップショットの詳細設定**

毎回のスナップショットの使用状態についてどのような場合に警告を出すかを設定するには、スナップショットの[警告しきい値]を設定して[OK]をクリックします。警告メッセージをログ記録するデフォルトのしきい値は、スナップショットが全体の 90%に達したときです。[基本設定]ページに戻るには、[基本設定]または[キャンセル]をクリックします。



- ✓ **スナップショットまたはスケジュールの作成**

スナップショット設定のページで[スケジュール]をクリックしてスナップショットのスケジュールの作成、編集または削除ができます。ユーザはディスクボリュームのスナップショットを時間ごと、週ごと、月ごとにスケジュールを作成できます。

スナップショットのスケジュールを作成するには、[新規作成]をクリックします。



[直ちに作成開始する]を選択するか、毎時間、毎週、毎月のいずれかを指定します。

基本設定 | 表示 | **スケジュール** | 回復

名称:

ボリューム元:

重要度:

---

スケジュールの種類

直ちに作成開始する

繰り返し実行する

毎日

毎週

開始時間:  時 :  分

---

最大の実例:

OK キャンセル

現在のスケジュールを変更するには、該当するボックスをチェックして[編集]をクリックします。

基本設定 | 表示 | **スケジュール** | 回復

新規 **編集** 削除

	名称	ボリューム元	スケジュール	現在の实例 / 最大の实例
<input type="checkbox"/>	_sn_week	ミラーリング: ドライブ12	0:00 - 毎週:月曜日	0 / 1

更新

現在のスケジュールを削除するには該当するボックスをチェックして[削除]をクリックします。スケジュールの更新状態を表示するには、[更新]をクリックします。

基本設定 | 表示 | **スケジュール** | 回復

新規 編集 **削除**

	名称	ボリューム元	スケジュール	現在の实例 / 最大の实例
<input type="checkbox"/>	_sn_week	ミラーリング: ドライブ12	0:00 - 毎週:月曜日	0 / 1

**更新**

## ✓ スナップショットからのデータの回復

ディスクボリュームを特定の時点の状態に戻すには、スナップショット設定の回復を開きます。ディスクボリュームの回復先となるスナップショットのボックスをチェックして、[OK]をクリックします。更新された回復状態を表示するには、[更新]をクリックします。

項目の回復状態についての説明は次のとおりです。

回復状態	説明
回復中	ディスクボリュームは回復中です。
完了	ディスクボリュームは正常に回復されました。
失敗	ディスクボリュームは正常に回復できません。

基本設定
表示
スケジュール
回復

	名前	ボリューム元	構築時間	重要度	ステータス
<input checked="" type="checkbox"/>	_sn_test	ミラーリング: ドライブ12	17:56:18 Thu Oct 27 2005	普通	なし

更新
 

 OK

## ✓ スナップショット状況の表示

ディスクボリューム用に作成されたスナップショットとその状態をリスト表示するには、スナップショット設定の画面で[表示]をクリックします。

The screenshot shows a web interface for managing snapshots. At the top, there are tabs for '基本設定', '表示', 'スケジュール', and '回復'. Below the tabs are buttons for '削除' and 'ブラウズ'. A table displays the following data:

	名前	ボリューム元	構築時間	重要度	ステータス	現在の比率
<input checked="" type="checkbox"/>	_sn_test	ミラーリング: ドライブ12	17:56:18 Thu Oct 27 2005	普通	正常	0 %

At the bottom right, there is a '更新' button with a refresh icon.

その他の機能:

- スナップショットの詳細を表示するには、項目を選択して[ブラウズ]をクリックします。
- スナップショットの更新状態を表示するには、[更新]をクリックします。

### 3.7 ユーザ管理

本製品のファイルは、複数のユーザで共有できます。管理を簡単に行い、ユーザのアクセス権の制御を強化するには、ユーザとユーザグループ、およびそのアクセス権を秩序立ったものにする必要があります。



- ユーザ

システムにはデフォルトで administrator のユーザがあらかじめ登録されています。

#### administrator

administrator はデフォルトで administrators グループのメンバであり、システムを管理できます。ユーザ administrator は削除できません。

#### guest

ログインに登録されていないユーザ名が使用された場合、本製品はそのユーザを guest として認識し、限定的なアクセスを許可します。guest は、どのグループにも所属しません。guest は削除できず、そのパスワードは作成できません。

#### anonymous

FTP サービスによってサーバに接続するときに、この名前を使用してゲストとしてログインできます。このユーザは削除できず、そのパスワードは変更できません。必要に応じて新しいユーザを作成できます。新しいユーザの作成には、次の情報が必要です。

### ✓ ユーザ名

ユーザ名は 32 文字を超えることはできません。大文字と小文字は区別されず、中国語、日本語、などの 2 バイト文字も使用できますが、以下の文字は使用できません。

"/ ¥ [ ] : ; | = , + \* ? < > ` ' `

基本的には半角英数文字でのご利用をお勧めします。

### ✓ パスワード

パスワードは 6～16 文字でなければなりません。簡単に解読できるようなパスワードは使わないでください。

また、ユーザのために次の設定を実行できます。

- i. 作成
- ii. マルチユーザの作成
- iii. パスワードの変更
- iv. 専用ネットワーク共有の作成
- v. グループの設定
- vi. 容量制限の設定
- vii. 削除

- ユーザグループ

ユーザグループは、ファイルやフォルダに同じアクセス権を持つユーザの集まりです。本製品では、デフォルトで次のユーザグループがあらかじめ登録されています。

- ✓ administrators

administrators グループのすべてのメンバには、システム管理を行う権限があります。グループ administrators は削除できません。

- ✓ everyone

登録されているすべてのユーザは everyone グループに属します。グループ everyone は削除できません。



次のオプションでユーザグループを管理できます。

- 作成
- 専用ネットワーク共有の作成
- ユーザの設定
- 削除

ユーザグループ名は 32byte 文字を超えることはできません。大文字と小文字は区別されません。平仮名、漢字、2 バイト文字も使用できますが、以下の文字は使用できません。

” / ¥ [ ] : ; | = , + \* ? < > ` `

※(詳細な内容については、製品付属の制限文字一覧をご確認ください)

適切なセキュリティ管理のためには、ユーザとユーザグループを管理することが非常に重要です。各ユーザまたはユーザグループに応じて共有アクセスパラメータの設定もできます。

- **容量制限**

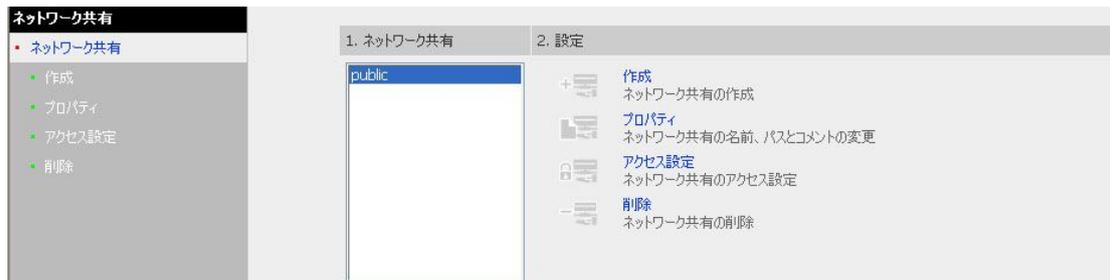
ディスクボリュームを効率よく割り当てるために、各ユーザが使用できる容量を制限できます。容量制限が設定された場合、ユーザは、容量制限を超えてディスクスペースを使用することはできません。デフォルトでは、ユーザに対して制限はありません。次の 2 点を変更できます。

- ディスク容量の割り当てを有効にする
- ディスクボリューム当たりの容量

The screenshot shows a configuration window titled "- 容量" (Capacity). It contains a checkbox labeled "ディスク容量の割り当てを有効にする" (Enable disk capacity allocation) with the text "ディスクボリューム当たりの容量" (Capacity per disk volume) below it. To the right of this text is an input field followed by "MB". Below the input field is a blue note: "注意: ユーザのディスク容量の割り当ては容量制限で変更できます" (Note: User disk capacity allocation can be changed with capacity limit). At the bottom of the window are two buttons: "OK" and "容量制限表示" (Show capacity limit).

### 3.8 ネットワーク共有管理

ネットワークストレージの主な目的は、ファイルの共有です。標準的な操作環境では、各種ファイルに異なるネットワーク共有フォルダを作成することや、ユーザやユーザグループに異なるファイルアクセス権を与えることができます。出荷時の初期設定では、「public」共有フォルダが作成されています。[public]共有フォルダには、すべてのユーザとゲストがアクセスできます。



ネットワーク共有管理には、4つのオプションがあります。

- i. ネットワーク共有の作成
- ii. ネットワーク共有の名前、パス、コメントの変更
- iii. ネットワーク共有のアクセス権の設定
- iv. ネットワーク共有の削除

- 作成

ネットワーク共有を作成するには、次の情報を入力します。

- ✓ ネットワーク共有名

共有名は 12 文字を超えることはできず、次の文字は使用できません。

” . + = / ¥ : | \* ? < > ; [ ] % (※)

- ✓ ディスクボリューム

この領域は、ディスクボリュームの状態を表示します。

- ✓ パス

すべてのデータはディスクボリューム上の指定されたパスの下に保存されます。[自動的にパスを指定する]を選択し、ネットワーク共有ファイルを保存するディスクボリュームの新しいパスを自動的に作成できます。または、共有フォルダの特定のパスを指定することもできます。パスは 256 文字を超えることはできず、以下の文字は使用できません。

” ¥ : ; | \* ? < > ` ` (※)

- ✓ コメント

共有フォルダの簡単な説明を入力します。コメントは、64 文字を超えることはできません。

- 作成

ネットワーク共有名

ディスクボリューム

パス

自動的にパスを指定する

手動でパスを登録する

コメント

皆にフルアクセス権を割り当てる

ゲストに読み取りアクセス権を割り当てる

ネットワーク共有のアクセス権を設定する

参照...

OK キャンセル

(※) 文字制限付いては、製品付属の制限文字一覧をご確認ください

- **アクセス制御**

ネットワーク共有が作成されると、ユーザまたはユーザグループにアクセス権を指定できます。

- ✓ **アクセス拒否**

このオプションが選択された場合、ネットワーク共有へのアクセスは拒否されます。

- ✓ **読み取り専用**

読み取り専用が指定された場合、ユーザはネットワーク共有のファイルの読み取りのみができます。

- ✓ **フルアクセス**

フルアクセスのユーザは、ネットワーク共有上のファイルおよびフォルダの読み取り、書き込み、作成、または削除ができます。



everyone グループをアクセス拒否に設定すると、**administrator** を含めた**全てのユーザがアクセスできなくなります**のでご注意ください。

- プロパティおよび削除

既存のネットワーク共有のプロパティを編集するには、共有を選択して[プロパティ]をクリックします。選択した共有の内容を編集できます。

The screenshot shows a dialog box titled '- プロパティ' (Properties). It contains the following fields:

- ネットワーク共有名 (Network share name): public
- ディスクボリューム (Disk volume): ミラーリング: ドライブ12 (Mirrored: Drive 12)
- パス (Path): /public
- コメント (Comment): (empty)

There is a '参照...' (Reference...) button on the right. At the bottom, there are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons. A note at the bottom reads: '注意: 共有のボリュームがパスを変更しても、既存のボリュームがパスのデータは削除しません。' (Note: Even if the volume of the share is changed, the data of the existing volume is not deleted.)

また、既存のネットワーク共有の削除も選択できます。[OK]をクリックして削除を確認するかまたは[キャンセル]をクリックして削除を中止します。

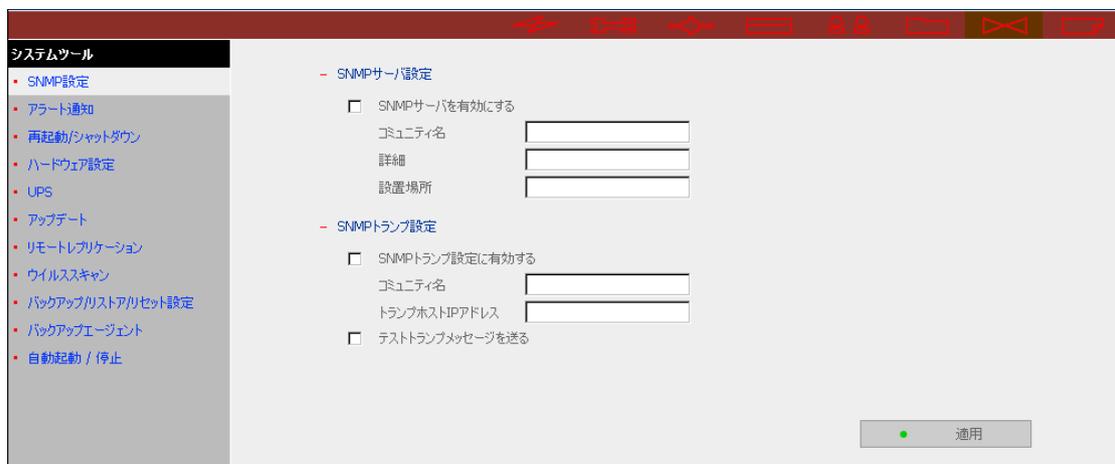
The screenshot shows a dialog box for deleting a network share. On the left, there is a sidebar with 'ネットワーク共有' (Network shares) and sub-items: '作成' (Create), 'プロパティ' (Properties), 'アクセス設定' (Access settings), and '削除' (Delete). The main area shows a confirmation message: '削除 public.' (Delete public.) and a note: '注意: ネットワーク共有にアクセスしているユーザの接続が強制的に解除されます。' (Note: Connections of users accessing the network share will be forcibly disconnected.) At the bottom, there are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

## 3.9 システムツール

システムツールを使って、本製品の保守と管理を最適化できます。

### 3.9.1 SNMP 設定

SNMP (シンプルネットワーク管理プロトコル) を使用してサーバのネットワーク構成要素を管理するには、SNMP サービスを有効にして必要な設定をすべて完了させます。[SNMP トラップ設定を有効にする] が有効になっている場合、エラーが生じると指定したトラップホストにメッセージが送信されます。



The screenshot shows the 'システムツール' (System Tools) menu with 'SNMP設定' (SNMP Settings) selected. The interface is divided into two main sections: 'SNMPサーバ設定' (SNMP Server Settings) and 'SNMPトラップ設定' (SNMP Trap Settings). In the 'SNMPサーバ設定' section, there is a checkbox for 'SNMPサーバを有効にする' (Enable SNMP server), which is currently unchecked. Below this are three input fields for 'コミュニティ名' (Community name), '詳細' (Details), and '設置場所' (Installation location). The 'SNMPトラップ設定' section has a checkbox for 'SNMPトラップ設定に有効する' (Enable SNMP trap settings), also unchecked. Below it are two input fields for 'コミュニティ名' (Community name) and 'トラップホストIPアドレス' (Trap host IP address). At the bottom right, there is a 'テストトラップメッセージを送る' (Send test trap message) checkbox, which is unchecked. A '適用' (Apply) button is located at the bottom right of the main content area.

## 3.9.2 アラート通知

管理者の E-メールアドレスと SMTP サーバの IP アドレスを入力します。警告や異常が発生した場合には管理者に自動的に電子メールが送信されます。

- アラート通知

レベル:  高: ドラブルやエラーが発生した時にE-メールを送る  
 通常: 重大なエラーが発生した時だけE-メールを送る  
 低: E-メールは通知はしない

E-メール(SMTP)サーバIPアドレス:  .  .  .

SMTP認証を起動します  
ユーザー名:   
パスワード:

E-メールアドレス 1:   
E-メールアドレス 2:

テストE-メールを送る

SMTP 認証を必要とするメールサーバで利用する場合は、「SMTP 認証を起動します」のチェックボックスにチェックを入れて認証に必要なユーザ名とパスワードを入れてください。

## 3.9.3 再起動/シャットダウン

本製品の再起動またはシャットダウンを選択します。

- 再起動/シャットダウン

再起動する場合、再起動ボタンをクリックしてください。  
終了する場合、シャットダウンボタンをクリックしてください。

## 3.9.4 ハードウェアの設定

本製品のハードウェア機能を有効または無効にできます。

- i. LCD パネル設定を有効にする  
ユーザが LCD パネルを使って TCP/IP 設定を行えるようにします。
- ii. パスワードリセットスイッチを有効にする  
このオプションを有効にすることによって、製品本体のリセットボタンを数秒間押すと管理者パスワードとネットワーク設定がデフォルトにリセットされます。
- iii. ハードディスクのスタンバイモードを有効にする  
サーバにアクセスがない場合に、ハードディスクをスタンバイモードへ切り替える時間(分単位)を設定します。※
- iv. ブザーを有効にする  
ブザーを有効にすると、システムエラーが生じた場合に警報音が鳴ります。

- ハードウェア設定

- LCD パネル設定を有効にする
- パスワードリセットスイッチを有効にする
- ハードディスクのスタンバイモードを有効にする( 30分間 以内にアクセスしなかった場合)
- ブザーを有効にする

● 適用

※ハードディスクスタンバイモードを有効にする場合は、「1 時間」以上に設定してください。「1 時間」未満に設定してのご利用はサポート外となります。

□

## 3.9.5 UPS

ご使用の UPS(無停電電源装置)が USB インターフェースを搭載している場合は、UPS サポートを有効にして停電による異常なシステムシャットダウンからシステムを保護できます。外部電力障害の場合は、接続された UPS ユニットの電源状態を確認し、システムは自動的にシャットダウンします。

※APC 社製 UPS のみの対応となります。

### ✓ UPS サポートを有効にする

UPS サポートを有効にするには、このオプションを選択します。システムが AC 電源の異常を検出した後、自動的にシステムの電源を切るためのシャットダウンタイマを設定できます。一般的に UPS はシステムに 5~10 分電源を供給できますが、この時間は UPS の最大負荷と UPS に接続されている負荷数によって異なります。

### UPS モデル

UPS モデルを一覧から選択します。使用している UPS モデルが一覧にない場合は、テクニカルサポートにご連絡ください。

### UPS の IP アドレス

UPS モデルに APC UPS(SNMP 付)を選択した場合は、その UPS の IP アドレスを入力します。

- UPS

UPSサポートを有効にする

電源が異常の場合、システムは  分後シャットダウンします。

UPSモデル

UPSのIPアドレス  .  .  .

---

UPSモデル

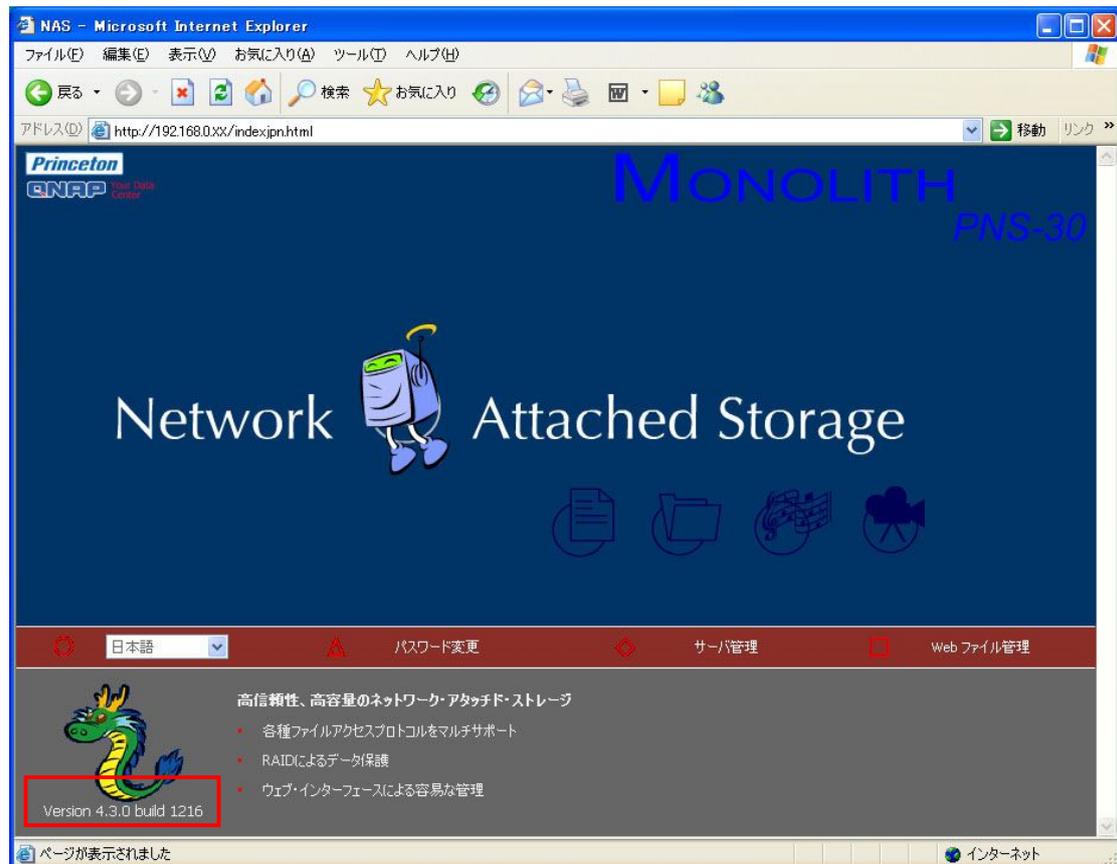
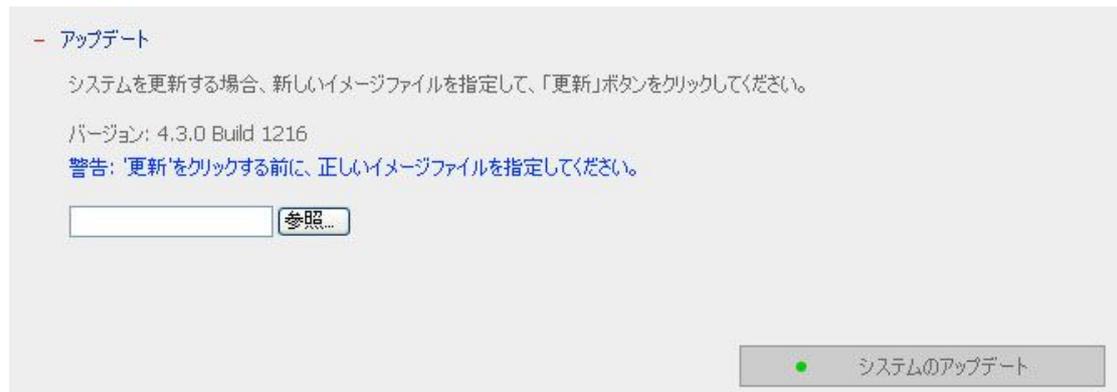
電源状態: --  
バッテリー状態: --

UPSモデルを指定した後、指定したモデルを確認するには[テスト]ボタンをクリックしてください。

**注意:** UPS サポートが有効になっていない場合はテストボタンは機能しません。

## 3.9.6 システムのアップデート

本製品のファームウェアのバージョンをアップデートするには、入手したアップデートファイルのバージョンが正しいことを確認します。ファームウェアを更新する前に、本製品のすべての既存データをバックアップすることをお勧めします。現在の設定は、システムのアップグレード後も変更されません。



## 3.9.7 リモートレプリケーション

リモートレプリケーションによって、ローカルファイルを他のサーバのリモートフォルダにバックアップできます。

### リモートレプリケーションの使用

#### i. 新規作成

- a. [新規]をクリックし、次のページに進みます。



- b. すべての設定を完了し、[OK]をクリックして保存するか、[キャンセル]をクリックして終了します。

**新しいリモートレプリケーションを追加**

---

タスク名

---

リモートバックアップソース

リモートホスト名 / IPアドレス

リモート先のパス (ネットワーク共有 / ディレクトリ)  /

ユーザ名

パスワード

リモートホストのテスト  (状態:--)

---

ローカルバックアップソース

ソースパス(ネットワーク共有 / ディレクトリ)  /

---

レプリケーションをすぐに実行

レプリケーションスケジュール  時 :  分

毎日

週単位

月単位  日

---

ファイル圧縮を有効にする

リモートレプリケーションを実行する際に、webファイル管理サービスを停止する

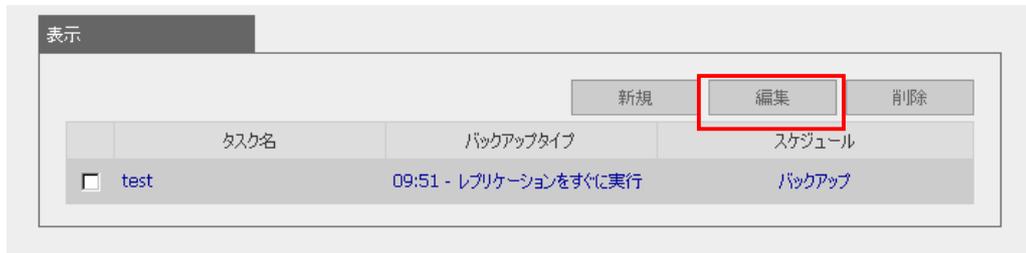
新しいファイルだけレプリケーションする

リモート先の余分なファイルを削除する

**注意:** リモートレプリケーションを使用するには、Microsoft ネットワークを有効にし、目的のネットワーク共有とディレクトリが作成されており、ユーザ名とパスワードが目的のフォルダへログインするのに有効であることを確認します。

## ii. 編集

- a. 編集するジョブを選択します。
- b. [編集]をクリックします。



- c. 設定を編集します。
- d. [OK]をクリックして保存するか、[キャンセル]をクリックして終了します。

リモートレプリケーションの編集

タスク名

---

リモートバックアップソース

リモートホスト名 / IPアドレス

リモート先のパス (ネットワーク共有 / ディレクトリ)  /

ユーザ名

パスワード

リモートホストのテスト  (状態:--)

---

ローカルバックアップソース

ソースパス (ネットワーク共有 / ディレクトリ)  /

---

レプリケーションをすぐに実行

レプリケーションスケジュール  時 :  分

毎日

週単位

月単位  日

---

ファイル圧縮を有効にする

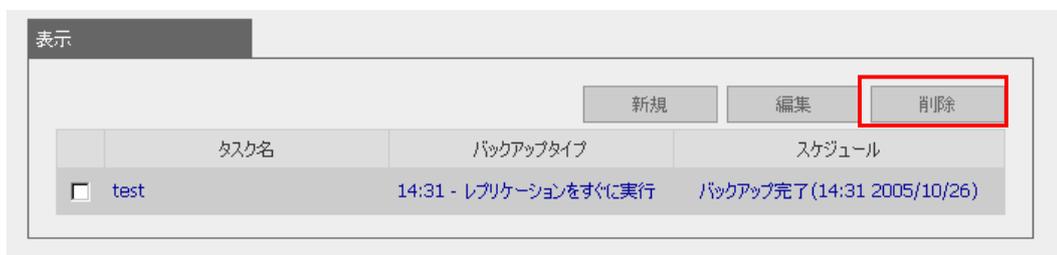
リモートレプリケーションを実行する際に、webファイル管理サービスを停止する

新しいファイルだけレプリケーションする

リモート先の余分なファイルを削除する

### iii. 削除

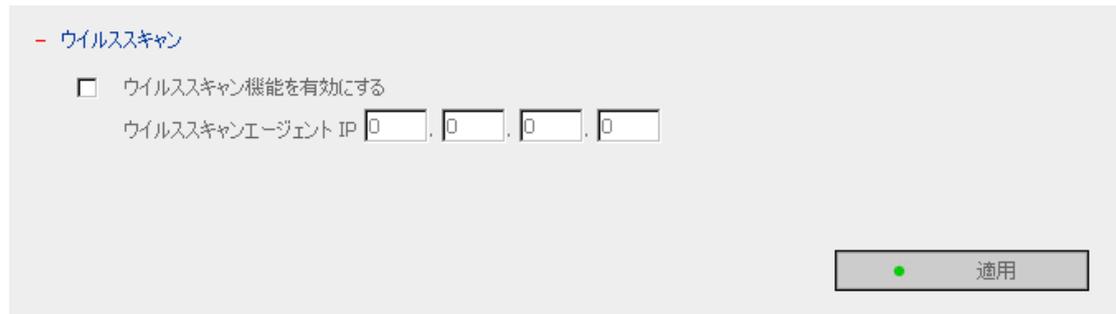
- a. 削除するジョブを選択します。
- b. [削除]をクリックします。



**注意:** リモートレプリケーションは対抗機の言語設定が異なると正常に動作できません。詳細は「付録 E: 『Unicode』と『日本語』設定について」をご参照ください。

## 3.9.8 ウィルススキャン

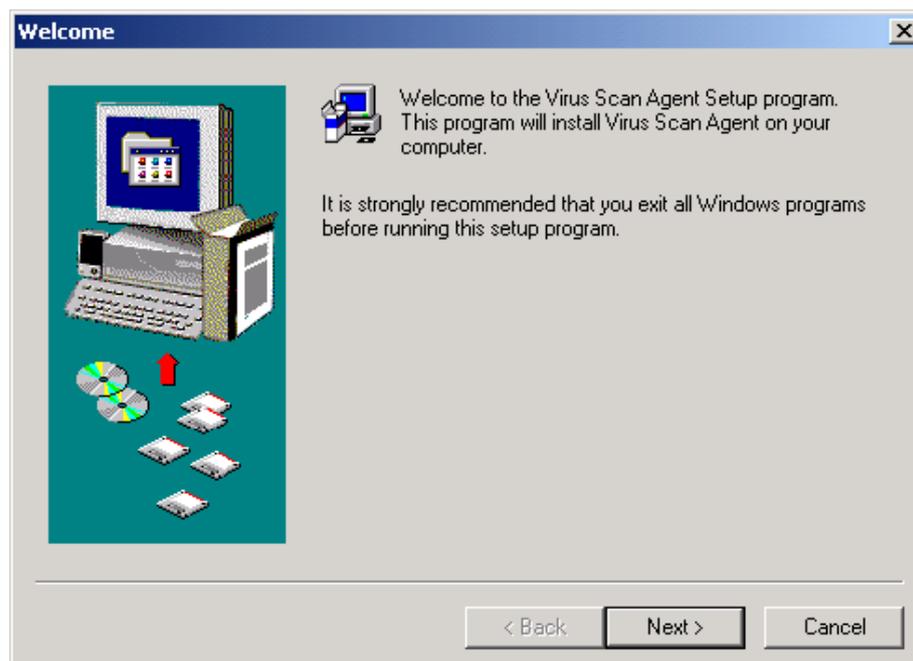
ウィルススキャンエージェントによって、システムをウィルスの感染から保護できます。Windows NT または Windows 2000、Windows2003 のサーバは、リアルタイム検索可能なウィルススキャンを実行するようにインストールされたウィルススキャンソフトウェアとともに作動させる必要があります。ウィルススキャンサポートを有効にするには、ネットワーク共有の IP アドレス、管理者 ID およびパスワードを指定します。



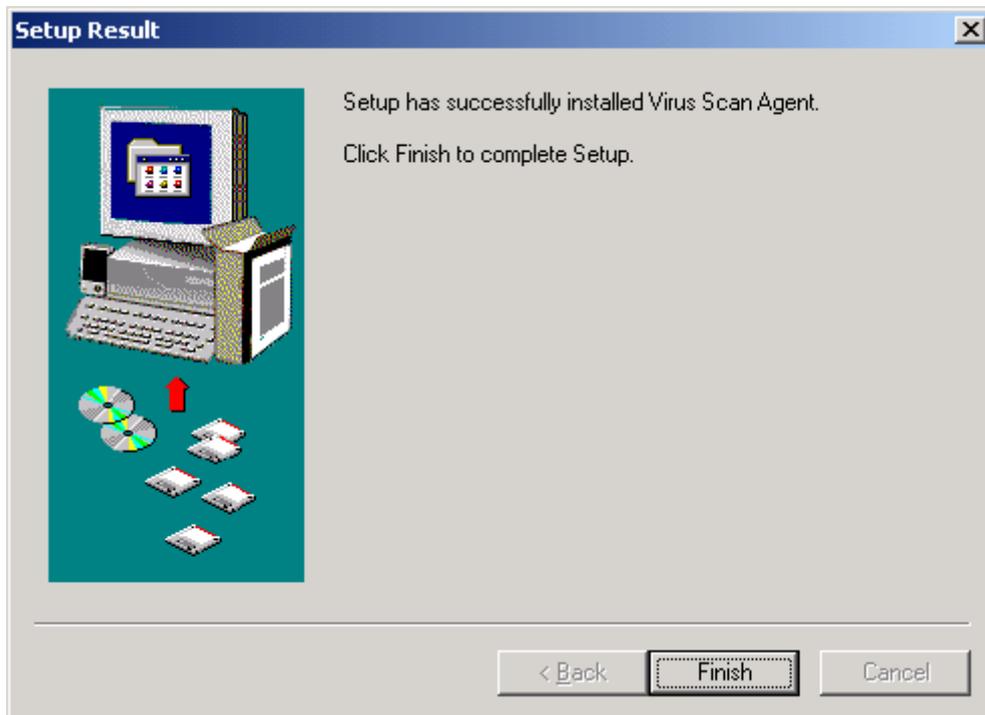
### ウィルススキャンエージェントのインストール

ウィルススキャンエージェントとウィルス対策ソフトウェアが、ウィルススキャンを実行する同じコンピュータにインストールされていることを確認してからエージェントを起動します。次のステップにしたがってウィルススキャンエージェントをインストールします。

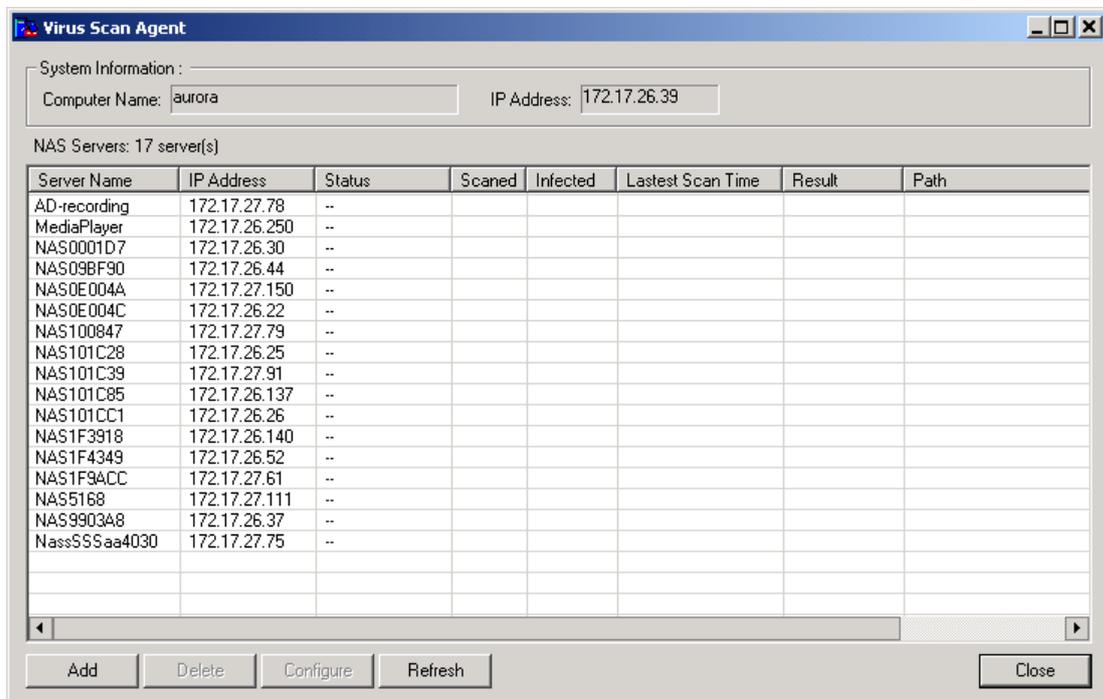
本製品のガイド CD に含まれている [Install Virus Scan Agent] を実行します。[Next] をクリックしてウィルススキャンエージェントのセットアップを続けます。



[Finish]をクリックして終了します。



ウィルススキャンエージェントを初めてインストールした場合は、画面にシステム情報が表示されま  
す。

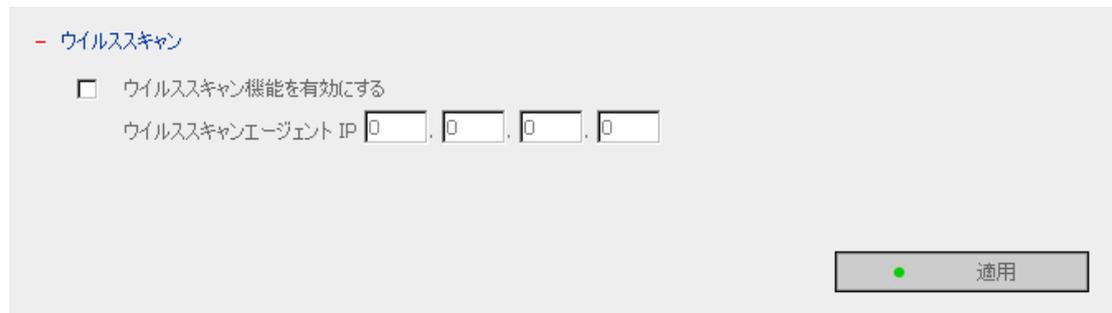


フィールドの説明は次のとおりです。

フィールド	説明
Server Name	ウイルススキャンエージェントに保護されているネットワーク共有の名前
IPAddress	ネットワーク共有の IP アドレス
Status	ウイルススキャンエージェントをインストールしているホストネットワーク共有の接続状態 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 未接続: ネットワークに接続されていません。</li> <li>• 待機: 接続は有効になりましたが、3 分から数分の間はファイルの転送はありません。</li> <li>• 準備完了: 接続は有効になり、スキャンの準備が完了しました。</li> <li>• -: ユーザー名とパスワードが設定されていません。</li> </ul>
Infected	感染したファイルの数
Lastest Scan Time	前回ウイルススキャンを行った日付と時間
Result	スキャン結果: OK: 感染しているファイルはありません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ウィルス検出: ウィルスが見つかりました。ウィルスに感染したファイルの名前は、他のファイルをスキャンしているために表示されません。管理者ページに進んで感染したファイルの名前と保存場所を表示します。</li> <li>• アクセス拒否: サーバへのアクセスは拒否されました。</li> </ul> <b>認証拒否:</b> ログインユーザ ID は、ネットワーク共有のフォルダにアクセスするときに認証されませんでした。
Path	ネットワーク共有のファイルの保存場所

## ウイルススキャン機能を有効にする

[システムツール]>[ウイルススキャン]を選択します。ウイルススキャン機能を有効にするには、[ウイルススキャン機能を有効にする]ボックスをチェックします。ウイルススキャンサーバの IP アドレスを入力して[適用]をクリックします。



- ウイルススキャン

ウイルススキャン機能を有効にする

ウイルススキャンエージェント IP  .  .  .

適用

## ウイルスに感染したファイルの詳細を表示

ネットワーク共有のウイルスに感染したファイルの詳細を表示するには、[統計とログ]>[イベントログ]を選択します。表に警告メッセージが表示されます。



Statistics & Logs

- Active Users
- Event Logs
- DHCP Logs

Display: All events (dropdown) | There are 2 events. | Page: 1 (dropdown)

Type	Content	Date	Time
Error	Virus found in the file: /public/virus	05/15/2003	17:03:02
Information	Connection to Virus Scan Agent is successful. Virus Scan protection is activated	05/15/2003	17:02:52

Refresh (button) | Clear (button)

**注意:**ウイルススキャン機能は Unicode に対応していません。詳細は「付録 E: 『Unicode』と『日本語』設定について」をご参照ください。

## 3.9.9 設定のバックアップ／リストア／リセット

設定をバックアップするには該当するオプションを選択して[バックアップ]をクリックします。設定バックアップファイルを復旧させるには、[参照]をクリックしてファイルを選択してから[リストア]をクリックします。設定を工場出荷時のデフォルトにリセットするには、該当するオプションを選択して[リセット]をクリックします。

- バックアップ/リストア/リセット設定

- ・ 設定をリストアするには、バックアップしたいファイルを選択した後、「リストア」ボタンを押してください。
- ・ バックアップ設定を行うには、オプションを選択し、「バックアップ」ボタンを押してください。
- ・ 設定情報を工場出荷値に戻すには、オプションボタンを選択して「リセット」ボタンを押してください。

ユーザ・グループ設定  
 ディスク設定  
 共有フォルダ設定  
 ハードウェア設定  
 システム設定  
 ネットワーク設定  
 すべての設定

※ご注意。「ディスク設定」がリセットされると HDD は RAID0(ストライピング)で再構築されます。

## 3.9.10 バックアップエージェント

※本機能はサポート対象外となります。

バックアップエージェントを使用すると、本製品は特定のバックアッププログラムをサポートできます。より多くのテープドライバやテープライブラリと互換性があるだけでなく、バックアップエージェントは、異なる OS 上にある複数のサーバで行われたバックアップや復旧もサポートします。

- バックアップエージェント

クライアント用バックアップエージェントをインストールするには、'Browse...'ボタンを押してイメージファイルが置かれている場所を指定してください。その後'エージェントのインストール'ボタンを押すとインストールが開始されます。クライアント用バックアップエージェントを削除するには、'削除'ボタンを押してください

バックアップエージェントのインストール：インストールされていません

---

バックアップエージェントを有効にする

バックアップエージェントのパスワード：

ステータス：インストールされていません

## バックアップエージェントのインストール

次のステップにしたがってバックアップエージェントをインストールします。

バックアップエージェントプログラムをクライアント PC のローカルディスクに保存します。

バックアップエージェントプログラムの情報については、テクニカルサポートにお問い合わせください。

バックアップエージェントを設定します。

- 本製品の管理ページに進みます。[システムツール]>[バックアップエージェント]を選択します。
- [参照]をクリックして[バックアップエージェントプログラム]を選択します。
- [エージェントのインストール]をクリックします。インストールが終了すると、バックアップエージェントの名前、NetVault 6.5.3 が表示されます。

- バックアップエージェント

クライアント用バックアップエージェントをインストールするには、'Browse...'ボタンを押してイメージファイルが置かれている場所を指定してください。その後'エージェントのインストール'ボタンを押すとインストールが開始されます。クライアント用バックアップエージェントを削除するには、'削除'ボタンを押してください

<input type="text"/>	参照...	エージェントのインストール
----------------------	-------	---------------

バックアップエージェントのインストール：インストールされていません

	削除
--	----

---

バックアップエージェントを有効にする

バックアップエージェントのパスワード：

ステータス：インストールされていません

バックアップエージェントを設定して有効にします。

- d. [バックアップエージェントを有効にする]にチェックを入れます。
- e. バックアップエージェントのパスワードを入力します。
- f. [適用]をクリックします。ステータスに状態が表示されます。

- バックアップエージェント

クライアント用バックアップエージェントをインストールするには、'Browse...'ボタンを押してイメージファイルが置かれている場所を指定してください。その後'エージェントのインストール'ボタンを押すとインストールが開始されます。クライアント用バックアップエージェントを削除するには、'削除'ボタンを押してください

---

バックアップエージェントを有効にする

バックアップエージェントのパスワード:

ステータス: インストールされていません

## 3.9.11 自動起動／停止

この機能により、本製品はシステムの起動と停止を自動的に行うスケジュールを指定できます。設定変更後、変更が適用されるまで少し時間がかかります。予想と異なる結果になることを避けるために、5分～10分以上の時間を空けた設定を行ってください。

**自動起動 / 停止設定**

ある時間に自動的に起動もしくは停止させるには、チェックボックスにチェックをつけ、希望する時間を指定してください。その後'設定'ボタンを押してください

**警告:** すべての設定は、有効になるまで1分かかります。設定された時間は間隔が近すぎるため、予期せぬ動作を発生する可能性があります。

---

指定した時間に自動起動機能を有効にする

	新しいスケジュール	現在のスケジュール
起動スケジュール	08 時 : 00 分	08 : 00
<input checked="" type="radio"/> 毎日 <input type="radio"/> 週単位 <input type="radio"/> 月単位	日曜日 01 日	Daily

---

指定した時間に自動停止機能を有効にする

	新しいスケジュール	現在のスケジュール
停止スケジュール	23 時 : 00 分	23 : 00
<input checked="" type="radio"/> 毎日 <input type="radio"/> 週単位 <input type="radio"/> 月単位	日曜日 01 日	Daily

● 適用

## 3.10 統計&ログ

現在本製品にオンライン中のすべてのユーザのイベントログを、システム監視のために表示できます。

- **ユーザ情報**

このページでは、現在システムにログオンしているすべてのユーザを表示します。

- **イベントログ**

本製品は、警告、エラー、情報メッセージを含む最近のイベントログを保存できます。システムに異常が発生した場合、イベントログを読み出してシステム問題の分析に役立てることができます。

- **DHCP ログ**

DHCP サーバ機能が有効になっている場合は、DHCP ログをすべての指定された動的なアドレス、クライアント MAC アドレス、その他の情報の監視に使えます。

The screenshot shows a web-based interface for system logs. On the left is a sidebar menu with '統計 & ログ' (Statistics & Logs) selected, containing sub-items for 'ユーザ情報' (User Information), 'イベントログ' (Event Log), and 'DHCPログ' (DHCP Log). The main area displays a table of log entries. At the top of the table, there is a dropdown menu set to 'すべて選択' (Select All) and a status indicator 'ログファイルが7 件あります' (7 log files). A page number '1' is shown in a dropdown. The table has four columns: 'タイプ' (Type), '内容' (Content), '日付' (Date), and '時間' (Time). Below the table are two buttons: '更新' (Refresh) and 'クリア' (Clear).

タイプ	内容	日付	時間
情報	/dev/hde1: 28/51328 files (0.0% non-contiguous), 1637/51274 blocks. [e2fsck]	01/18/2006	13:15:59
情報	/dev/hde1 check forced. [e2fsck]	01/18/2006	13:15:59
情報	/dev/hdg1: 23/51328 files (0.0% non-contiguous), 1630/51274 blocks. [e2fsck]	01/18/2006	13:15:57
情報	/dev/hdg1 check forced. [e2fsck]	01/18/2006	13:15:57
情報	System started.	01/18/2006	13:15:55
情報	One of the network connections is not detected.	01/18/2006	13:15:54
情報	System was shut down on Wed Jan 18 13:14:11 GMT 2006.	01/18/2006	13:14:11

## 第 4 章 MONOLITH へのアクセス

本製品の初期設定と設定が済み、ユーザを登録してアクセス権を設定したら、クライアントPCからMonolithに作成した共有フォルダを利用することができるようになります。ここではOSごとに、クライアントPCの設定と本製品の利用方法を説明します。

### 4.1 Microsoft Windows NT 4.0/2000/XP から使う場合

#### 4.1.1 クライアント PC の設定

次の仕様のクライアントPCをサポートしています。

Windows NT4.0/2000/XP/Vista	
ネットワークアダプタ	Ethernet (TCP/IP) 対応のネットワークアダプタ
プロトコル	OSに標準搭載のTCP/IP

クライアントPCのネットワーク設定をご確認ください。

本製品を利用するPCと本製品が同一のネットワーク環境で接続されており、かつIPアドレスが異ならなければなりません。同じDHCPサーバからIPアドレスを配布されている場合は、問題ありません。なお、192.168.0.0や172.16.0.255は特別な用途があるので使用できませんのでご注意ください。

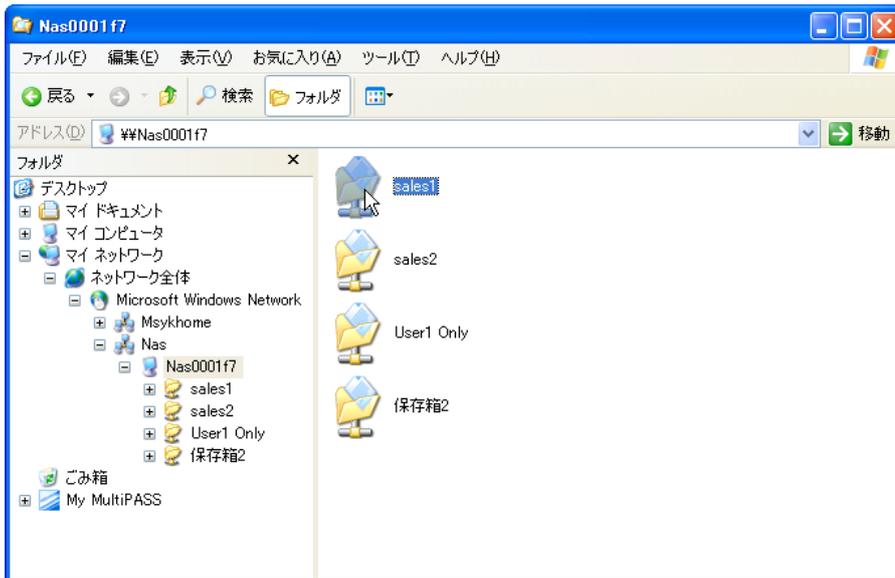
本製品をファイルサーバとして使用するクライアントPCでは、次のプロトコルが必要です。

Windows NT4.0/2000/XP/Vista	TCP/IPにバインドしたMicrosoftネットワーククライアント
-----------------------------	------------------------------------

プロトコルが使用できるようになっている以外にも、通常は[優先的にログオンするネットワーク]で、Microsoftネットワーククライアントを選択しておきます。

Windows NT系(Windows NT4.0、2000、XP、Vista)の場合は、ユーザ名とコンピュータ名を同一にする必要はありません。ログオン時のユーザ名とパスワードを、Monolithに登録した情報と同一にしておく事で、Monolithを参照した際に、アクセス権のあるフォルダが(パスワードを聞かれることなく)参照可能になります。

## 4.1.2 Windows XPからの接続



Monolithが適切に機能していれば、マイネットワークの中に、Monolithのボリュームが表示されます。

方法はいろいろありますが、エクスプローラのウィンドウを呼び出して、階層をたどるのがどんな場合でも通用する方法でしょう。

エクスプローラのウィンドウは、[Windowsキー]+[E]で呼び出せます。あるいは、スタートメニューからマイコンピュータを呼び出します。そうすれば、すぐに左側に「マイネットワーク」のリンクも見えているので、そこからたどってもいいでしょう。

いずれにしても、ウィンドウの左側にフォルダを表示して、階層的にたどりやすいようにします。

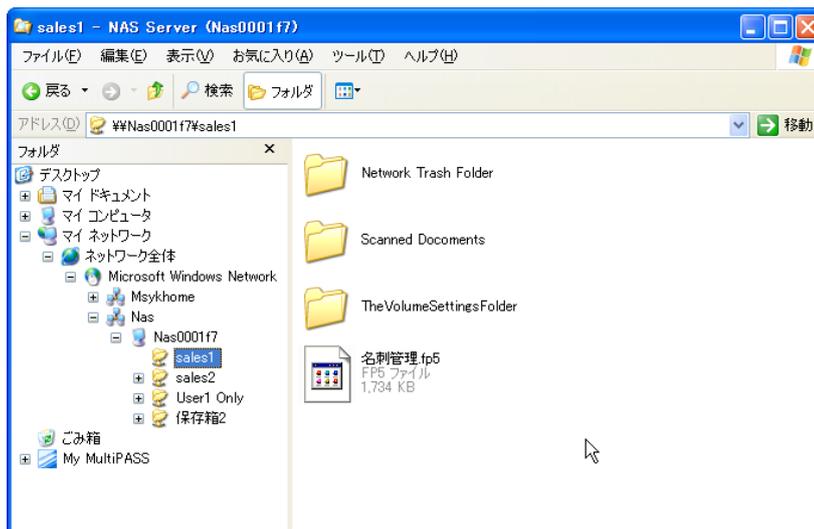
ツールバーの「フォルダ」ボタンをクリックするか、「表示」メニューの「エクスプローラバー」から「フォルダ」の項目を選択し、左側にフォルダ一覧を表示します。そして、マイネットワーク→ネットワーク全体→Microsoft Windows Networkとたどると、認識されているワークグループが表示されます。例えば、「マイネットワーク」と書かれた左側に、+マークのボックスがあります。そこをクリックすると、-マークとなり、その下の階層に属するものが一段下がった位置に表示されます。

ここでは、NASというワークグループにMonolithを設定しているので、そのワークグループをさらに下位にたどると、Monolithのマシン名「NAS00017F」が見えています。さらにその下位の項目が、Monolithで公開されている共有ボリュームの一覧になっています。



ここで、ログインしたいMonolithの共有ボリュームを開こうとすると、Monolithの側に設定したアカウントとパスワードの入力を要求されます。

ユーザー名とパスワードは、Monolithで設定しその公開ボリュームに対するアクセス権があるユーザーを指定します。必要に応じて「パスワードを記憶する」をチェックします。このチェックが入っていると、次のログインのときも同じダイアログボックスが出てきますが、パスワードユーザー名やパスワードは以前にログインしたときのものが自動的に設定されません。



これで、sales1という共有ボリュームに接続して、利用できるようになりました。図は、sales1のルートの内容を一覧表示しているところです。

もちろん、このまま利用してもかまいませんが、ここでマウントしたボリュームのルートであるsales1のアイコンをデスクトップにドラッグ&ドロップすると、そこにsales1へのショートカットが作成されます。そうすれば、次回からMonolithの共有ボリュームを使う場合には、デスクトップにあるsales1へのショートカットをダブルクリックすれば良いだけになります。

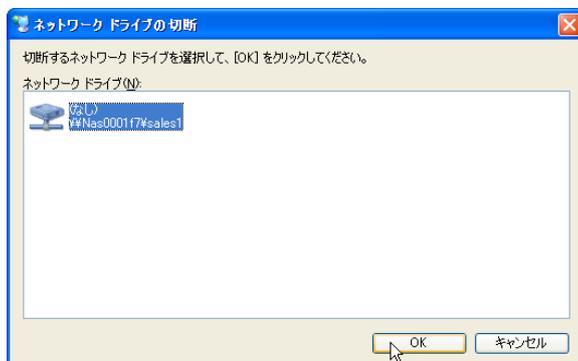
#### 4.1.3 Windows XP : マイネットワークの活用のヒント

過去にアクセスが成功したボリュームのショートカットに相当するものが、「マイネットワーク」の直下の階層に作成されます。従って、「マイネットワーク」を開ければ、過去にアクセスした共有ボリュームのアイコンができていますので、その場ですぐにログインができます。ショートカットを作らなくても、マイネットワークを呼び出せば、過去にアクセスしたMonolithにすぐにアクセスできます。

「マイネットワーク」をよく使うのであれば、スタートメニューに「マイネットワーク」の項目を作っておくとよいでしょう。そのためには、コントロールパネルを呼び出し、「デスクトップの表示とテーマ」を選択します。そして、「タスクバーと[スタート]メニュー」を選択すると、ウィンドウが表示されます。そこで、「[スタート]メニュー」のタブを選択し、「[スタート]メニュー」が選択されているのを確認して、「カスタマイズ」ボタンをクリックします。さらにウィンドウが表示されるので、「詳細設定」のタブを選択して、「[スタート]メニュー項目」のリストで、「マイネットワーク」の項目を探して、チェックを入れておきます。

なお、「マイネットワーク」を呼び出して何も表示されないと思った場合には、「ワークグループのコンピュータを表示する」のネットワークタスクを実行してみてください。ウィンドウにリンクテキストが表示されています。

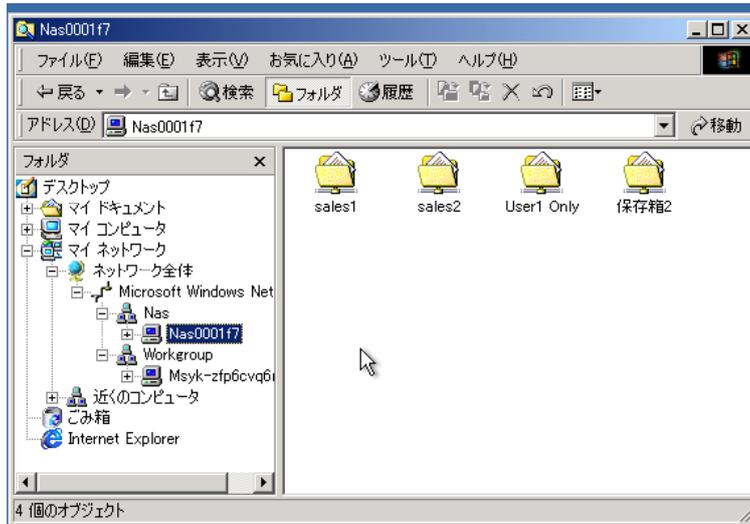
#### 4.1.4 Windows XP : サーバからのログオフ



接続しているサーバからログオフしたい場合には、エクスプローラのウィンドウで、「ツール」メニューから「ネットワークドライブの切断」を選択してください。もちろん、「マイネットワーク」を呼び出したウィンドウにその項目が表示されています。

現在ログインしているサーバが一覧されるので、ここで、選択してOKボタンをクリックすれば、ログオフができます。

## 4.1.5 Windows 2000 からの接続

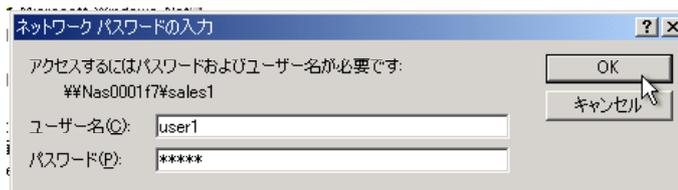


Windows 2000も基本的にはWindows XPと同様です。エクスプローラのウインドウで、フォルダ表示をして、「マイネットワーク」から、「ネットワーク全体」→「Microsoft Windows Network」とたどることで、ワークグループの一覧になり、そこで、ワークグループの中にあるMonolithの名前を選択すると、公開されている共有ボリュームが一覧されます。

[Windowsキー]+[E]でエクスプローラのウインドウが呼び出せますが、デスクトップにある「マイネットワーク」のアイコンをダブルクリックして開いて行ってもいいでしょう。



共有ボリュームを開こうとすると、最初にログインするユーザ名とパスワードをたずねるダイアログボックスが表示されます。ここでは、もちろん、Monolithに登録されていて、その公開ボリュームに対するアクセス権が存在するユーザを指定します。



ログインすると、フォルダの内容が表示されます。以後は通常のハードディスクと同様です。また、ログインすると「マイネットワーク」に項目が追加されること、さらには共有ボリュームのショートカットをデスクトップに作成できることなど、Windows XPと共通ですので、前に記載した部分を参照してください。



サーバからのログオフもWindows XPと同様で、エクスプローラのウインドウで、「ツール」メニューから「ネットワークドライブの切断」を選択してください。

現在ログインしているサーバが一覧されるので、ここで、選択してOKボタンをクリックすれば、ログオフができます。

#### 4.1.6 Windows でサーバがブラウズできない場合

Windowsでブラウズ、つまり公開されているサーバの一覧が表示されない場合には、アドレスに直接サーバ名を入力します。エクスプローラのウインドウに「アドレス」欄が表示されますが、表示されていない場合には、「表示」メニューの「ツールバー」から「アドレスバー」を選択します。

そして、アドレスに「\\サーバ名公開ボリューム名」と入力して、Enterキーを押します。

「サーバ名」は、例えばNAS0001F7などですが、ここでの名前は、Monolithの前面のパネルに表示されている名称でかまいません。サーバ名の代わりにIPアドレスでもかまいません (Windows XP/2000の場合)。公開ボリューム名は省略することができます。

以上のアドレスへのアクセスによって、マイネットワークの下層に、接続したサーバが追加されます。

場合によってはネットワークの認識がうまくいかず、こうした手法での接続も必要です。

なお、ネットワーク上でのへだたりがある先のMonolithの場合は、必ずこうした方法での接続が必要になります。そのとき、サーバ名は、ドメイン名やあるいはIPアドレスを直接入力すればいいでしょう。

Windows 2000/XPの場合に、ドライブに公開ボリュームを割り当てるには、エクスプローラのウインドウで、「ツール」メニューから「ネットワークドライブの割り当て」を選択します。このとき、接続ごとに別々のアカウントを設定することもできます。

補 足	使用するクライアントPCを他の人が使う可能性がまったくない時 (Windowsの起動時パスワード等を入力している時)、 [このパスワードを保存する] をチェックしておくと次回以降パスワードの入力を省略できます。
-----	--

## 4.2 Microsoft Windows 98SE/Me から使う場合

### 4.2.1 クライアント PC の設定

次の仕様のクライアントPCをサポートしています。

Windows 98SE/Me	
ネットワークアダプタ	Ethernet (TCP/IP) 対応のネットワークアダプタ
プロトコル	OSに標準搭載のTCP/IP

クライアントPCのネットワーク設定をご確認ください。

本製品を利用するPCと本製品が同一のネットワーク環境で接続されており、かつIPアドレスが異ならなければなりません。同じDHCPサーバからIPアドレスを配布されている場合は、問題ありません。なお、192.168.0.0や172.16.0.255は特別な用途があるので使用できませんのでご注意ください。

本製品をファイルサーバとして使用するクライアントPCでは、次のプロトコルが必要です。

Windows 98SE/Me	TCP/IPの Microsoftネットワーククライアント
-----------------	----------------------------------

プロトコルが使用できるようになっている以外にも、通常は「優先的にログオンするネットワーク」で、Microsoftネットワーククライアントを選択しておきます。

補 足	使用するクライアントPCを他の人が使う可能性がまったくない時 (Windowsの起動時パスワード等を入力している時)、[このパスワードを保存する]をチェックしておく次回以降パスワードの入力を省略できます。
-----	--

この後は、通常のWindowsのフォルダと同様にファイルを作成したり、コピーしたりできます。

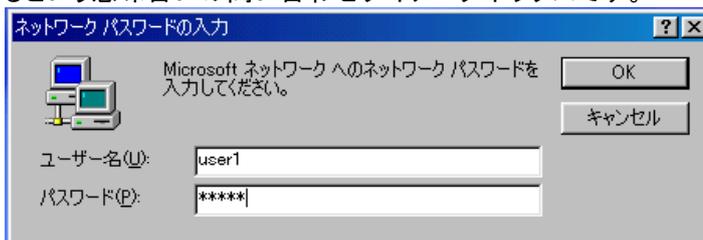
Windows 9x系 (Windows 98SE、Me) のOSでご使用の場合、「ネットワークパスワードの入力」画面で (起動時に入力するユーザ名とパスワード) 表示されるユーザ名とコンピュータ名を同一にする必要があります。ここで設定したユーザ名とパスワードを、Monolithに登録した情報と同一にしておく事で、Monolithを参照した際にアクセス権のあるフォルダが (パスワードを聞かれることなく) 参照可能になります。

コンピュータ名は「ネットワークコンピュータ」アイコン上で右クリック>プロパティ>識別情報で表示されます。

現在、ネットワークパスワードを使用していない場合は、「ネットワークコンピュータ」アイコン上で右クリック>プロパティ>ネットワークの設定>優先的にログオンするネットワーク>Microsoftネットワーククライアントに変更します。また、ユーザとパスワードはスタート>設定>コントロールパネルの中の「ユーザ」及び「パスワード」の項目で、それぞれ変更可能です。

### 4.2.2 Windows 98SE/Me からの接続

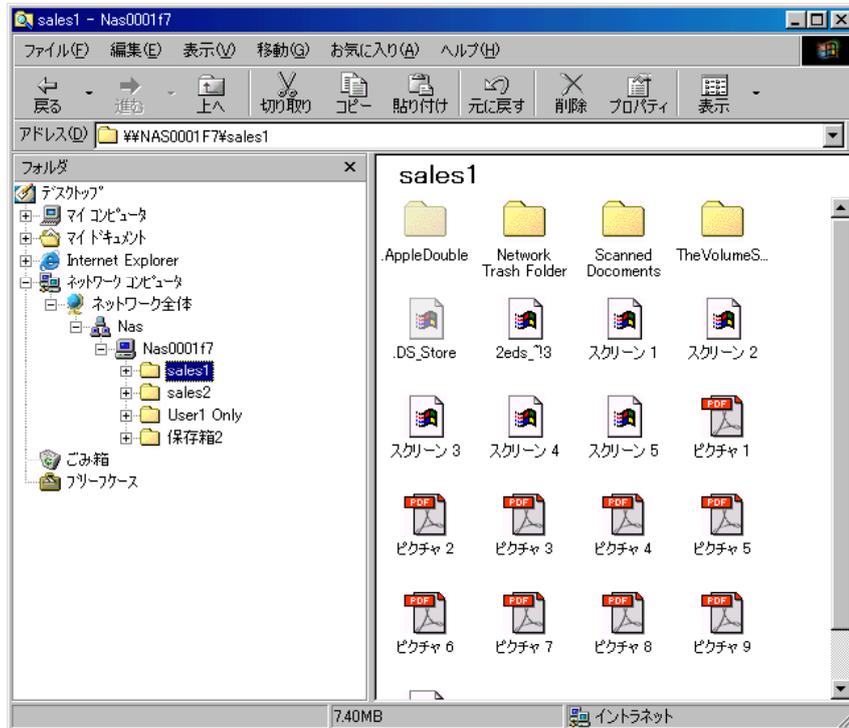
Windows 98SE/Meではいくらか手順が違います。これらのOSの場合には、まず、Windowsにログインする時に、Monolithに登録したアカウントでログインします。ログイン時にウィンドウが出てきますので、ここで、Monolithに登録したユーザ名とパスワードを間違えないように入力します。間違えてもここではエラーになりません。これはログインというよりも、後でサーバにログインする時にはここで指定したユーザ名とパスワードを使って接続を試みるという意味合いの問い合わせダイアログボックスです。



そして、エクスプローラのフォルダ表示を使って、ネットワークコンピュータからたどって、Monolithにたどりつくことが1つの方法です。[Windowsキー]+[E]でエクスプローラを呼び出すと、最初からフォルダが左側に表示されているでしょう。あるいは、デスクトップの「ネットワークコンピュータ」から開いて行ってもいいでしょう。

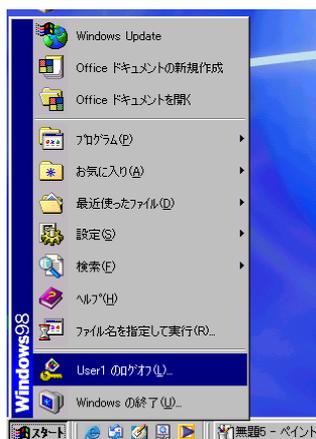
ただ、Windows 98SE/Meは、Windows 2000/XPよりもブラウザできない確率が高いと言えるでしょう。

その場合は、71ページの「Windowsでサーバがブラウザできない場合」を参照してください。



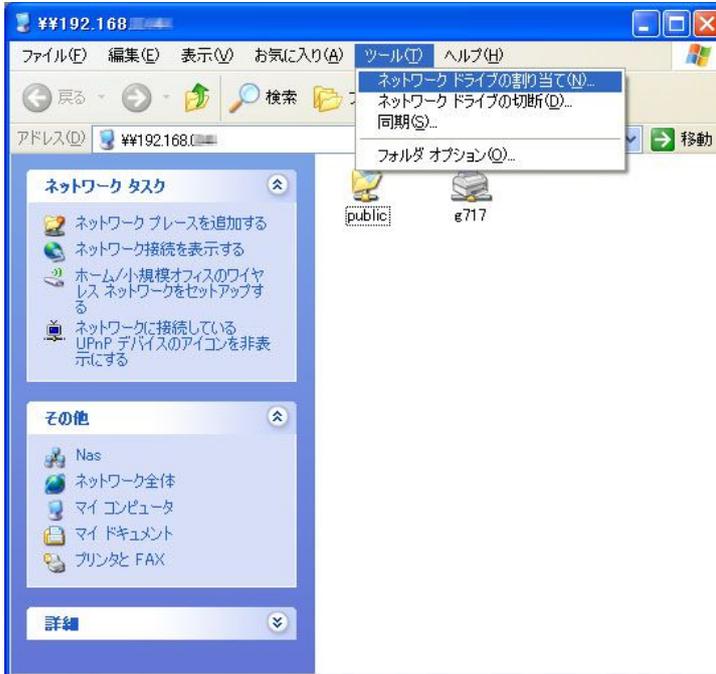
なお、異なるユーザ名でログインしたいという場合は、Windowsシステムからのログオフを行い、ログイン時に新たなサーバ向けのアカウントでログインする必要があります。

ログオフするには、スタートメニューから選択します。その後、ログイン前にユーザ名とパスワードをたずねるダイアログボックスが表示されます。



## 4.2.3 サーバ接続をドライブに割り当てる

本製品に接続すると、すべての有効なネットワーク共有の一覧が表示されます。適切なネットワーク共有フォルダを選択し、右クリックで[ネットワークドライブの割り当て]を選択します。



次回起動したときに共有フォルダを使用できるようにしたい場合は、ポップアップウィンドウの[ログオン時に再接続する]ボックスをオンにし、[OK]をクリックして、このフォルダをネットワークドライブとして位置づけます。



補 足	<p>ドライブの割り当て時に[ログオン時に再接続]をチェックしておくと、ログオン時 (Windowsの起動時) に自動的に共有名がドライブ割り当てられ、あたかも新しくドライブを増設したかのように使用できます。</p>
-----	--

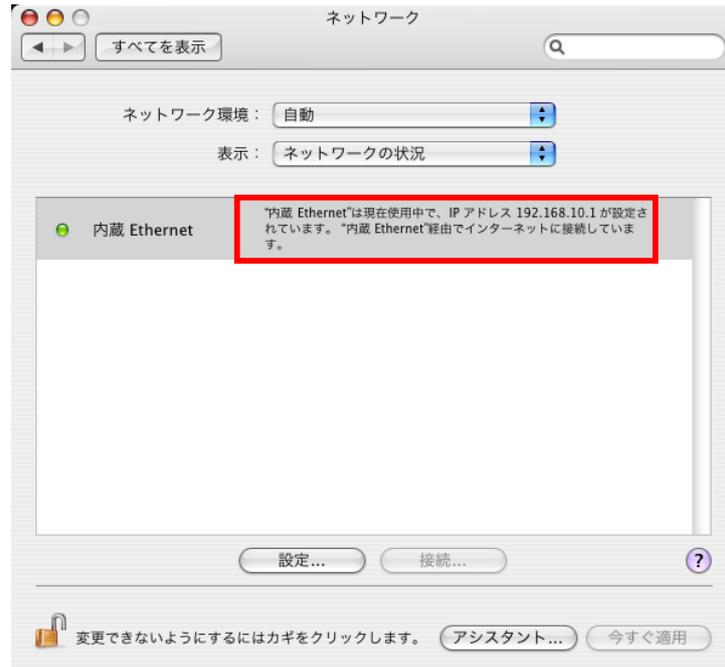
## 4.3 Apple MAC OS X でのご使用の場合

Apple Mac ユーザの場合は、次の方法で本製品にアクセスします。

### 1. Apple Talk で接続をおこなう

- a. [システム環境設定]よりを選択し、[ネットワーク]を実行します。

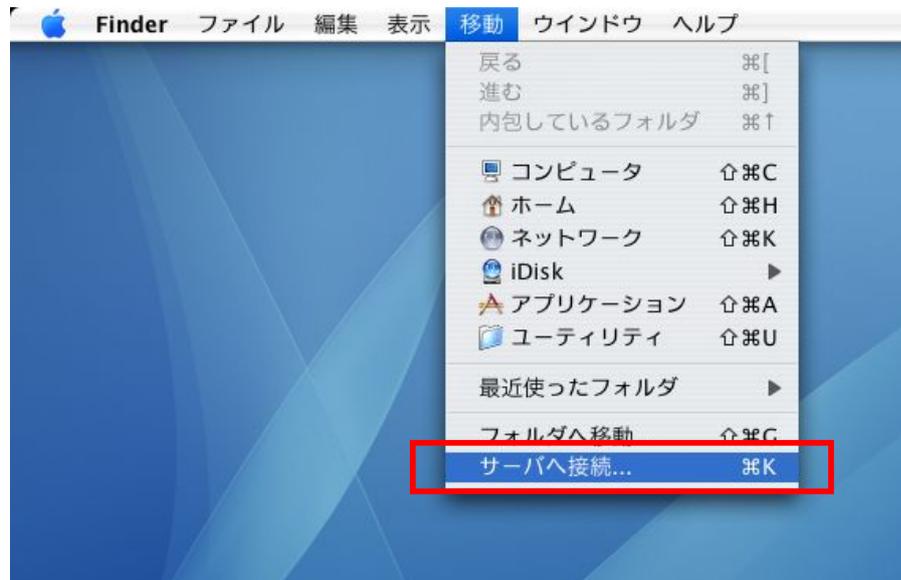
現在ネットワークに接続している事を確認してください。



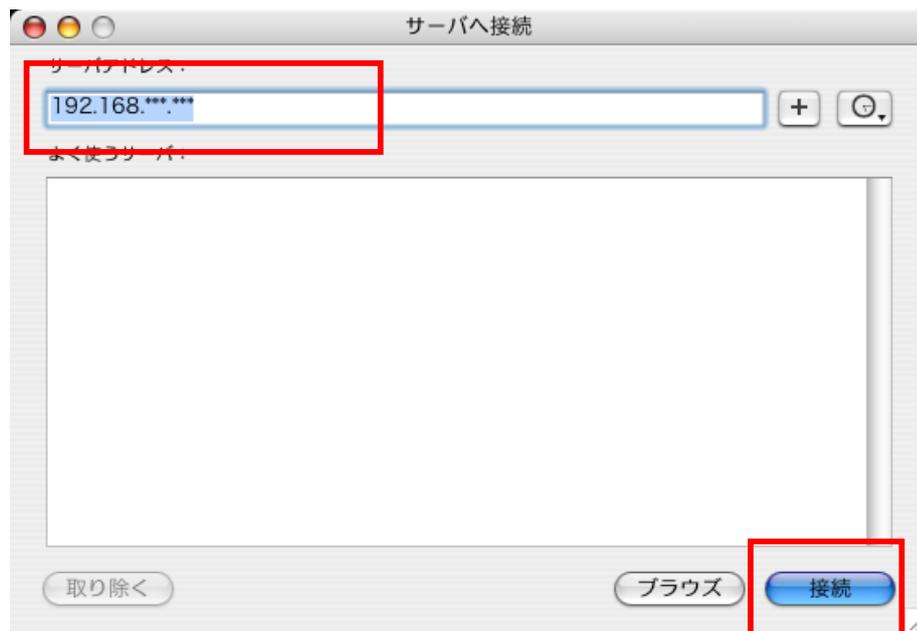
- b. 「表示」 [ネットワーク環境]から、[内蔵 Ethernet]へ変更し、[Apple Talk]のチェックを有効にし[適応]をクリックしてください。



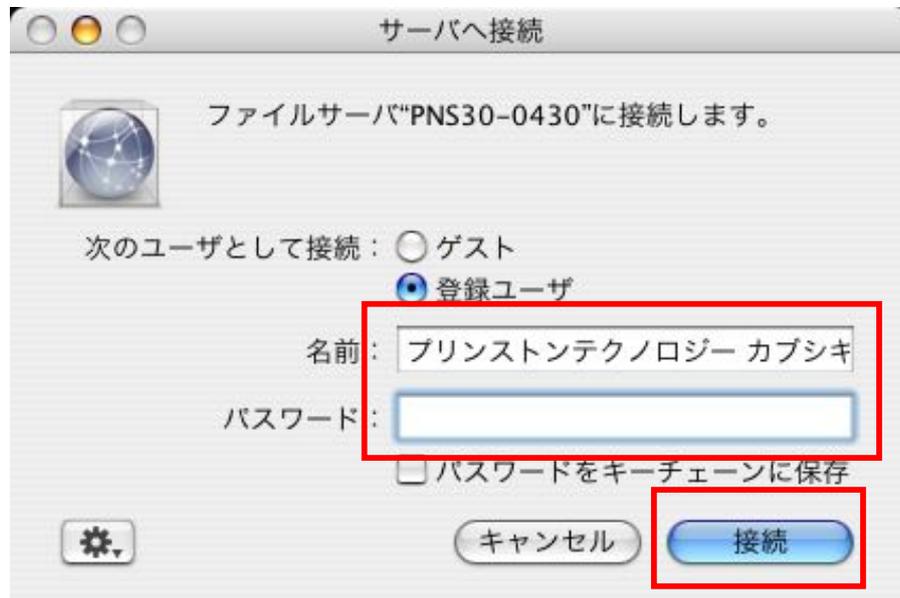
- c. [移動]メニューより、[サーバへ接続]をクリックしてください。



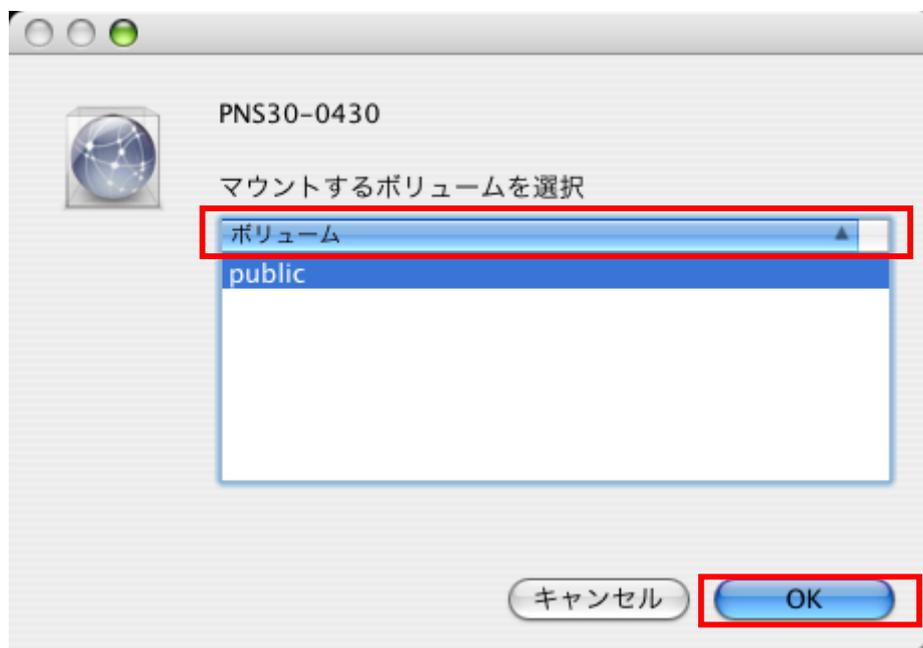
- d. [サーバへ接続]メニューが表示されます。  
PNS30 の IP アドレスを入力し、[接続]をクリックしてください。



- e. 接続先の PNS30 が見つかりとログインメニューが表示されます。  
[名前]と[パスワード]を入力[接続]をクリックしてください。



- f. PNS30 へ正常に繋がると、現在利用可能なボリュームが表示されます。  
ご利用になるボリュームを選択して[OK]をクリックしてください。



- g. 選択したボリューム内が表示されます。



- h. 接続が完了すると、デスクトップ上に接続されたボリュームがアイコンとなって現れます。  
このアイコンから、ボリュームを開く事ができます。



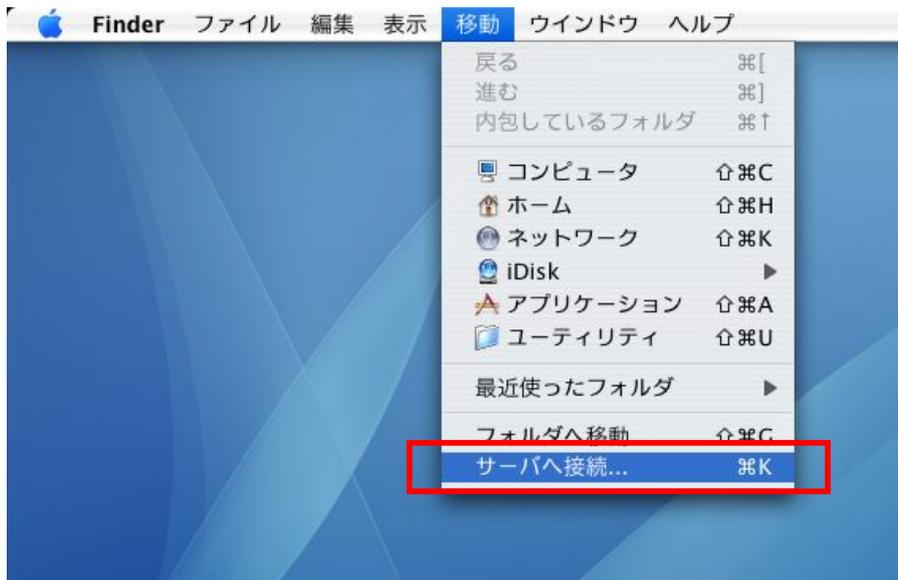
## 2. SMB で接続をおこなう

- a. [システム環境設定]よりを選択し、[ネットワーク]を実行します。

現在ネットワークに接続している事を確認してください。



- b. [移動]メニューより、[サーバへ接続]をクリックしてください。



- c. [サーバへ接続]メニューが表示されます。

「smb://」に続き PNS30 のアドレスを入力し、[接続]をクリックしてください。

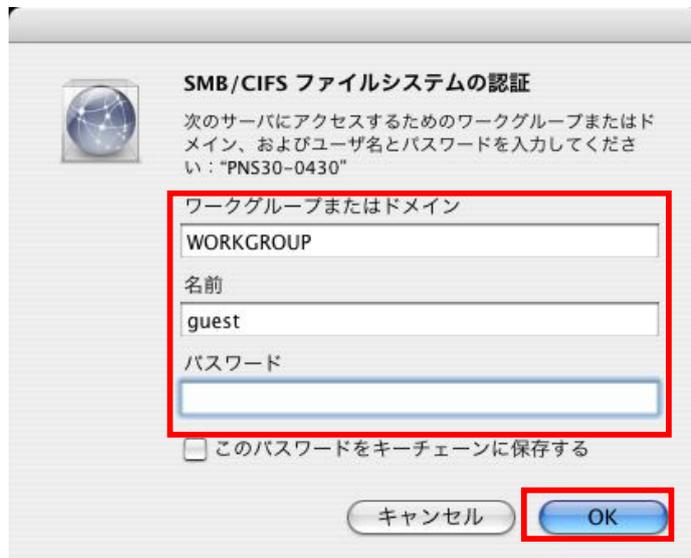


- d. PNS30 へ正常に繋がると、現在利用可能なボリュームが表示されます。

ご利用になるボリュームを選択して[OK]をクリックしてください



- e. ファイルシステムの認証を受ける為に、ワークグループ又はドメインと名前、パスワードを入力し、[OK]をクリックしてください。



- f. 選択したボリューム内が表示されます。



- g. 接続が完了すると、デスクトップ上に接続されたボリュームがアイコンとなって現れます。このアイコンから、ボリュームを開く事ができます。



### 4.4 Unix/Linux OS を使う場合

本製品は、Microsoft と MAC OS のほかに Unix ベースのシステムを、NFS サービスを通してサポートしています。

**注意:**この機能を使うユーザは、NFS の設定をしてください。

Unix で、次のコマンドを実行します。

```
mount -t nfs <本製品の IP address>:/<ネットワーク共有名> <マウントディレクトリ>
```

たとえば、本製品の IP アドレスが 192.168.0.1 で、ネットワーク共有フォルダ「public」を/mnt/pub ディレクトリの下にリンクする場合は、次のコマンドを使います。

```
mount -t nfs 192.168.0.1:/public /mnt/pub
```

**注意:**上記のコマンドを実行するには、「root」ユーザとしてログオンする必要があります。

定義したユーザ ID でログインすると、マウントしたディレクトリを使ってネットワーク共有ファイルにアクセスできます。

### 4.5 Netware サービス

Novell Netware サービスを使用するには、このオプションを有効にして Netware ネットワークのサーバ名を入力します。サーバは Novell NetWare 3.12 ファイルサーバと同様に作動します。

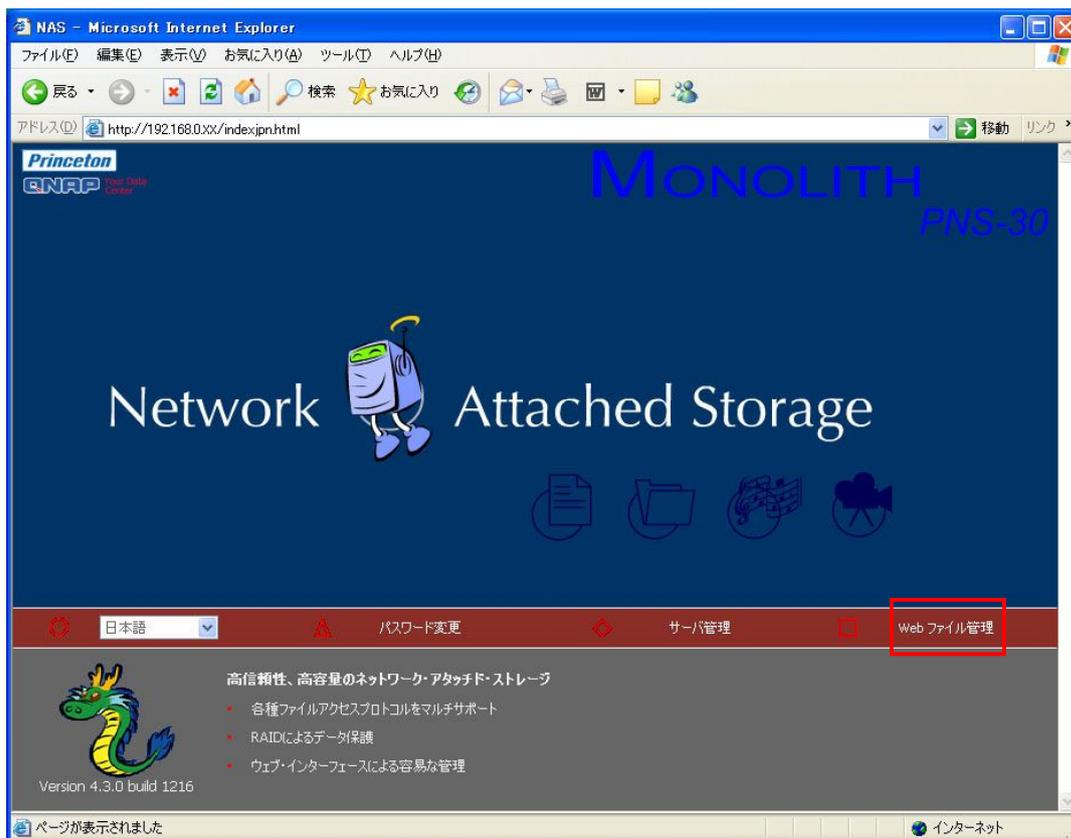
### 4.6 Web ブラウザを使う場合

本製品では、OS のサポート以外に、標準的な Web ブラウザを使って自分のデータにアクセスできる便利な Web ファイル管理インターフェースも利用できます。本製品をインターネットに接続して、パブリック IP アドレスを使用すると、どこからでもサーバのファイルにアクセスできます。詳細は、付録 B を参照してください。

## 4.7 ファイル転送プロトコル (FTP) を使う場合

本製品は複数のオペレーティングシステムで使用できるだけでなく、FTP を使った接続もサポートしています。正しいユーザ名とパスワードを入力してサーバに接続するか、ゲストとしてパブリック共有フォルダにアクセスします。

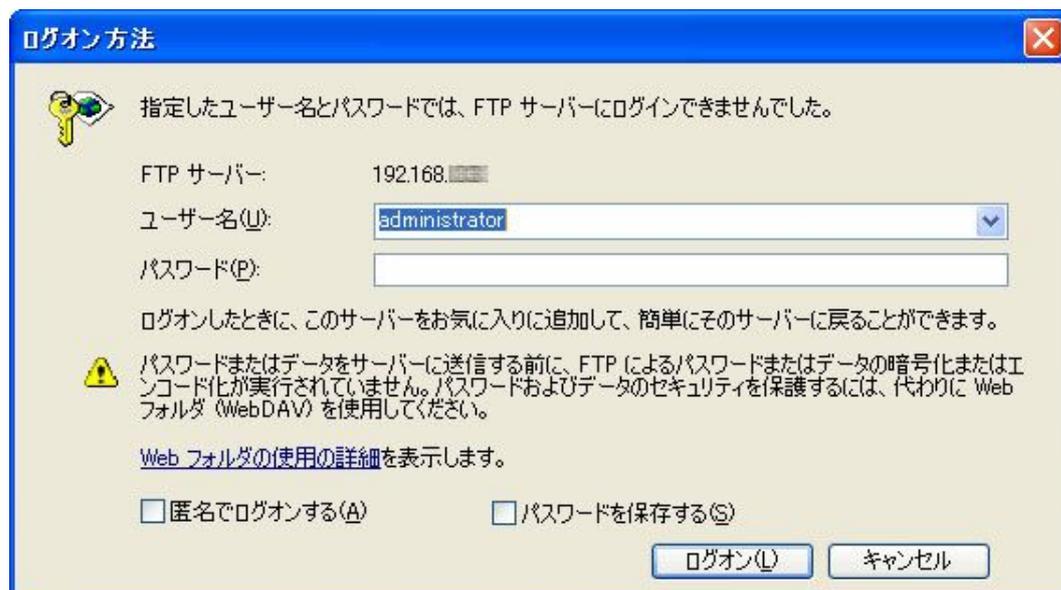
次のステップに従って FTP サービスを使用します。(例は Windows XP の場合)



FTP をクリックします。



ユーザ名とパスワードを入力します。



共有フォルダが表示されます。ファイルのドラッグアンドドロップでフォルダを管理できます。また、ファイル名の変更やファイルの削除もできます。



複数の OS との連携以外に、本製品は FTP もサポートしています。通常の FTP ソフトウェアを使用して、ユーザ名とパスワードを入力し、本製品に接続できます。ゲストユーザに公開されているネットワーク共有フォルダ public にアクセスする場合は、ユーザ名として anonymous を入力できます。

## 4.8 ネットワークプリンタの使い方

PNS30 に接続したプリンターをネットワークを通してご利用になれます。

双方向での通信はサポートしておりませんので、プリンタステータス等の双方向通信が必要となる機能はご利用になれません。

※ 対応機種は RICOH G717/G7570 のみです。対応 OS は Windows2000/XP のみです。

下記は G717 をご利用の場合のご説明となります。

- プリンタ添付のドライバソフトをクライアント PC へインストールしてください。  
ドライバソフトのインストール方法につきましては、プリンタの添付マニュアルをご参照ください。
- 先に、直接クライアント PC へプリンタを USB 接続し、正常にプリンタがご利用できる事をご確認ください。
- プリンタの電源を入れて、PNS30 の背面 USB ポートへプリンタの USB ケーブルを接続してください。

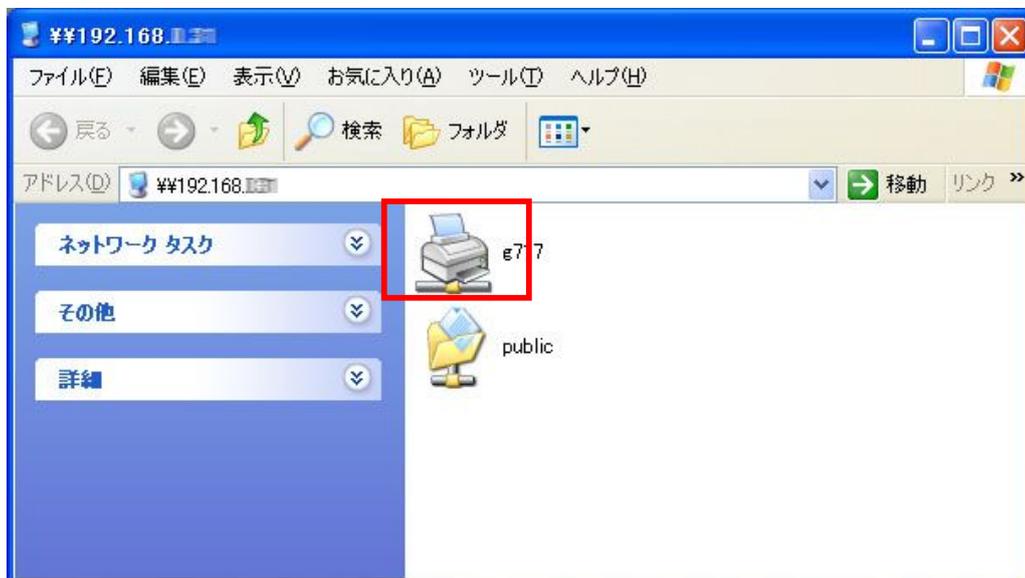


- ブラウザメニューより[ネットワーク設定]-[プリントサーバ]表示してください。  
チェックボックスを有効にて任意のネットワークプリンタ名を入力し、[適用]をクリックしてください。  
ここで入力したネットワークプリンタ名でクライアント PC のプリンタ名称が登録されます。

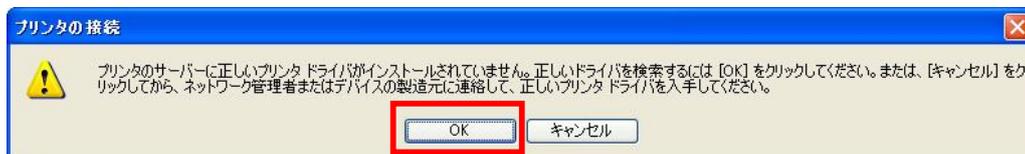
- ネットワークプリンタサーバ

<input checked="" type="checkbox"/>	ネットワークプリンタサーバを有効にする	
	ネットワークプリンタ名	<input type="text" value="G717"/>
	コメント	<input type="text" value="Printer port on NAS"/>

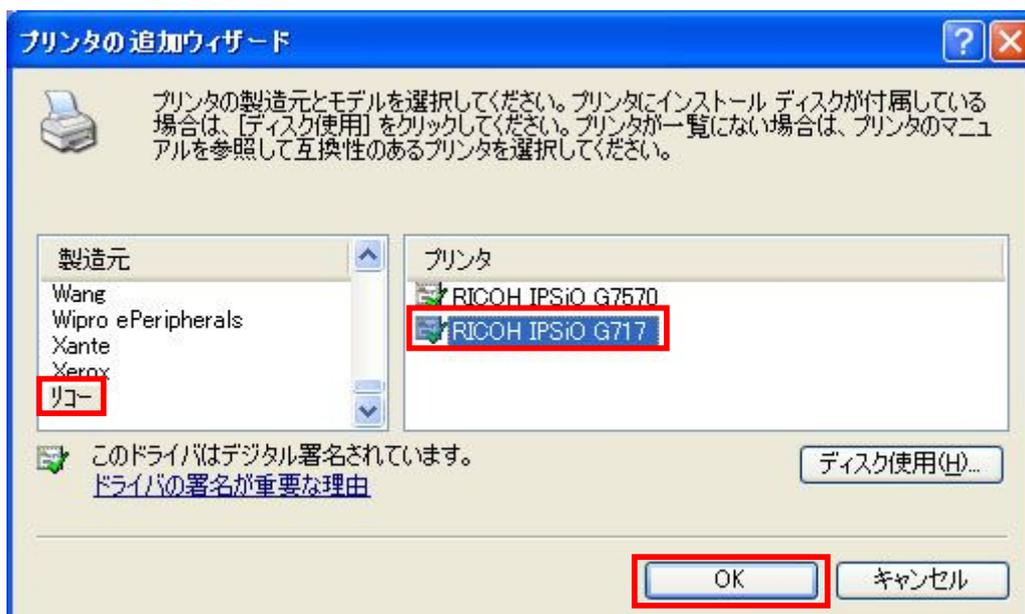
- e. クライアント PC のスタートメニューの[ファイル名を指定して実行(R)]に PNS30 の IP アドレスを入力してください。  
 ネットワークプリンタのアイコンが表示されるので、右クリックで現れるメニューから[接続]をクリックしてください。



- f. プリンタドライバを要求されます。 [OK]をクリックしてください

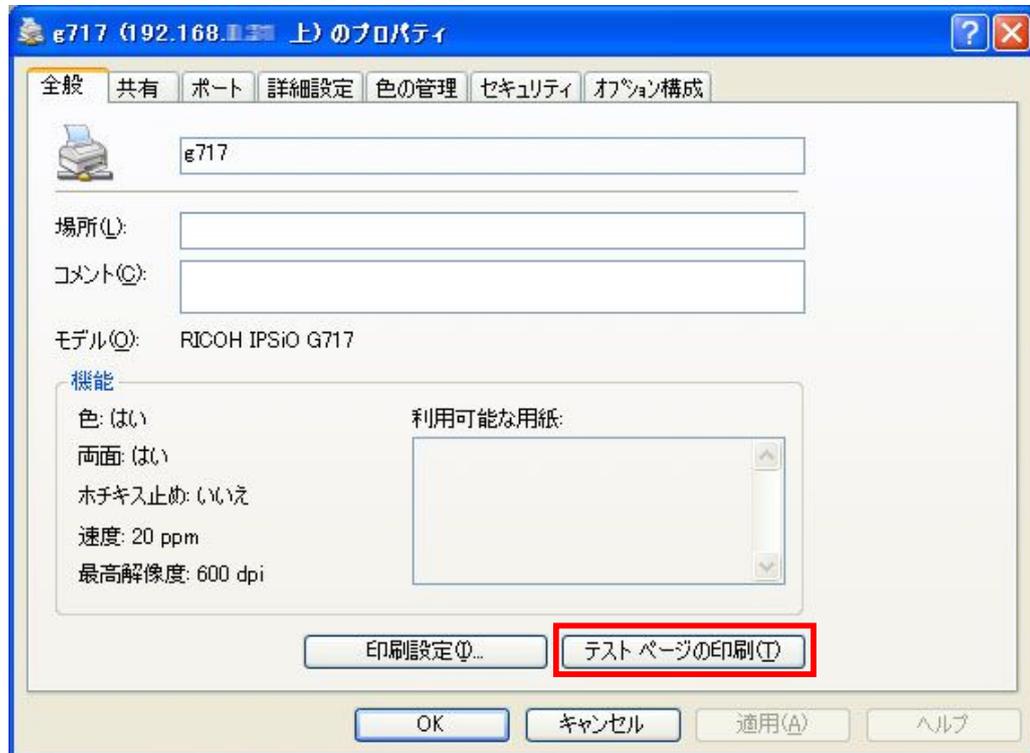


- g. プリンタの追加ウィザードが現れますので、接続したプリンタを選択し、[OK]をクリックしてください。



- h. ドライバのインストールが完了しますと、クライアント PC の [プリンタと FAX] に G717 が追加されます。

G717 のプロパティを開いて [テストページを印刷(T)] を実行してください。



テストプリントの成功でプリンタの設定は完了です。

印刷がうまく出来なかった場合は、ドライバインストールから再度設定をお願いします。

## 第 5 章 MONOLITH — 保守

本製品は 24 時間 365 日稼動しています。ここでは、システム保守の概要を示します。

### 5.1 サーバの再起動／シャットダウン

次の手順に従って本製品の再起動またはシャットダウンを行います。

すべてのアクティブな NAS ユーザに、ファイルを保存し、サーバとの接続を切るように要請します。

管理ページを開き、[システムツール]>[再起動／シャットダウン]を選択します。

[再起動]をクリックしてサーバを再起動するか、[シャットダウン]をクリックしてサーバの電源を切ります。LCD パネルからもこの操作を行えます。



### 5.2 管理者パスワードとネットワーク設定のリセット

本製品の管理者パスワードとネットワーク設定をリセットするには、次の手順に従います。

本製品のリセットボタンを数秒間押します。ピープ音が鳴ります。

デフォルトのユーザ名とパスワードで本製品にログインします。

ユーザ名 : administrator

パスワード : admin

### 5.3 ディスクの故障または異常

ディスクに故障または異常が生じた場合は、次のことを行ってください。

- (i) 異常の状態やエラーメッセージを記録します。
- (ii) 故障した本製品の使用を中止し、サーバの電源を切ります。
  - ※ 使用を中止するまえに必ず重要なデータは別途バックアップを行ってください。
- (iii) カスタマーサポートに連絡します。

**注意:** 本製品の修理は、専門の技術者が行う必要があります。自分で修理しようとししないでください。

お客様が修理を行った場合、保証の対象外となります。

ディスクの故障によるデータの損失を予防するために、重要なファイルやフォルダはバックアップを必ず行ってください。

### 5.4 停電または異常終了

停電が発生した場合や本製品が異常終了した場合、システムはシャットダウン前の状態に復旧します。再起動後、サーバが正しく機能しない場合は、次の手順に従ってください。

- (i) システム設定が失われている場合は、システムを再設定します。
- (ii) サーバの動作に異常がある場合は、カスタマーサポートに連絡してください。

上記の状況を避けるには、定期的にデータのバックアップを行い、次のことを行ってください。

5.1 節「サーバの再起動/シャットダウン」の説明に従ってサーバを再起動またはシャットダウンします。

停電が予期される場合は、すべての重要なデータをバックアップし、正しい手順でサーバの電源を切り、電源の供給が再開されるのを待ちます。

## 付録 A LCD パネル

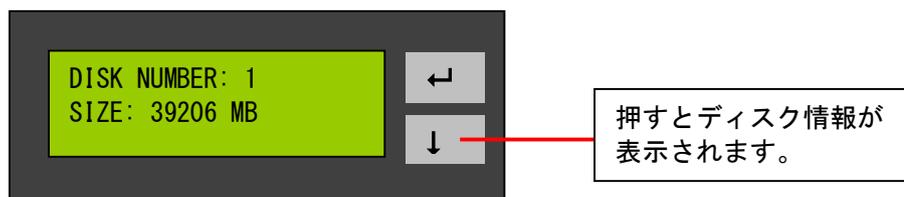
### 表示情報

本製品の電源を入れると、サーバ名と IP アドレスが表示されます。

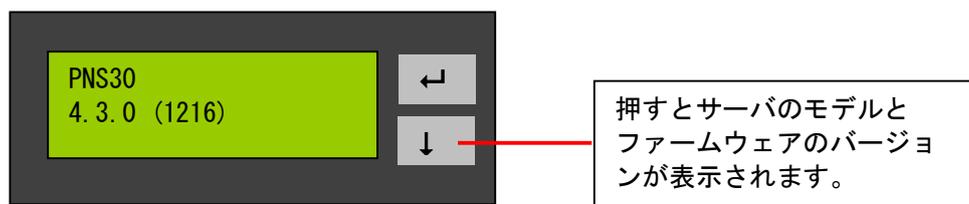


### ディスク情報とファームウェアのバージョンを確認

1. Down ボタンを押すと、ディスク番号やディスクサイズなどのディスク情報が表示されます。

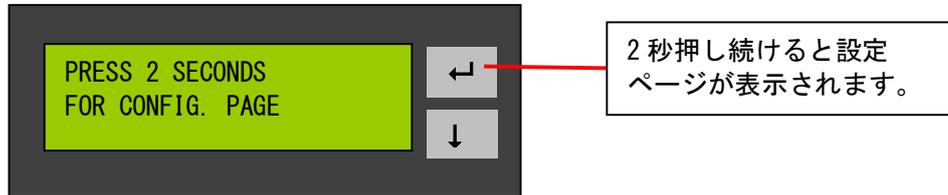


Down ボタンをもう一度押すと、サーバのモデルとファームウェアのバージョンが表示されます。

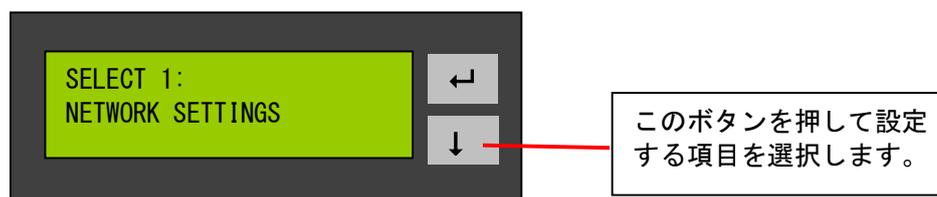


## システム設定機能

1. Enter ボタンを 2 秒押し続けると、設定ページが表示されます。



Down ボタンを押して NETWORK SETTINGS、POWER DOWN、REBOOT SYSTEM、EXIT の中から項目を選択します。



## NETWORK SETTINGS — ネットワーク設定

NETWORK SETTINGS のページを表示し、Down ボタンを押して、次のオプションのいずれかを選択します。 \*は有効に設定されている項目に表示されます。

- DHCP  
DHCP を選択すると IP アドレスを DHCP サーバより自動的に取得します。
- STATIC IP  
固定の IP アドレスを設定します。  
Enter ボタンを押して STATIC IP を選択してから IP アドレスを設定します。
  - i. SET STATIC IP  
Down ボタンを押して 0~255 の数字を入力し、Enter ボタンを押して IP アドレスの次の数字を設定します。
  - ii. SET NETMASK  
上記の手順に従ってネットマスクアドレスを設定します。
  - iii. SET GATEWAY  
上記の手順に従ってゲートウェイアドレスを設定します。
  - iv. SELECT STATIC IP  
Down ボタンを押して [YES] または [NO] を選択します。[YES] を選択すると、システムの再起動を要求されます。
- EXIT  
一つ前のメニューに戻ります。

## LCD パネル初期表示アドレス

IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	xxx.xxx.xxx.254 (x 部分は現在のセグメント情報が表示されます。)

LCD パネルから静的 IP アドレスを設定した場合、一度設定すると DHCP 設定に変更を行った場合でも、LCD パネルの静的 IP アドレス項目には、初回設定時の IP 設定が表示されるようになっています。この表示は本体をリセットすることで初期表示アドレスに戻ります。

例外的に、WEB ブラウザの管理画面や LCD パネルから、デフォルトゲートウェイに「0.0.0.0」を設定した場合は、LCD パネルには初期表示アドレスである「xxx.xxx.xxx.254」と表示されるようになっています。

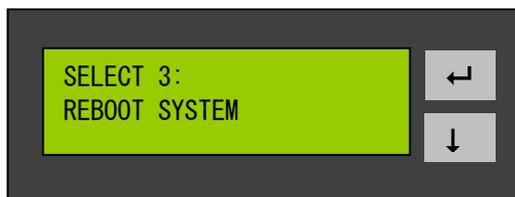
## POWER DOWN — 電源を切る

Down ボタンを押して[POWER DOWN]を選択し、Enter ボタンを押して本製品のシャットダウンを実行します。



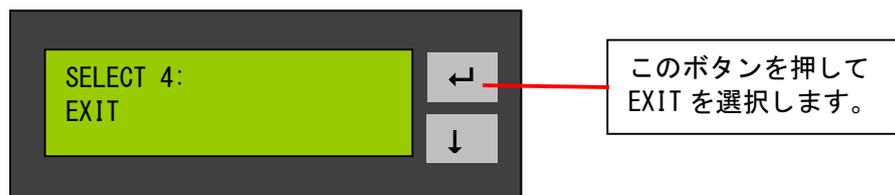
## REBOOT SYSTEM — システムの再起動

Down ボタンを押して[REBOOT SYSTEM]を選択し、Enter ボタンを押してシステムの再起動を実行します。



## EXIT — 設定ページを閉じる

Enter ボタンを押して[EXIT]を選択し、再度 Enter ボタンを押して設定ページを閉じます。



## 付録 B Web ファイル管理

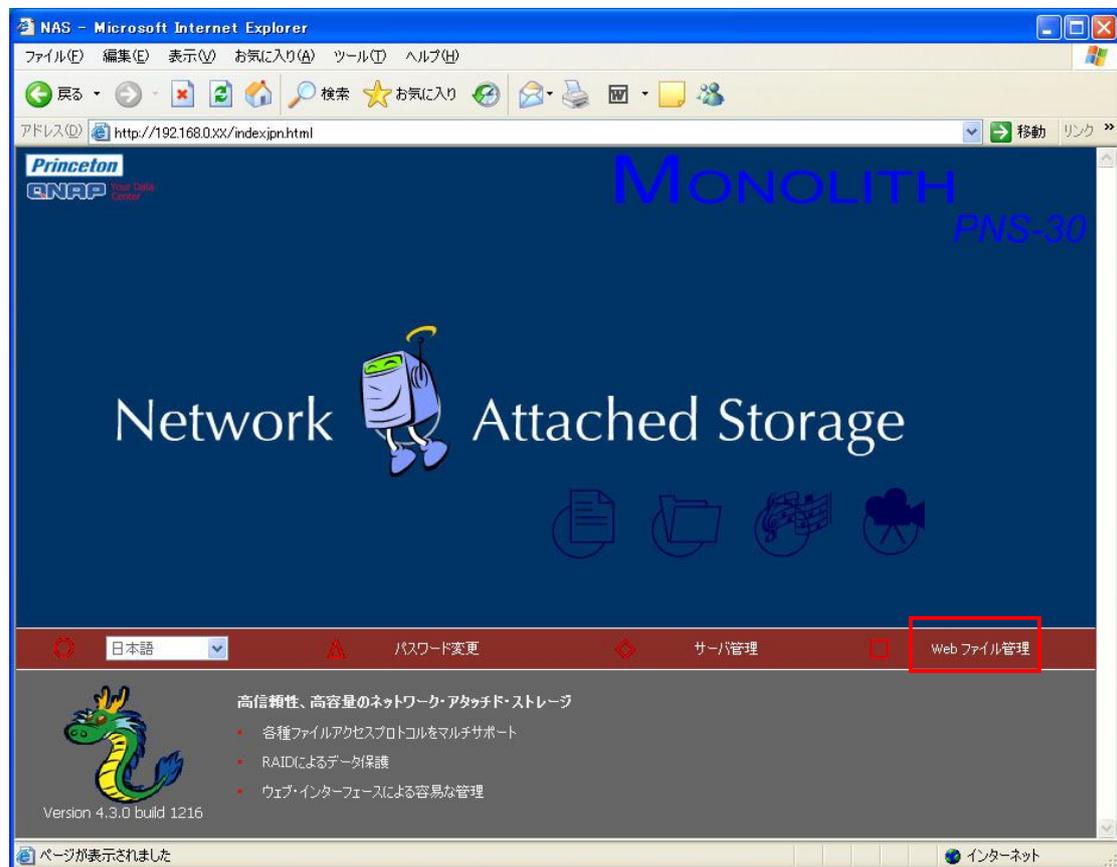
### Web ファイル管理の使用

Web ブラウザを起動して本製品のホームページを開きます。

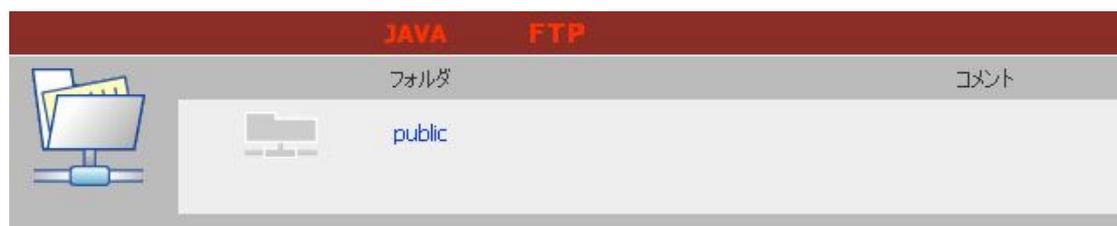
[Web ファイル管理]を選択して正しいログイン名とパスワードを入力します。

ログイン名フィールドに「guest」と入力し、パスワードは入力せずに匿名のゲストとして、本製品のネットワーク共有にアクセスすることもできます。

**注意:** Web ファイル管理を使用する前に、ネットワーク共有が作成されていることを確認します。



ファイルの管理は、[FTP]と[Java]のどちらかを選択できます。

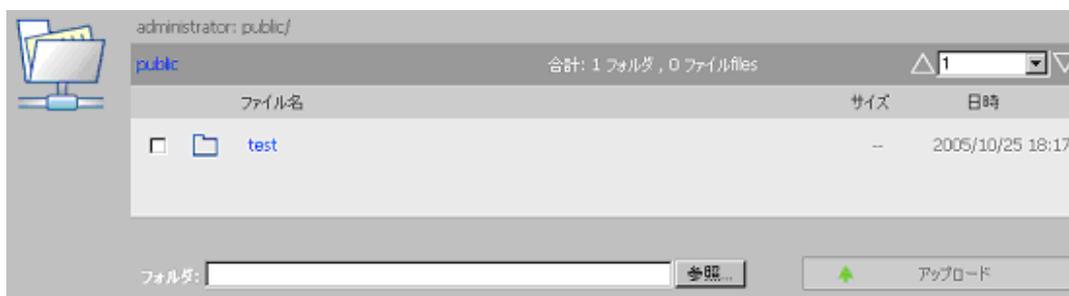


## 1. FTP での管理方法。

現在表示されているページから管理する既存のネットワーク共有を選択します。



本製品のネットワーク共有フォルダを編集できます。Web ファイル管理を使用して、ネットワーク共有のファイルやフォルダのアップロード、名前の変更、または削除ができます。



### ・ オンラインファイルの表示

Web ページに表示されているファイルのアイコンをクリックすると、そのファイルの情報が表示されます。ブラウザがファイル形式をサポートしていない場合は、ダウンロードウィンドウが自動的に表示されます。ファイルをダウンロードして、使用しているコンピュータ上で開くことができます。

### ・ フォルダの作成

- i. 新規フォルダを作成するネットワーク共有またはフォルダを選択します。
- ii. ツールバーの  (フォルダの作成) をクリックします。
- iii. 新規フォルダの名前を入力して [OK] をクリックします。

### ・ ファイル名またはフォルダ名の変更

- i. 名前を変更するファイルまたはフォルダを選択します。
- ii. ツールバーの  (名前の変更) をクリックします。
- iii. ファイルまたはフォルダの新しい名前を入力して [OK] をクリックします。

## ・ ファイルまたはフォルダの削除

- i. 削除するファイルまたはフォルダを選択します。
- ii. ツールバーの  (削除)をクリックします。
- iii. ファイルまたはフォルダの削除を実行します。

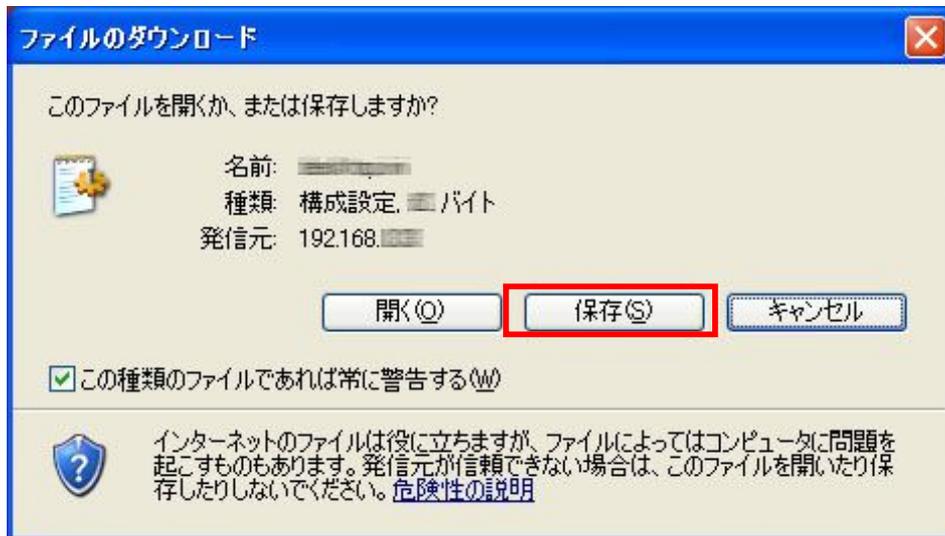
ファイルおよびフォルダをすべて削除するには、 (すべて選択)をクリックしてから  (削除)をクリックします。

## ・ ファイルのアップロード

- i. ファイルをアップロードする宛先のフォルダを開きます。
- ii. [参照]をクリックしてアップロードするファイルを選択します。
- iii. [アップロード]をクリックします。

## ・ ファイルのダウンロード

- i. ダウンロードするファイルを選択し、 をクリックします。
- ii. ファイルダウンロードメニューから、「保存(S)」を選択して指定する場所へファイルを保存してください。



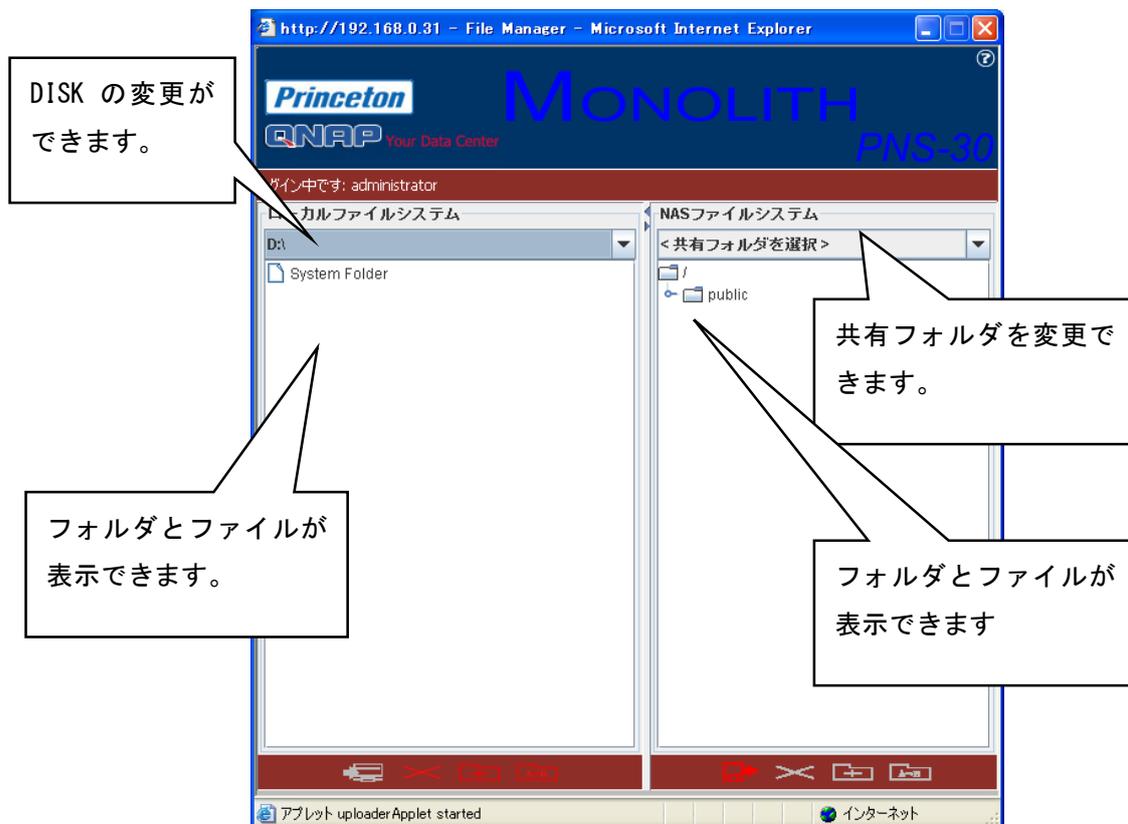
 アイコンを右クリックし、直接ダウンロードする事も可能です。

## 2. Java での管理方法

表示されているページから[Java]をクリックし、Java Web ファイルマネージャを表示させます。



Java Web ファイルマネージャが表示されます。



### ・ フォルダの作成

- i. 新規フォルダを作成するネットワーク共有またはフォルダを選択します。
- ii. ツールバーの  (フォルダの作成)をクリックします。
- iii. 新規フォルダの名前を入力して[OK]をクリックします。

### ・ ファイル名またはフォルダ名の変更

- i 名前を変更するファイルまたはフォルダを選択します。
- ii ツールバーの  (名前の変更) をクリックします。
- iii ファイルまたはフォルダの新しい名前を入力して[OK]をクリックします。

### ・ ファイルまたはフォルダの削除

- i 削除するファイルまたはフォルダを選択します。
- ii ツールバーの  (削除) をクリックします。
- iii ファイルまたはフォルダの削除を実行します。

ファイルおよびフォルダを複数同時に削除するには、「Ctrl」キーを押しながら対象をクリックし、対象となるファイル表示を反転させて  (削除) をクリックしてください。表示された共有ファイル又はフォルダ内の全ファイルを選択する場合は「Ctrl」+「A」で全て選択して  (削除) をクリックしてください。

### ・ ファイルのアップロード

- i ファイルをアップロードする宛先のフォルダを開きます。
- ii アップロードするファイルをクリックしてアップロードするファイルを選択します。
- iii  (アップロード) をクリックします。

### ・ ファイルのダウンロード

- i ファイルをダウンロードする宛先のフォルダを開きます
- ii ダウンロードするファイルをクリックしてダウンロードするファイルを選択します。
- iii  (ダウンロード) をクリックします。

### ・ Java Web ファイルマネージャの終了

Java Web ファイルマネージャの右上「×」から終了させてください。

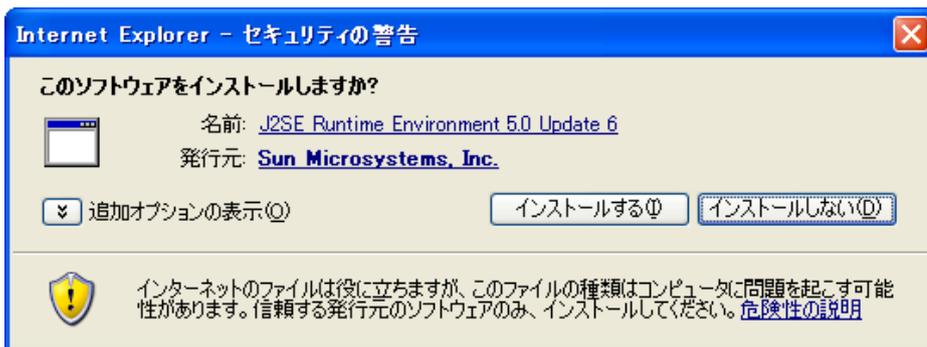
## ・ SUN Java インストール

下記のメッセージが表示されて Java Web ファイルマネージャが始まらない場合、Java をインストールする必要があります。



青字の「Download」をクリックすると、Sun Java サイトより Java インストーラーをダウンロードする事ができます。

ダウンロード終了後、インストーラーの指示に従って操作してください。



※ インストールには**セキュリティの変更が必要となります**。注意書きを確認のうえ、作業を行ってください。セキュリティの変更に承認いただけない場合は、Java Web ファイルマネージャをご利用にはなれません。

※ Java はバージョン 1.5.0 以上のみ対応となります。



インストールが正常に成功しましたら、[Java]アイコンより再度 Java Web ファイルマネージャを開いてください。

- ログアウト

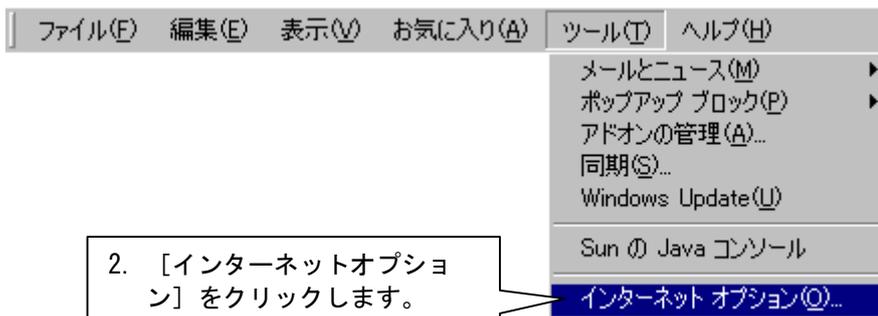
Web ファイル管理を終了する  には、(ログアウト) をクリックします。

- 名前が中国語のファイルの表示

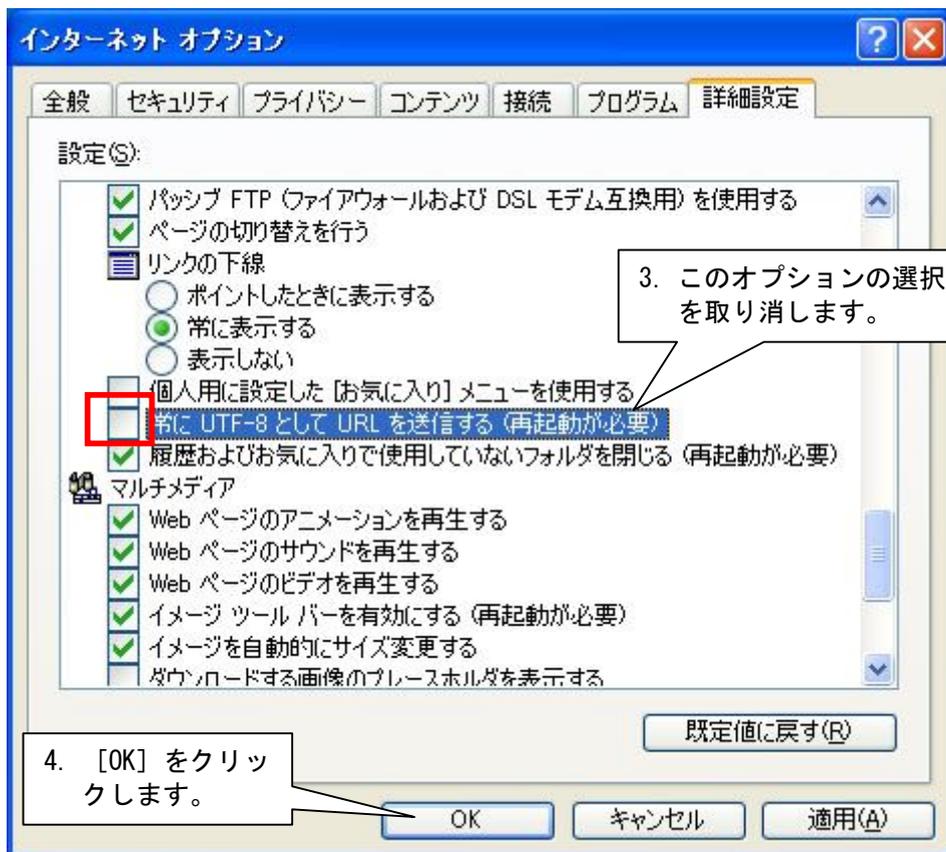
※本機能はサポート対象外となります。

名前が中国語のファイルを表示するには、ブラウザの設定を行う必要があります。Internet Explorer の場合は、次の手順に従って設定を行います。

1. IE ブラウザで[ツール]をクリックします。

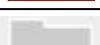
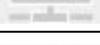


2. 「詳細」タブを選択し、「ブラウズ」項目へ変更を行います。



3. ブラウザを再起動します。

## Web ファイル管理のアイコン

アイコン	説明
	Up 一つ上のフォルダに戻る
	更新 現在のページのリロード
	ホーム ネットワーク共有リストホームページへリターン
	フォルダの作成
	ファイル名またはフォルダ名の変更
	ファイルまたはフォルダの削除
	すべて選択
	選択の取り消し
	ログアウト
	ファイルのアップロード
	ファイルのダウンロード
	フルアクセスネットワーク共有フォルダ
	読み取り専用ネットワーク共有フォルダ
	異常のあるネットワーク共有フォルダ

## 付録C クイックインストールウィザード

クイックインストールウィザードにより、ローカルネットワーク内で使用できる当社製品(※)を検索し、サーバ名、IP アドレス、ワークグループなどを表示できます。また、ディスク名、日付、時刻なども、クイックインストールウィザードで設定できます。

### スクリーンショット

名前	IPアドレス	ワークグル...	バージョン
PNS-30	192.168.0.XX	NAS	4.3254

設定(S) 詳細(D) ドライブの指定(M) 更新(R) ヘルプ(H) 閉める(Q)

(※) 検索対象となる NAS 製品は PNS-xx シリーズ及び NAS-xxxx シリーズが対象となります。

## 操作

### 1. 本製品の設定

クイックインストールウィザードに表示されている本製品を選択し、**[設定]**をクリックします。管理者パスワードを入力します。



ログインできると、次の画面が表示されます。設定値を入力し、**[OK]**をクリックします。

システムの設定

システム

名前 PNS-30

日付(月/日/年) 01 / 25 / 20

時間(時:分:秒) 12 : 42 : 38

TCP/IP

IPアドレスを自動的に取得

IPアドレスを指定する

IP アドレス 192 168 0 1

サブネットマスク 255 255 255 0

ゲートウェイ 0 0 0 0

確認(O) キャンセル(C)

本製品の名前、日付、時刻を設定します。14文字を超えることはできません。

システムは自動的に IP アドレスを取得します。

接続に固定 IP アドレスを使用するには、サーバの IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力します。

さらに詳細なシステム設定を行う場合は、Web ブラウザを使って本製品の管理ページにログインします。

**注意:** ネットワーク設定変更後、本製品を再起動しなければならないことがあります。

## Princeton Monolith Series

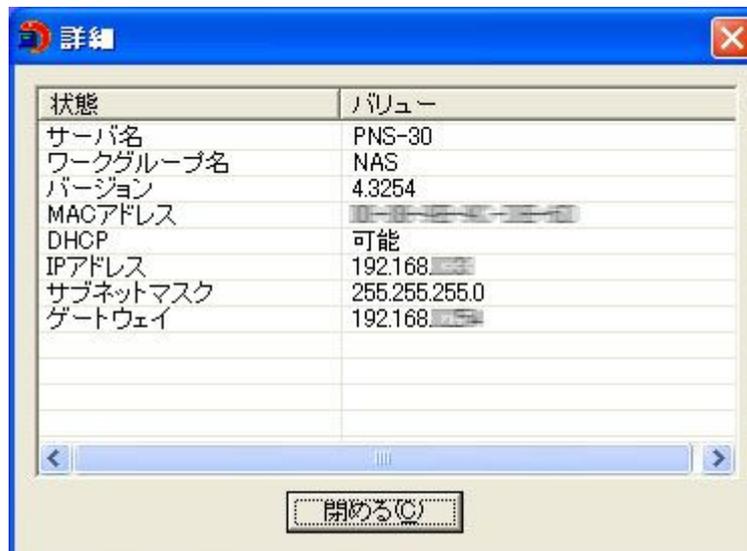
本製品の詳細を表示する

- a. クイックインストールウィザードで使用できる本製品を選択し、[詳細]をクリックします。

次の画面が表示されます。



- b. 詳細内容をご確認されたら、[閉める] でメニューを閉じてください。

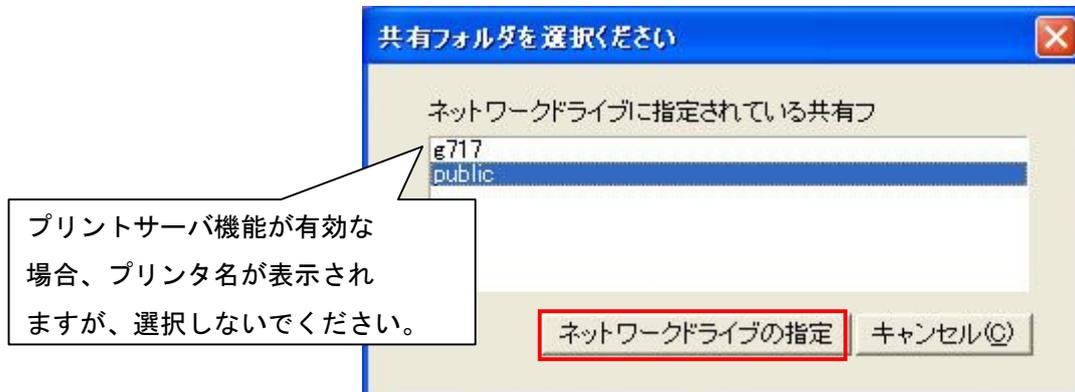


ネットワークドライブの割り当て

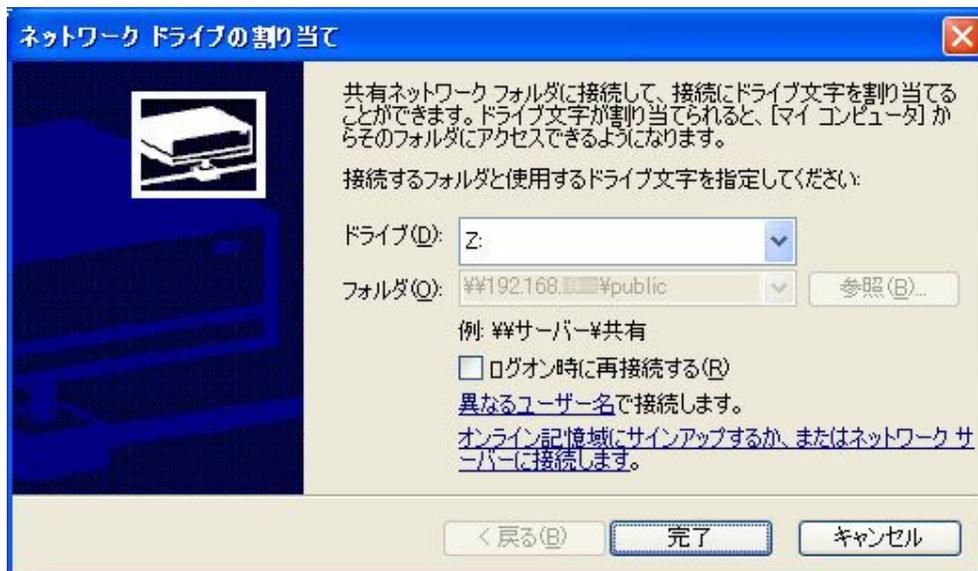
- a. 本製品を選択して、[ドライブの指定(M)]をクリックします。



- b. 接続する PNS30 を選択し、[ネットワークドライブの指定]をクリックします。



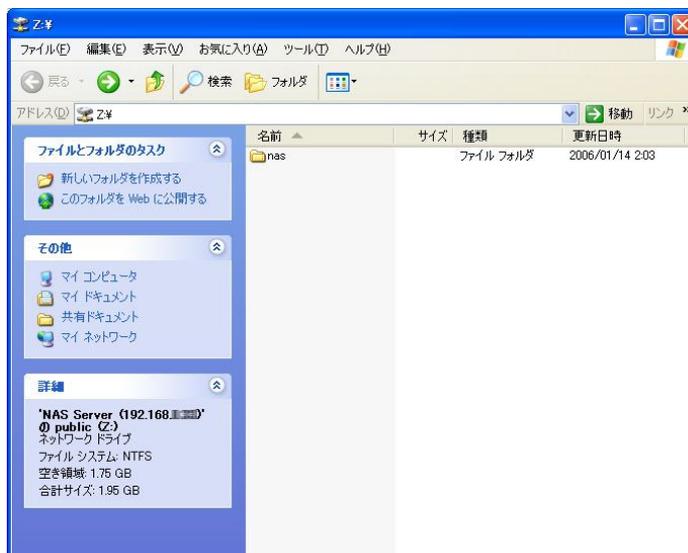
- c. ドライブ番号の指定や、複数ユーザーでのご利用をされない場合は、初期値のまま [完了] を選択してください。



- d. PNS30 へ接続するためのユーザ ID、パスワードを入力し、[OK] をクリック  
します。



- e. PNS30 へ接続すると WindowsOS からネットワークドライブとしてご利用になります。



## Princeton Monolith Series

### 更新

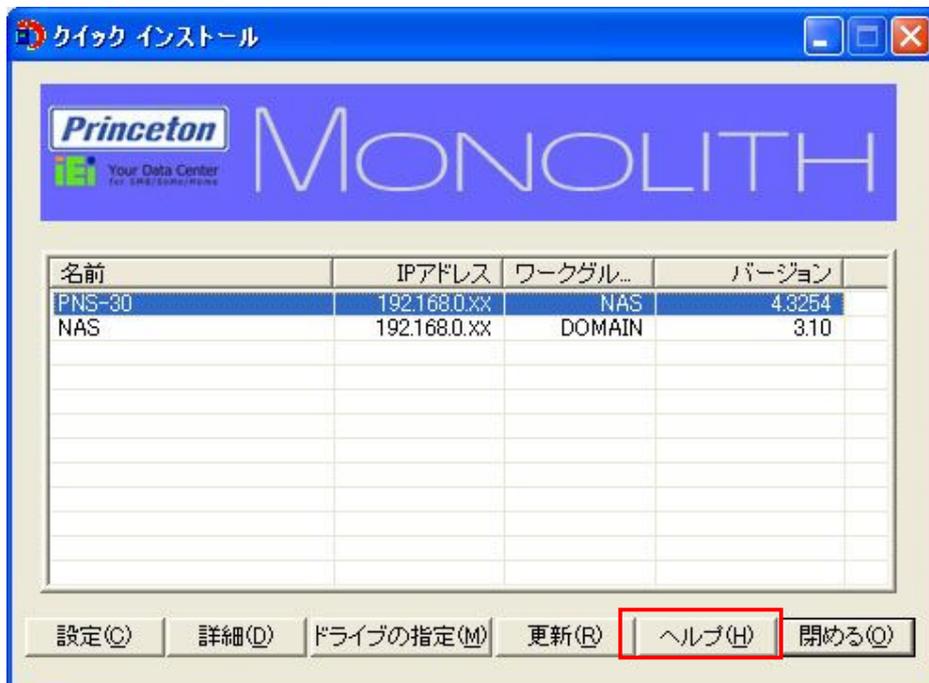
同じネットワーク内の使用可能なプリンストン NAS 製品を再度検索します。

検索結果を更新するには、[更新]をクリックして、ネットワーク内の使用可能なすべてのサーバを表示します。



### ヘルプ

[ヘルプ]をクリックして、クイックインストールウィザードの使用説明を表示します。

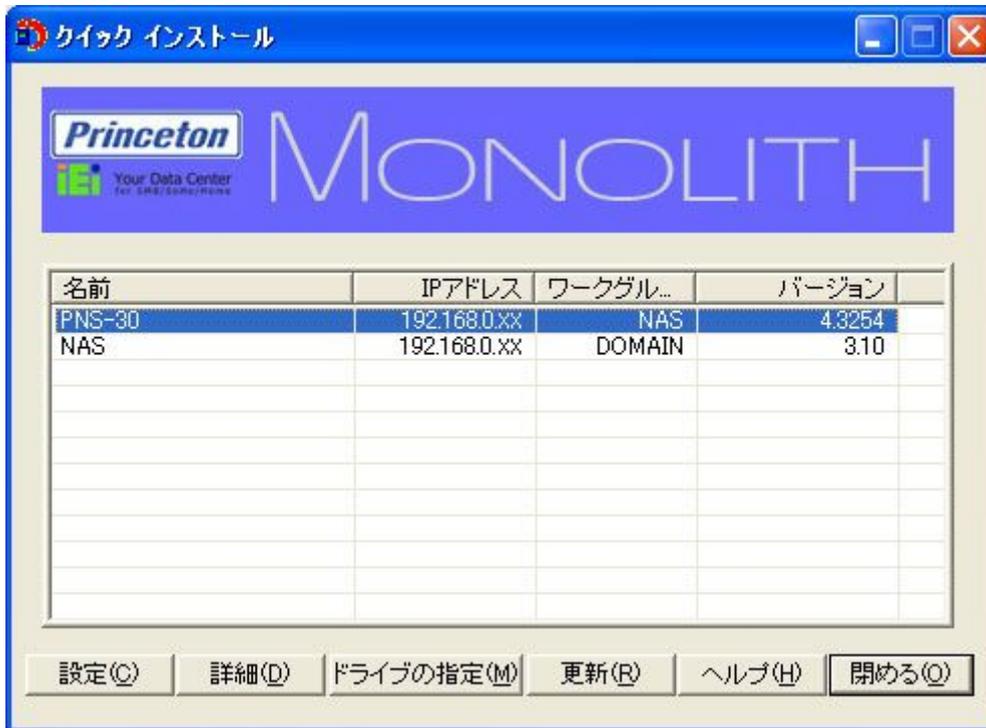


## Princeton Monolith Series

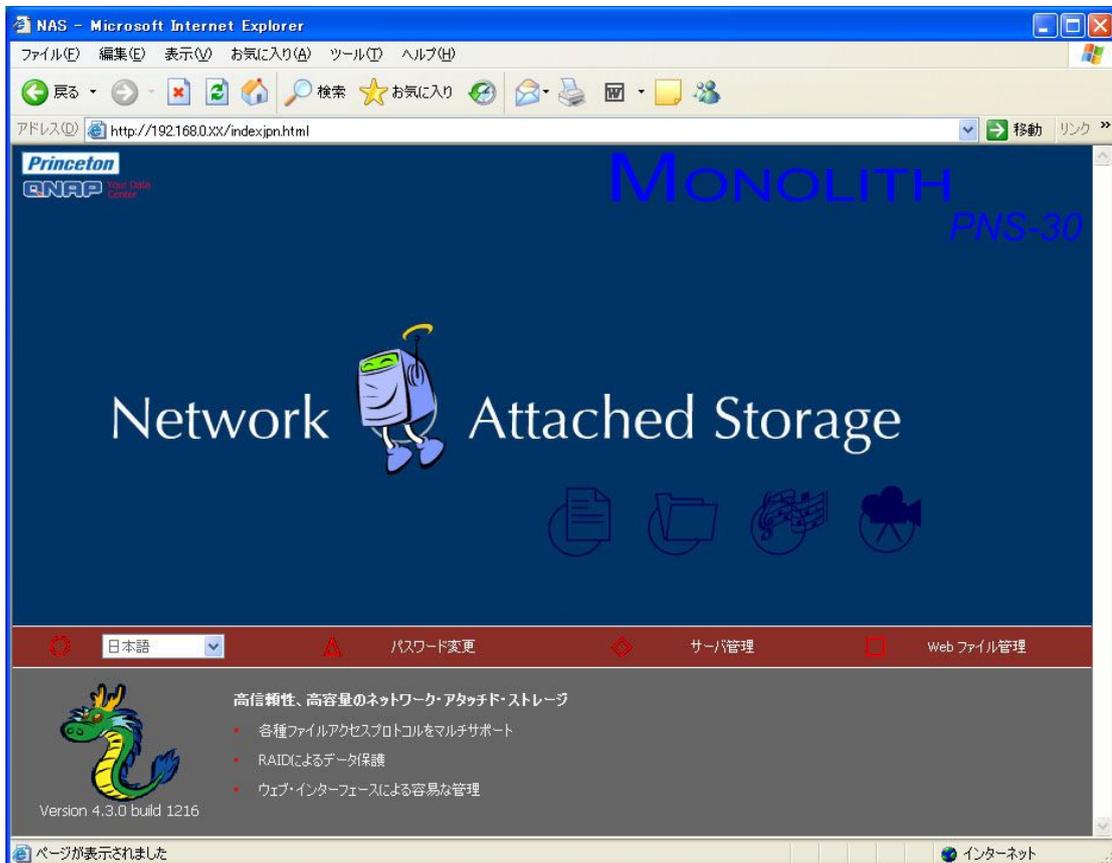
トップメニューの表示

本製品のホームページを開きます。

本製品をダブルクリックして管理ページに進みます。



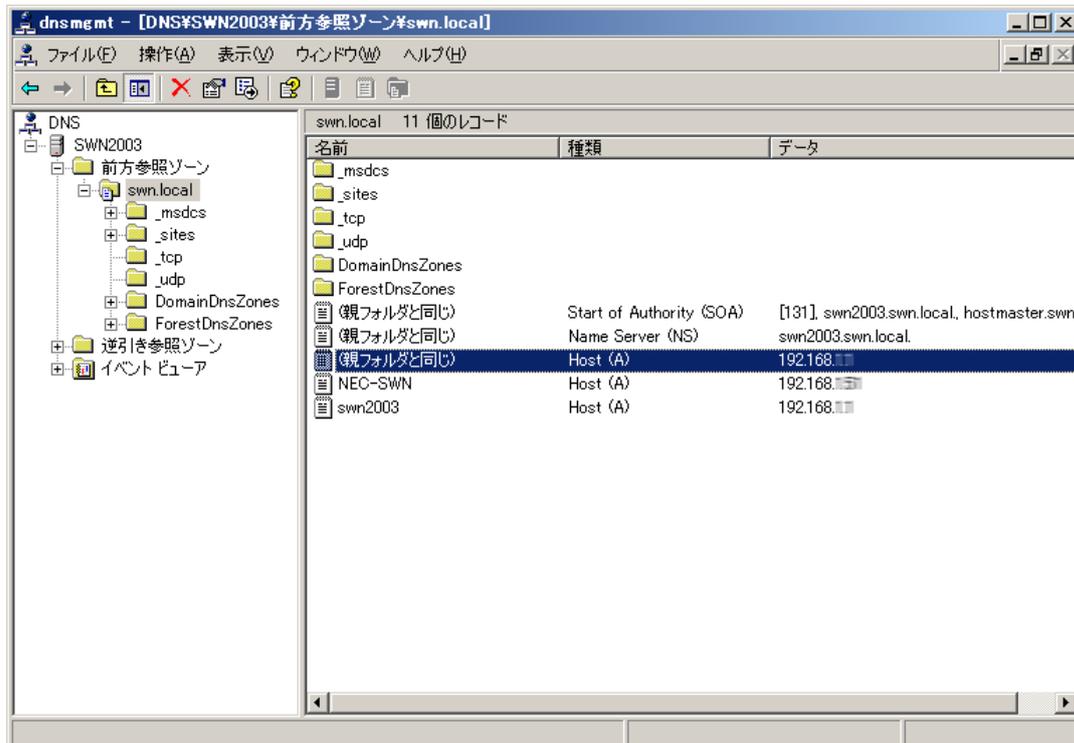
ブラウザにて PNS30 の Web コンフィグレーション Top ページが表示されます。



## 付録 D AD 認証の設定

「swn2003.swn.local」という AD (Active Directory) 環境の設定を例とします。

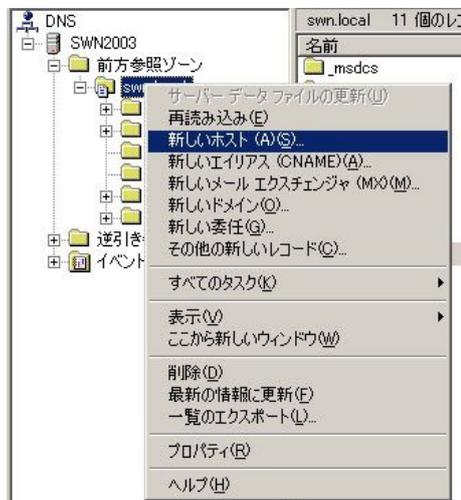
AD サーバの DNS の設定を行います。また DNS 設定は 2 個以上の設定が必要となります。



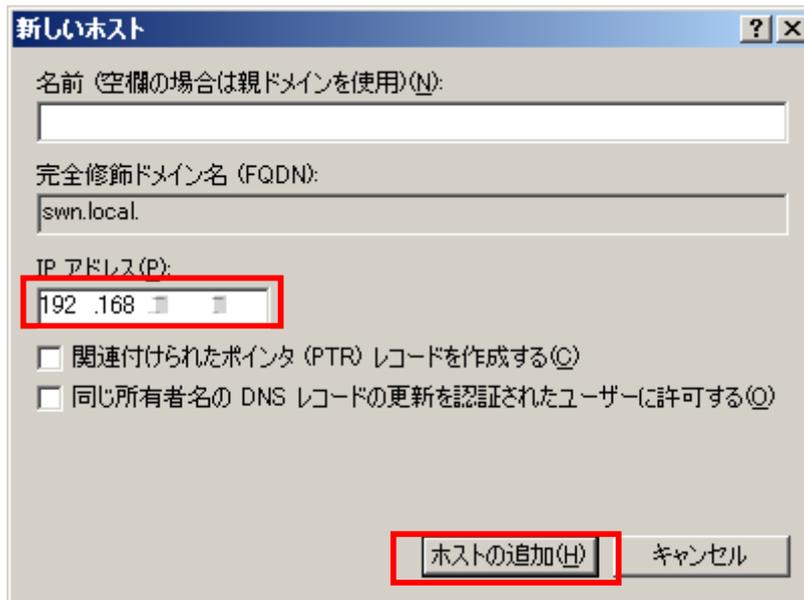
AD サーバ用に 1 つ (swn2003 Host(A)) と、ドメイン用に 1 つ (親ホルダの複製 Host(A)) の計 2 つ新しいホストを作成します。

DNS 設定、A レコード追加作成方法。

- “swn.local”の右クリックメニューより、[新しいホスト(A)(S)]をクリックしてください。



- b. AD サーバーの IP アドレスを入力し、[ホストの追加]をクリックしてください。



新しいホスト

名前 (空欄の場合は親ドメインを使用)(N):

完全修飾ドメイン名 (FQDN):  
swn.local.

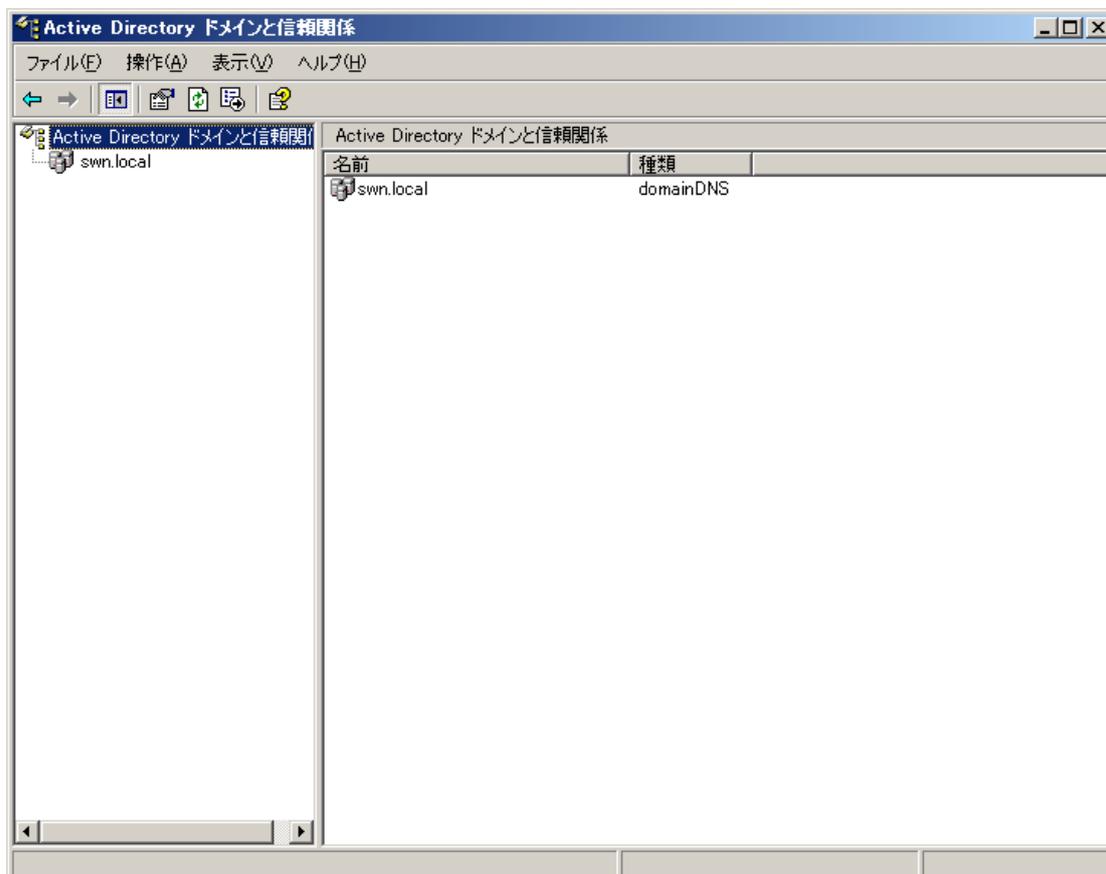
IP アドレス (P):  
192.168

関連付けられたポインタ (PTR) レコードを作成する(O)

同じ所有者名の DNS レコードの更新を認証されたユーザーに許可する(O)

ホストの追加(H) キャンセル

- c. 「swn.local」が有効になっていることを確認してください。



- d. クライアント PC の DNS 設定を AD サーバーの IP アドレスに設定してください。

## NAS の Windows サーバ 2003 Active Directory ドメインへの追加

[ネットワーク設定]の[TCP/IP 設定]を開きます。

IP アドレスを手動設定に変更し、任意の IP アドレス及びネットマスク、デフォルトゲートウェイ、プライマリ DNS サーバの IP アドレスを入力し、適用をクリックします。

この DNS サーバを通じて AD ドメインを問い合わせることができます。

※ 下記の設定例では AD サーバ IP アドレスは 192.168.1.1 としています。

The screenshot shows the Windows Network Configuration utility. On the left, a sidebar lists network settings: TCP/IP設定 (selected), Microsoftネットワーク, Appleネットワーク, Unix/Linux NFS, NetWareサービス, Webサービス, FTPサービス, プリンタサーバ, and 設定を全て表示. The main window is titled 'TCP/IP設定' and shows connection options: 'フェイルオーバー' (unselected) and 'ロードバランシング' (selected). The network speed is set to 'auto-negotiate'. A 'ロードバランシング' dialog box is open, showing manual configuration options. The 'IPアドレスをDHCPによる自動取得' option is unselected, and '手動設定の使用' is selected. The fields are filled with: 指定のIPアドレス: 192.168.1.52; ネットマスク: 255.255.255.0; デフォルトゲートウェイ: 192.168.1.254; プライマリDNSサーバ: 192.168.1.1; セカンダリDNSサーバ: 0.0.0.0. Below this, the 'DHCPサーバを有効にする' option is unselected, with fields for start IP (192.168.0.100), end IP (192.168.0.200), and lease time (1 day, 0 hours). A red box highlights the manual configuration section, and another red box highlights the '適用' (Apply) button at the bottom right.

[ネットワーク設定]の[Microsoft ネットワーク]を開きます。[AD ドメインメンバ]を有効にして、このドメインへの管理者アクセス権のあるドメイン名とドメインユーザ名を入力します。

入力が終わりましたら[適用]をクリックしてください。

Microsoftネットワーク

- Microsoftネットワークを有効にする
  - スタンドアロンサーバー
  - NTドメインメンバー
  - ADドメインメンバー

サーバーについての説明: NAS Server  
 ワークグループ名: SWN  
 ドメイン名: swm.local  
 ドメインユーザー名: Administrator  
 パスワード: ●●●●●●

WINSサーバを有効にする  
 指定のWINSサーバの使用  
 WINS IPアドレス: [ ][ ] . [ ][ ] . [ ][ ] . [ ][ ]  
 ドメインマスタ

**注意:**

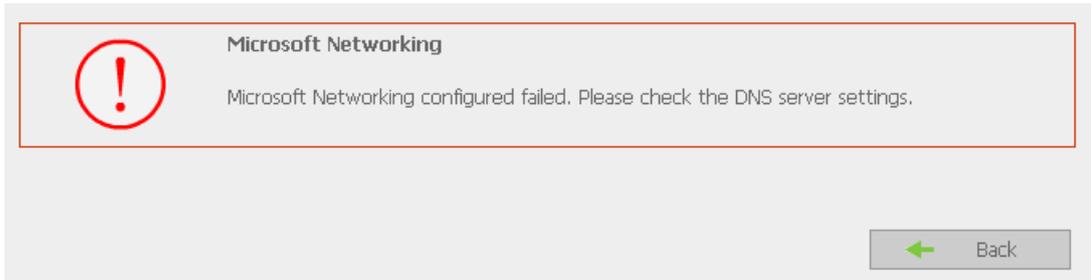
ネットワーク管理者より、指定したドメインへの管理者アクセス権のあるユーザ名であることを確認してください。

ドメイン参加を[ネットワーク設定]-[設定を全て表示]を開き、[ネットワーク設定]タブから確認してください。

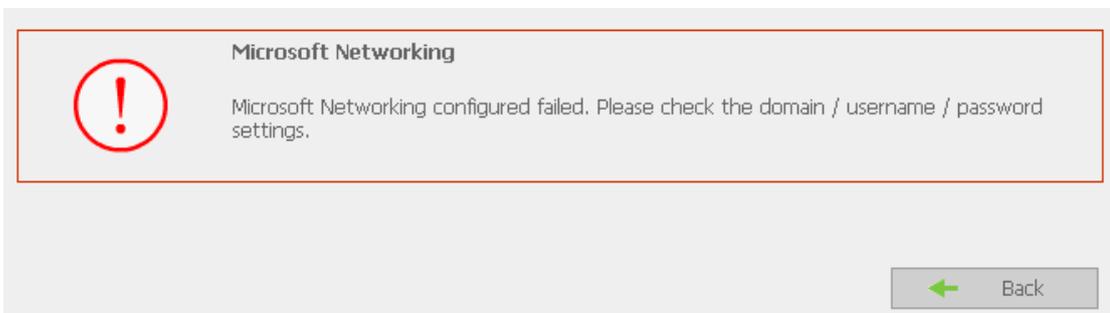
設定を全て表示

ネットワーク	ネットワーク設定	その他
<b>Microsoftネットワーク</b>		
有効にする	YES	
サーバータイプ	ADドメインメンバー	
ドメイン名	swm.local	
WINSサーバを有効にする	NO	
ドメインマスタを有効にする	NO	
<b>Appleネットワーク</b>		
有効にする	YES	
ゾーン名	*	
<b>Unix/Linux NFS</b>		
有効にする	YES	
<b>Webファイル管理</b>		
有効にする	YES	
<b>FTP</b>		
有効にする	YES	
ポート番号	21	
最大制限	30	
<b>NetWareサービス</b>		
有効にする	YES	

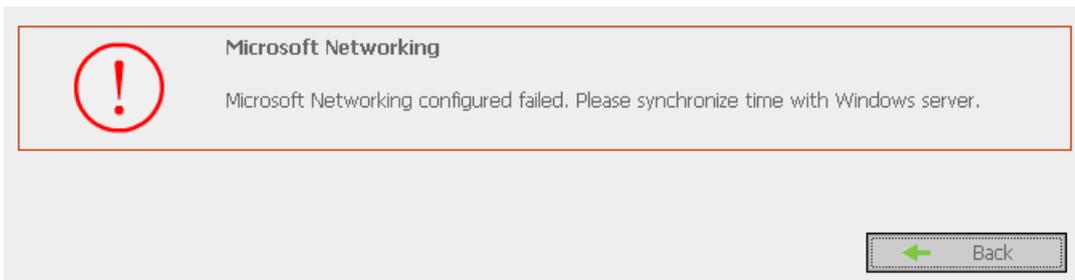
手順 2 の設定を適用した後に次のメッセージが表示されたら、DNS IP をチェックしてください。



手順 2 の設定を適用した後に次のメッセージが表示されたら、ドメイン名、ドメインユーザ名およびパスワードをチェックしてください。



手順 2 の設定を適用した後に次のメッセージが表示されたら、時間帯設定をチェックしてください。追加する NAS の時間と AD サーバの時間の差が 5 分以内であることを確認します。時間の差が 5 分以上の場合は、ドメインメンバに追加できません。



NAS をドメインメンバに加えられたら、[ユーザ管理]ページにドメインユーザとローカルユーザの一覧を表示できます。

[ネットワーク共有管理]の[アクセス制御]画面を開き、AD ユーザに対して利用可能なすべてのネットワーク共有へのアクセス制御権を設定します。

## AD ユーザとしてサービスにアクセス

FTP、Network Neighborhood、Apple Talk などのサービスに AD ユーザのアカウントでアクセスするには、ログインするときにユーザ名の前にドメイン名¥を付加します。

**ログイン方法**

指定したユーザー名とパスワードでは、FTP サーバーにログインできませんでした。

FTP サーバー: 192.168.1.1

ユーザー名(U): administrator

パスワード(P):

ログインしたときに、このサーバーをお気に入りに追加して、簡単にそのサーバーに戻ることができます。

パスワードまたはデータをサーバーに送信する前に、FTP によるパスワードまたはデータの暗号化またはエンコード化が実行されていません。パスワードおよびデータのセキュリティを保護するには、代わりに Web フォルダ (WebDAV) を使用してください。

[Web フォルダの使用の詳細を表示します。](#)

匿名でログインする(A)       パスワードを保存する(S)

ログイン(L)      キャンセル

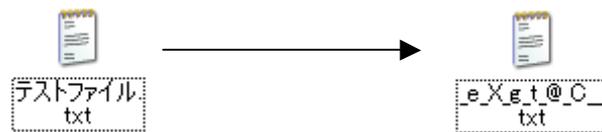
### 注意:

再度 AD ドメインに追加するには、[Microsoft ネットワーク]のセクションで NAS をスタンドアロンサーバとして設定する必要があります。NAS を AD ドメインに追加する前に、[ユーザ管理]のすべてのドメインユーザが削除されていることを確認してください。

## 付録 E 「Unicode」と「日本語」について

本製品に 2 バイト文字を使った名称のフォルダやファイルを保存するにあたり、言語設定を「Unicode」または「日本語」に設定する必要があります。言語設定方法については、「3.5 システム設定」項の「言語設定」をご参照ください。

どちらの設定にしても、2 バイト文字を使った名称のフォルダやファイルを保存することは出来ませんが、後から設定を変更した場合、「Unicode」と「日本語」設定では文字コードが異なるため、すでに保存してある 2 バイト文字を使った名称のフォルダやファイルは、文字化けを起こします。



日本語設定時に保存したファイルを、後から  
Unicode 設定に変更すると文字化けを起こす

後から設定を変更したい場合は次の手順を行う必要があります。

1. クライアント PC などに、NAS に保存しているファイルを全てバックアップします
2. 設定情報バックアップ機能で、共有フォルダ設定情報をバックアップします（「3.9.9 設定のバックアップ／リストア／リセット」をご参照ください）
3. “ディスクボリュームのフォーマット”などでデータを全て削除します（「3.6 ディスク設定」をご参照ください。）
4. 言語設定をご希望に合わせて変更します
5. 2 でバックアップした共有フォルダ設定情報をリストアします
6. バックアップしたデータを全て書き戻して、設定は完了です

なお、出荷時の設定は、将来機種とのリモートレプリケーションの互換性を考慮して Unicode を初期設定として出荷しておりますが、機能によって制限がございますのでご注意ください。制限事項、注意事項は次のとおりです。

- ・ ウィルススキャン機能：Unicode 設定に対応していません。
- ・ リモートレプリケーション：対抗機に言語設定を合わせる必要があります。※

※PNS40TS および PNS01S の「日本語」設定は、文字コードが Unicode になりますので、本機も「Unicode」に設定してください。

## 付録 F Windows Vista でご使用の際のご注意

Windows Vista の文字フォントは JIS2004 (JIS X 0213:2004) 対応となりました。それに比べ従来の WindowsOS では JIS90 (JIS X 0208) が採用されております。

JIS90 に対して、JIS2004 で字体が変更された文字と追加された文字（環境依存文字）があり、それが原因で文字化けが発生することがございます。

この点から、弊社 NAS 製品を Windows Vista と従来 WindowsOS 混在環境にて使用される際に、以下の対策が必要となります。

### ●Windows XP との混在環境

WindowsXP では JIS90 を採用していることから、WindowsXP を JIS2004 に対応させるか、Windows Vista を JIS90 に対応させるか、いずれかの対策が必要になります。

### Windows® XP を JIS2004 に対応させる場合

Microsoft 社より Windows XP 向けの JIS2004 対応パッケージがリリースされておりますので、こちらをインストールしてください。

■Windows XP および Windows Server 2003 向け JIS2004 対応 MS ゴシック & MS 明朝フォントパッケージについて

[http://www.microsoft.com/japan/Windows/products/WindowsVista/jp\\_font/jis04/default.mspX](http://www.microsoft.com/japan/Windows/products/WindowsVista/jp_font/jis04/default.mspX)

ただし、JIS90 に対して JIS2004 で追加された環境依存文字については、このフォントパッケージをインストールしても、WindowsXP から正常に表示できない場合がございますので、これらの文字はご使用をお控えください。

JIS2004 で追加された環境依存文字

俱 剝 叱 吞 噓 妍 屏 并 瘦 繫

### Windows® Vista を JIS90 に対応させる場合

Microsoft 社より Windows Vista 向けの JIS90 対応パッケージがリリースされておりますので、こちらをインストールしてください。

■Windows Vista 向け JIS90 互換 MS ゴシック・明朝フォントパッケージについて

[http://www.microsoft.com/japan/Windows/products/WindowsVista/jp\\_font/jis90/default.mspX](http://www.microsoft.com/japan/Windows/products/WindowsVista/jp_font/jis90/default.mspX)

### ●Windows 98SE / Me / 2000 との混在環境

Windows 98SE/Me/2000 も WindowsXP 同様 JIS90 を採用しております。しかしながら、Windows 98SE/Me/2000 向け JIS2004 パッケージがリリースされていないことから、Windows Vista を JIS90 に対応させる必要があります。

■Windows Vista 向け JIS90 互換 MS ゴシック・明朝フォントパッケージについて

[http://www.microsoft.com/japan/Windows/products/WindowsVista/jp\\_font/jis90/default.mspX](http://www.microsoft.com/japan/Windows/products/WindowsVista/jp_font/jis90/default.mspX)